

久留米市
久留米市民の事故やケガなどについての
実態調査

—報告書—



平成27年3月

久留米市

目次

I. 調査の概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査設計及び回収結果	3
3. 調査結果の見方	3
II. 調査回答者の属性	7
1. 調査回答者の属性	7
(1) 性別	7
(2) 年代	7
(3) 居住校区	8
III. 調査結果の概要	11
1. 過去のケガについて	11
(1) 過去1年間にケガをした経験	11
(2) ケガをした日時	11
(3) ケガの原因	12
(4) ケガをした時にしていたこと	13
(5) ケガをした場所	14
(6) ケガをした状況・きっかけ	15
(7) 受けたケガに関与したもの	16
(8) ケガをした部位	17
(9) ケガの内容	18
(10) 日常生活において実践している安全対策	19
2. 「交通安全」について	20
(1) 主な移動手段	20
(2) 交通安全のため実践していること	21
3. 「幼児・児童と保護者の状況について」	22
(1) 子どもの年齢	22
(2) 子どもが自宅でケガをした状況（過去1年間）	22
(3) 家庭内における安全対策の認知度と実践度	23
(4) 子どもが自宅以外でケガをした状況（過去1年間）	24
4. 「高齢者の状況」について	25
(1) 高齢者の属性	25
(2) 高齢者の要介護認定の有無	25
(3) 高齢者の転倒について	26
(4) 転倒防止の工夫	27
(5) 高齢者の自宅での転倒（過去1年間）	28
(6) 高齢者の歩行中や自転車乗車時の事故（過去1年間）	29

IV. 調査結果の詳細	33
1. 過去のケガについて	33
(1) 過去1年間にケガをした経験.....	33
(2) ケガをした日時	35
(3) ケガの原因.....	36
(4) ケガをした時にしていたこと.....	39
(5) ケガをした場所	43
(6) ケガをした状況・きっかけ	47
(7) 受けたケガに関与したもの	51
(8) ケガをした部位	55
(9) ケガの内容.....	56
(10) 日常生活において実践している安全対策	59
2. 「交通安全」について.....	64
(1) 主な交通手段.....	64
(2) 交通安全のために実践していること.....	67
3. 「幼児・児童と保護者の状況」について.....	71
(1) 子どもの年齢	71
(2) 子どもが自宅でケガをした状況（過去1年間）	72
(3) 家庭内における安全対策の認知度と実践度.....	75
(4) 子どもが自宅以外でケガをした状況（過去1年間）	79
4. 「高齢者の状況」について.....	82
(1) 回答者本人が高齢者かどうか.....	82
(2) 対象となる高齢者の属性.....	82
(3) 高齢者の日常生活にかかわる動作について.....	84
(4) 転倒防止のための工夫.....	87
(5) 高齢者の自宅での転倒（過去1年間）	92
(6) 歩行中や自転車乗車中の事故について（過去1年間）	101
V. 総括	107
(1) 「過去のケガ」について.....	107
(2) 「日常生活」における安全対策について	107
(3) 「交通安全」について.....	108
(4) 「幼児・児童と保護者の状況」について	109
(5) 「高齢者の状況」について	110
VI. 調査票	113

I. 調査の概要

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本市は、ケガや事故の予防を目的とした市民、関係機関、団体との協働による「セーフコミュニティ」活動に取り組むことにより、「みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり」を目指している。本調査は、事故やケガの予防対策を立てるための基礎資料として、市民の事故やケガの経験・安全についての考え方などを把握することを目的とし、実施するものである。

2. 調査設計及び回収結果

調査対象者	久留米市在住の満 20 歳以上の男女
抽出方法	住民基本台帳から層化無作為抽出
調査方法	郵送配布－郵送回収
調査数	2,500 人
有効回収数 (有効回収率)	1,400 人 (56.0%)
調査期間	平成 26 年 11 月 10 日～平成 26 年 11 月 25 日
調査主体	久留米市 協働推進部 安全安心推進課

3. 調査結果の見方

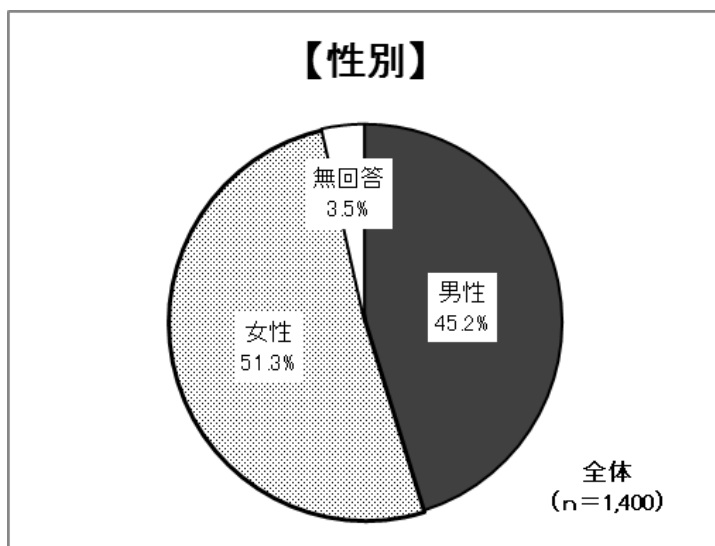
- (1) 回答は、原則として各質問の調査数を基数 (n) とした百分率 (%) で表し、少数第 2 位を四捨五入している。このため、百分率の合計が 100%にならない場合がある。また、2 つ以上の回答ができる複数回答の質問では、回答比率の合計が 100%を超える場合がある。
- (2) クロス集計の表側に使用している「性別」や「年齢」等の基本属性では、副問 (サブクエスション等) の回答者が限定される質問もあるため、図表中の表側項目の調査数を合計しても、必ずしも調査の有効回収数にならない場合がある。
- (3) クロス集計等において、基数 (n) となる調査数が少数となる場合は参考までに数値を見る程度に留め、結果の利用には注意を要する。
- (4) 表中の「太字・太枠」は、各集計において、最も高い割合や特筆すべき項目を示している。ただし、「その他」や「無回答」については太字・太枠表示をしていない。
- (5) 「○はひとつ」としている質問に対し、2 つ以上の複数回答があった場合は、回答を全て採用し集計しているため、質問毎の合計は必ずしも有効回収数とはならない場合がある。

Ⅱ. 調査回答者の属性

Ⅱ. 調査回答者の属性

1. 調査回答者の属性

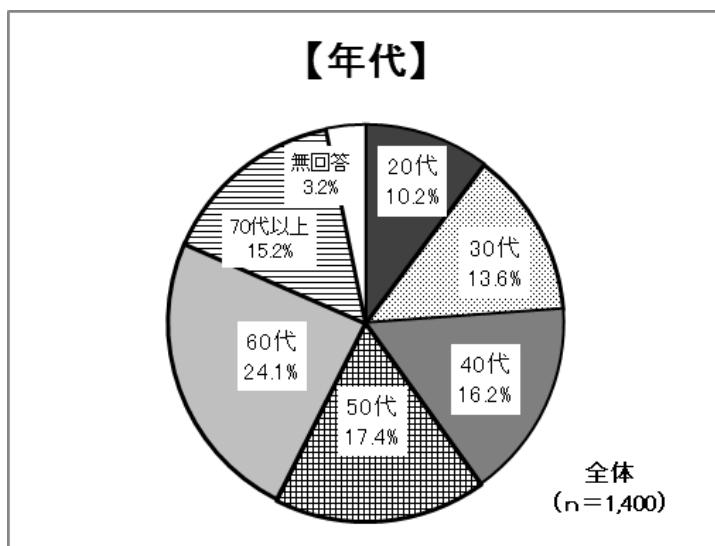
(1) 性別



回答者の性別については、「女性」が51.3%と過半数を占めている。

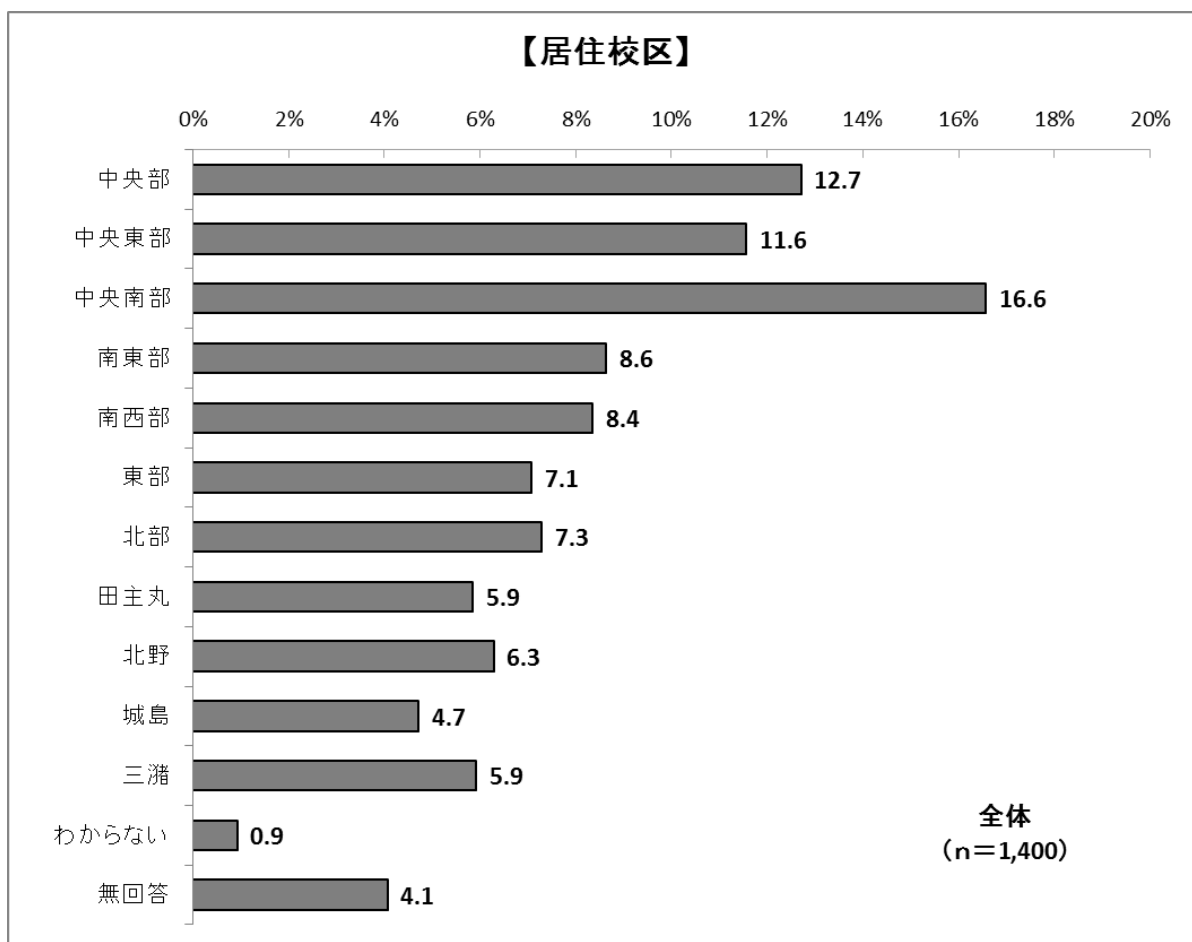
注) 図表中の「n」とは回答者数を表す
(以下、同じ)。

(2) 年代



回答者の年代については、「60代」(24.1%)が2割を超えて最も多く、次いで「50代」(17.4%)、「40代」(16.2%)の順となっている。

(3) 居住校区



回答者の居住校区については、「中央南部」(16.6%)が1割台半ばを占めて最も多く、次いで「中央部」(12.7%)、「中央東部」(11.6%)の順となっている。

<居住校区区分>

中央部					中央東部			中央南部			南東部			南西部			東部						
荘島	日吉	篠山	京町	南薫	長門石	西国分	東国分	御井	鳥飼	金丸	南	津福	上津	高良内	青峰	安武	荒木	大善寺	山川	山本	草野	善導寺	大橋

北部		田主丸				北野			城島				三瀧								
小森野	合川	宮ノ陣	船越	水縄	田主丸	水分	竹野	川会	柴刈	弓削	北野	大城	金島	城島	下田	江上	青木	浮島	西牟田	犬塚	三瀧

Ⅲ. 調査結果の概要

Ⅲ. 調査結果の概要

1. 過去のケガについて

(1) 過去1年間にケガをした経験

過去1年間に「ケガはしていない」が大半

- 本調査の回答者のうち、過去1年間に「ケガはしていない」は約7割と大半を占めている。
- 男性では、20歳代から40歳代の「ケガをしたことがある」の割合は、2割台半ばと他の年代に比べて高い。女性では、50歳代が3割以上と他の年代に比べて高い。

(2) ケガをした日時

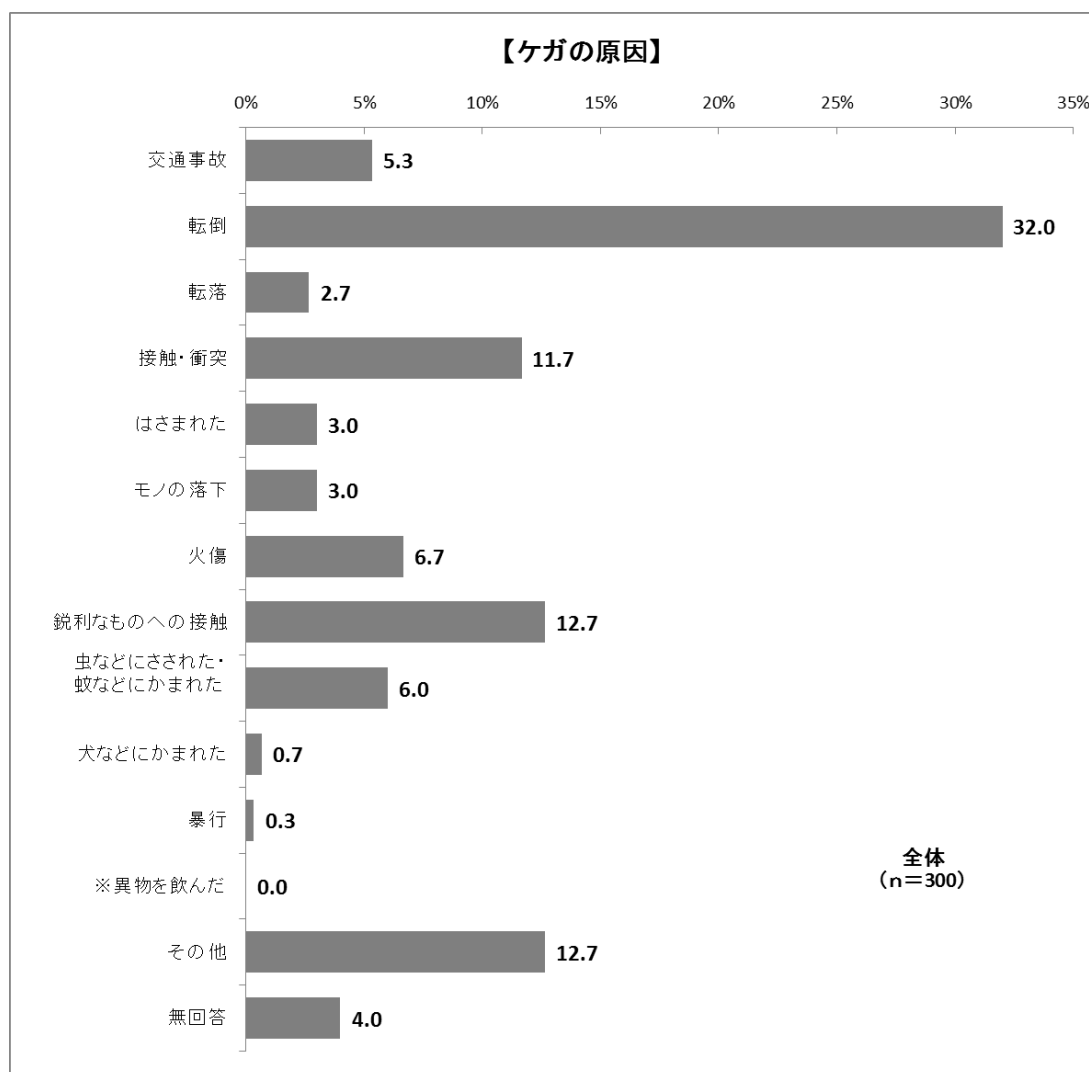
季節は「秋」、時間帯は「昼前」にケガをする人が多い

- ケガをした季節は、「9～11月（秋）」が4割台半ばを占めて最も多い。
- ケガをした時間帯は、「9～11時（昼前）」が約2割を占めて最も多い。また、『9～20時』にケガをした人が全体の6割以上を占めており、夜や未明の時間よりも日中から夜のはじめ頃にケガをする人が多くなっている。

(3) ケガの原因

ケガの原因は「転倒」が多い

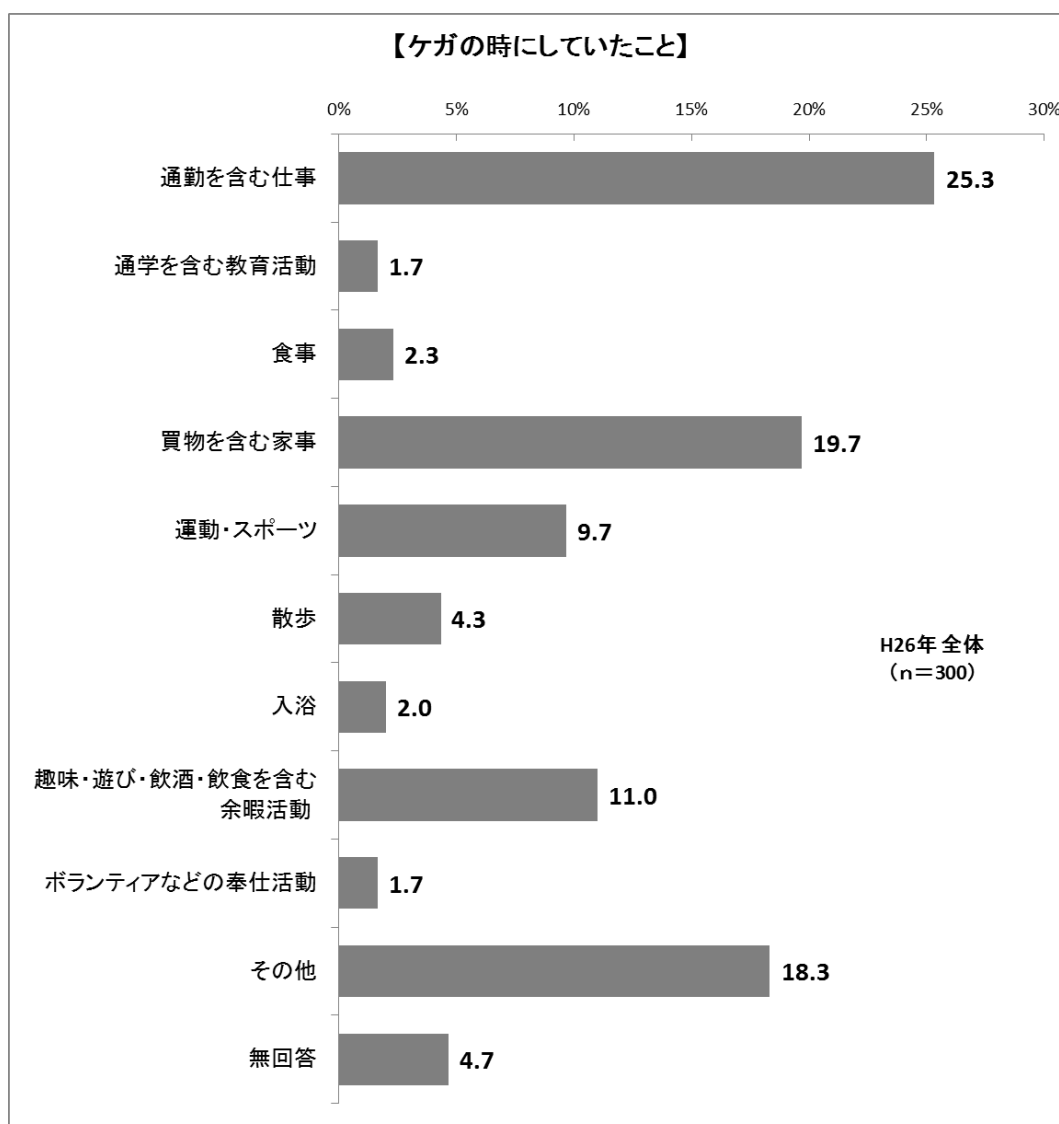
- ケガの原因は、「転倒」が3割以上と最も多い。
- 70歳以上では、男性と女性ともに、「転倒」の割合が6割台半ばを占めて他よりも高くなっている。
- 20歳代や30歳代の女性では、「鋭利なものへの接触」の割合が2割台半ばから3割を占めて他よりも高くなっている。



(4) ケガをした時にしていたこと

ケガをした時には「通勤を含む仕事」をしていた人が多い

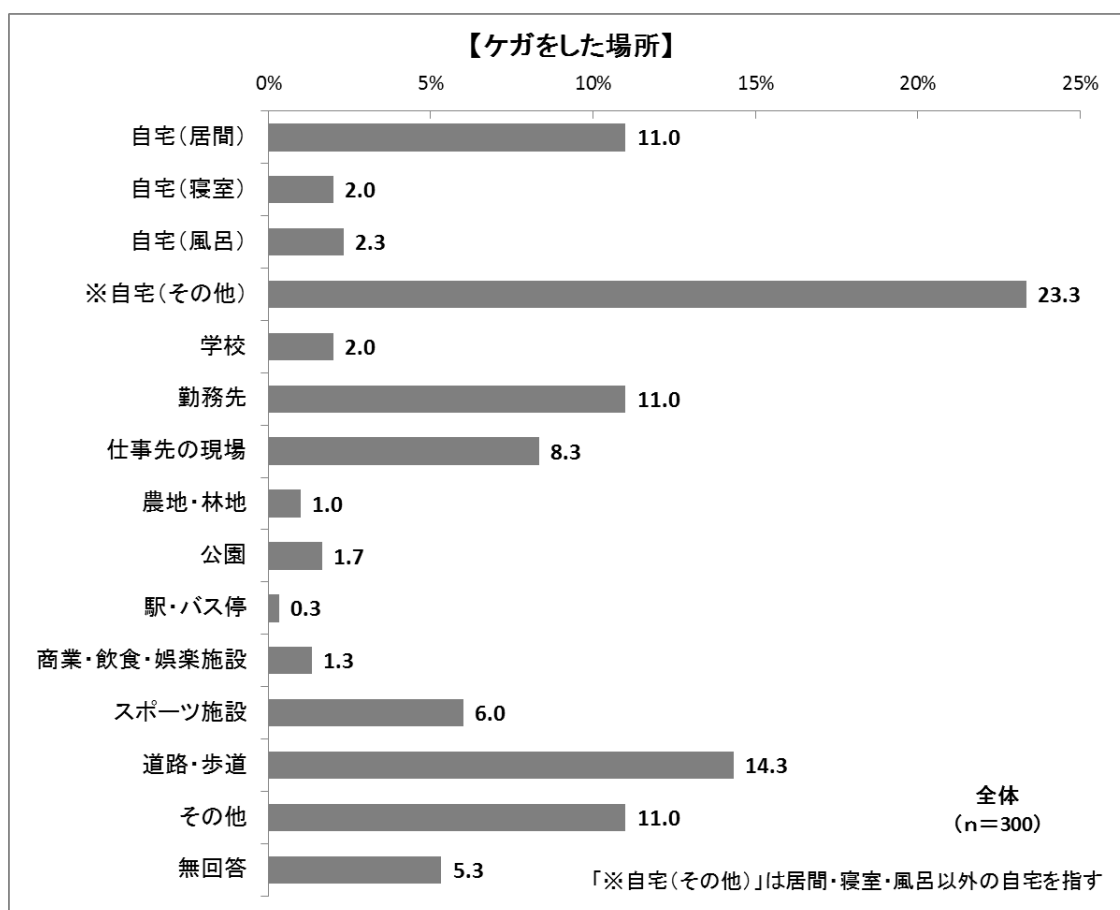
- ケガをした時にしていたことは、「通勤を含む仕事」が2割台半ばと最も多い。次いで、「買物を含む家事」が約2割と多くなっている。
- 20歳代から30歳代の男性では、「通勤を含む仕事」の割合が約6割から7割を占めて他よりも高くなっている。
- 30歳代から70歳以上の女性では、「買物を含む家事」の割合が約3割から4割を占めて他よりも高くなっている。



(5) ケガをした場所

ケガをした場所は「自宅（その他）」が多い

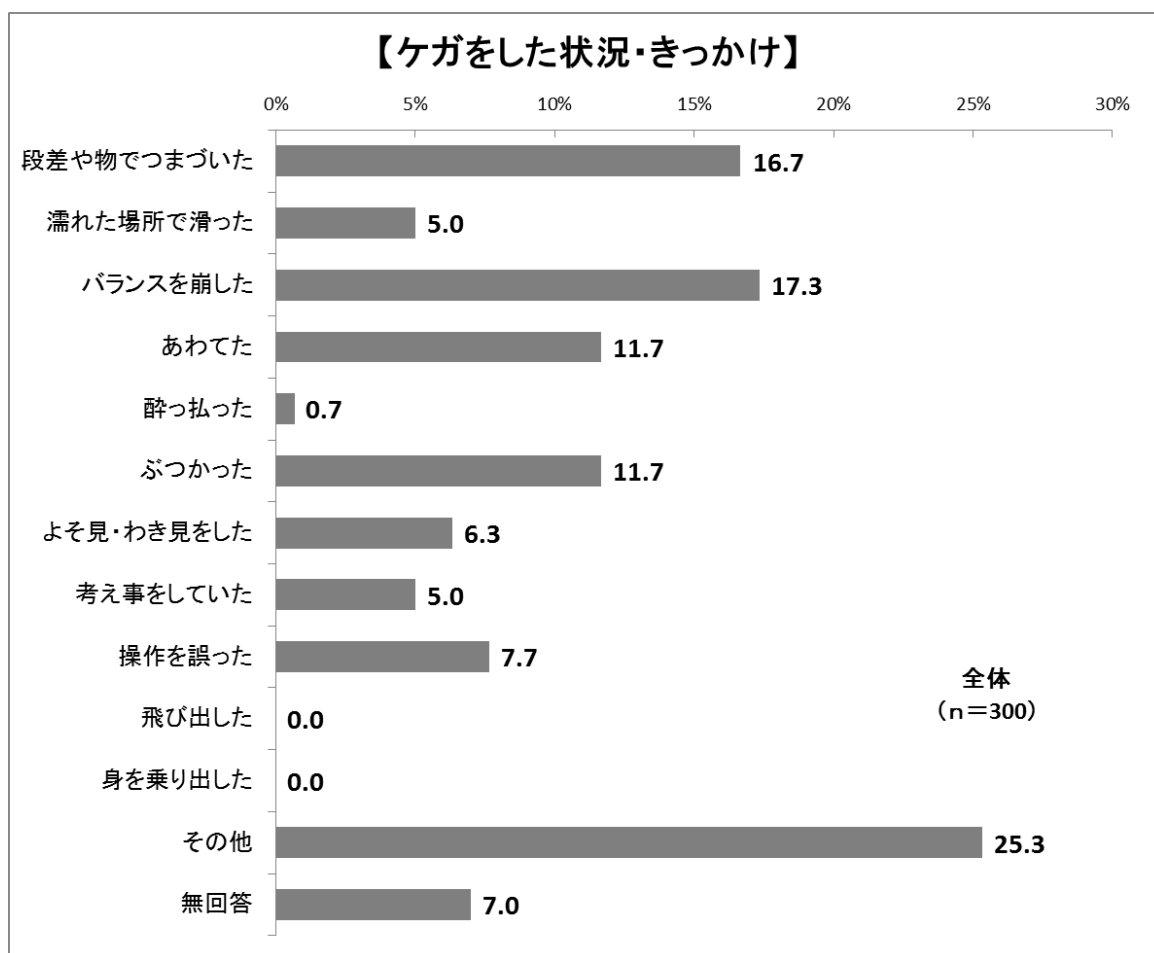
- ケガをした場所は、居間・寝室・風呂以外の「自宅（その他）」が2割台半ばと最も多い。「自宅（居間）」、「自宅（寝室）」、「自宅（風呂）」、「自宅（その他）」を含めた『自宅』では約4割を占めている。
- 女性では、30歳代、40歳代、70歳以上において、「自宅（その他）」の割合が約4割と高くなっている。
- 男性では、70歳以上において「自宅（その他）」の割合が3割台半ばを占めており、他の年代より高くなっている。



(6) ケガをした状況・きっかけ

ケガをした状況・きっかけは「バランスを崩した」や「段差や物でつまづいた」が多い

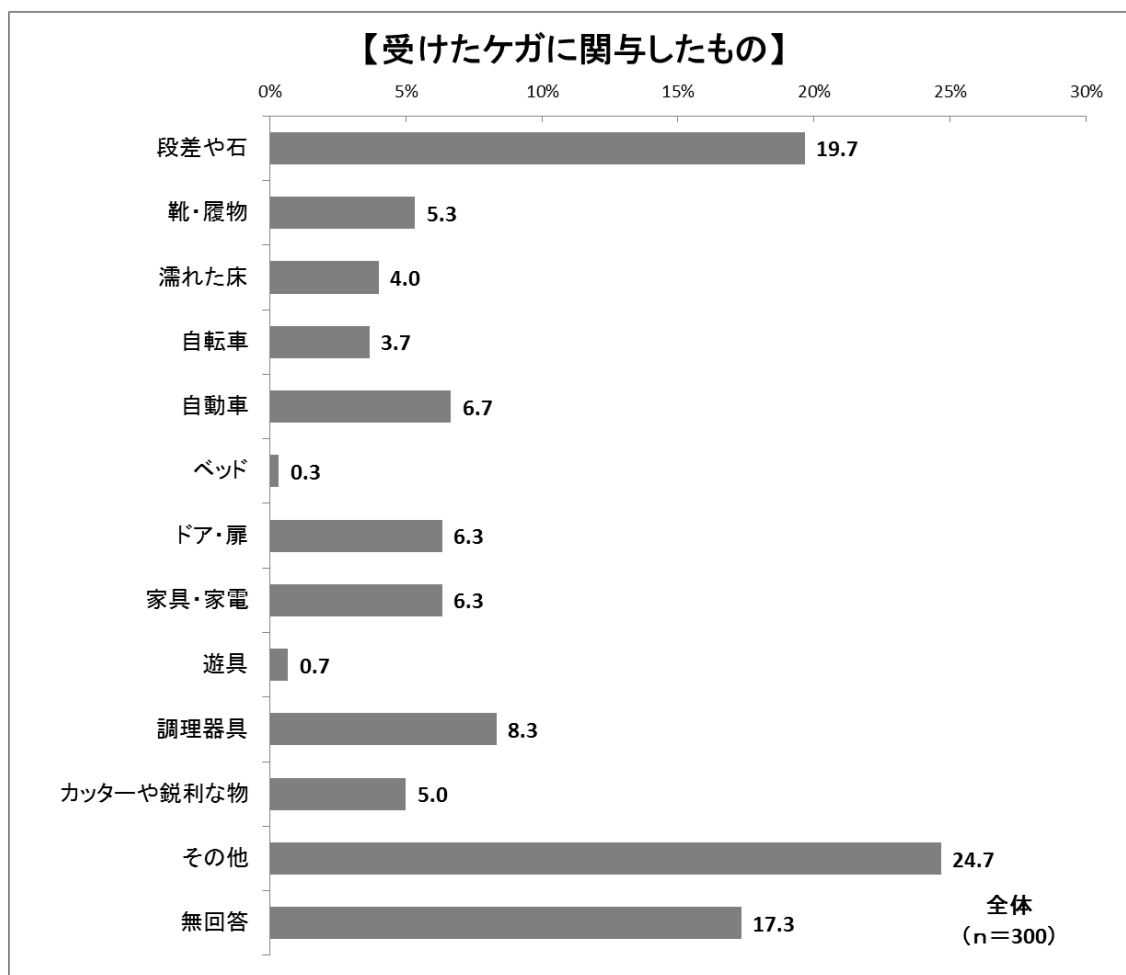
- ケガをした状況は、「バランスを崩した」や「段差や物でつまづいた」の割合が他よりも高くなっている。
- 70歳以上の女性では「バランスを崩した」が約6割と多い。
- 選択肢以外の「その他」が2割台半ばを占めて多く、具体的な内容としては、「車で追突された」、「気を失った」「滑った」などが挙げられた。



(7) 受けたケガに関与したもの

受けたケガに関与したものは、「段差や石」が多い

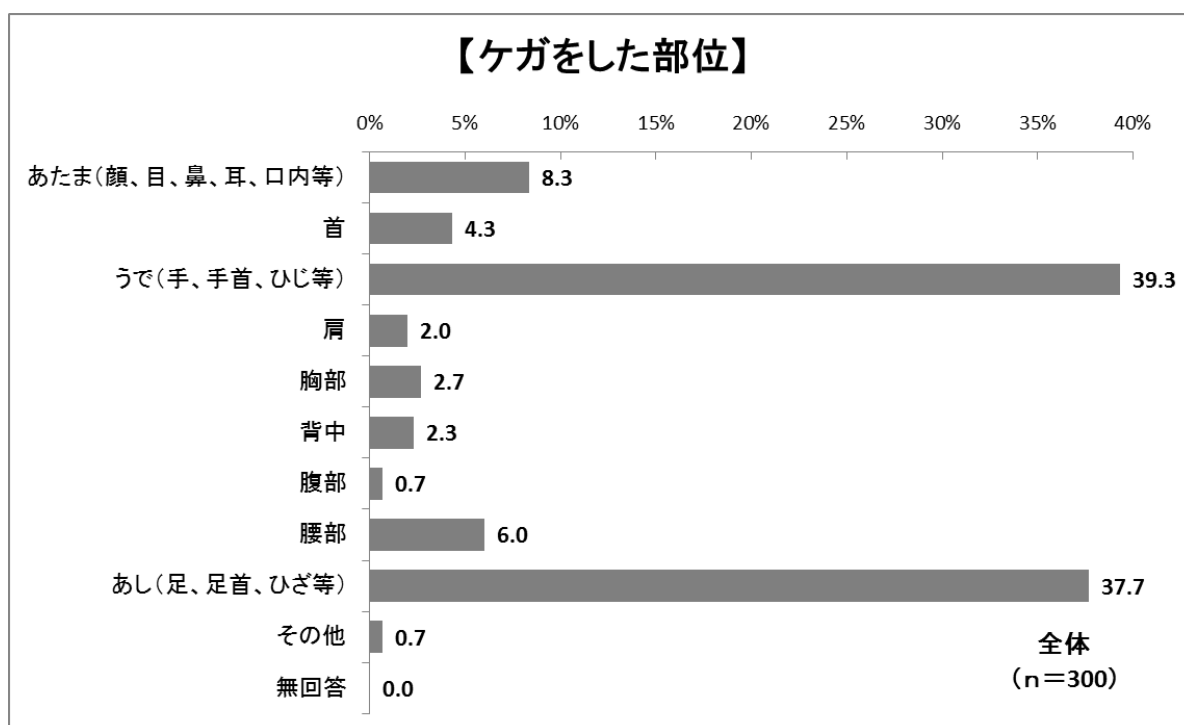
- 受けたケガに関与したものは、「段差や石」が約2割と最も多い。
- 50歳代の男性や、70歳以上の女性では、受けたケガに関与したものは「段差や石」の割合が約3割台半ばを占めて他よりも高くなっている。
- 選択肢以外の「その他」が2割台半ばを占めて多く、具体的な内容としては、「犬」や「猫」などの『動物』や「虫」、「紙」などが挙げられた。



(8) ケガをした部位

ケガをした部位は「うで（手、手首、ひじ等）」や「あし（足、足首、ひざ等）」が多い

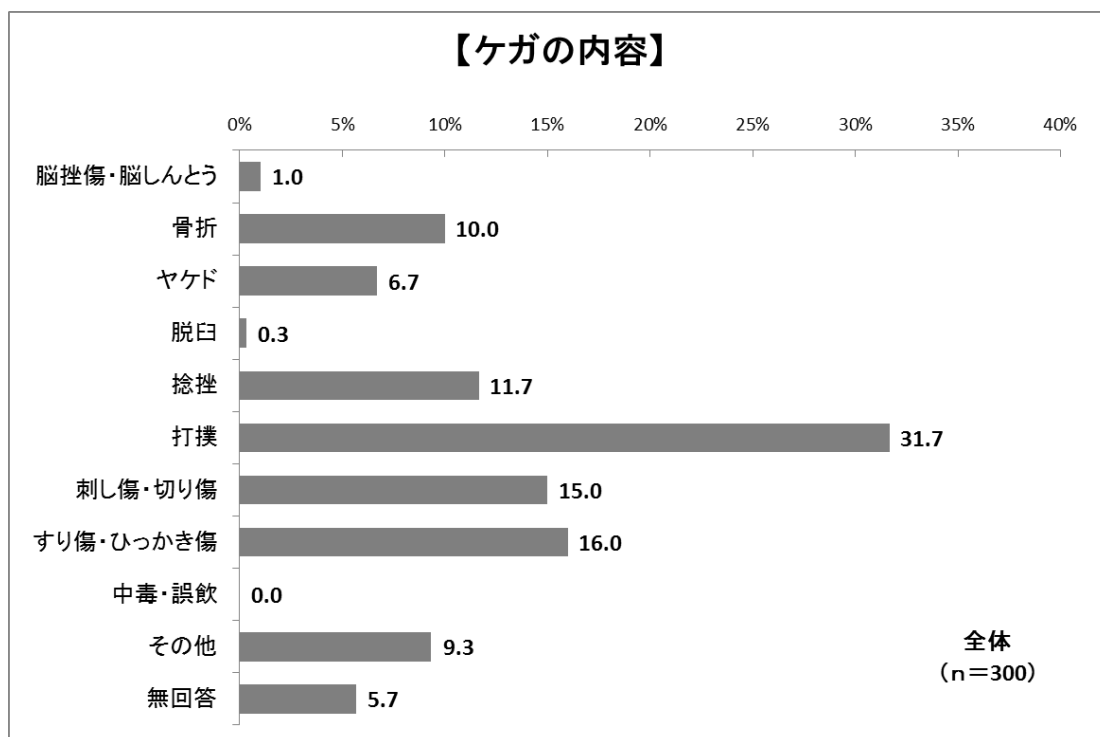
- ケガをした部位は、「うで（手、手首、ひじ等）」や「あし（足、足首、ひざ等）」がそれぞれ約4割と最も多い。



(9) ケガの内容

ケガの内容は「打撲」が多い

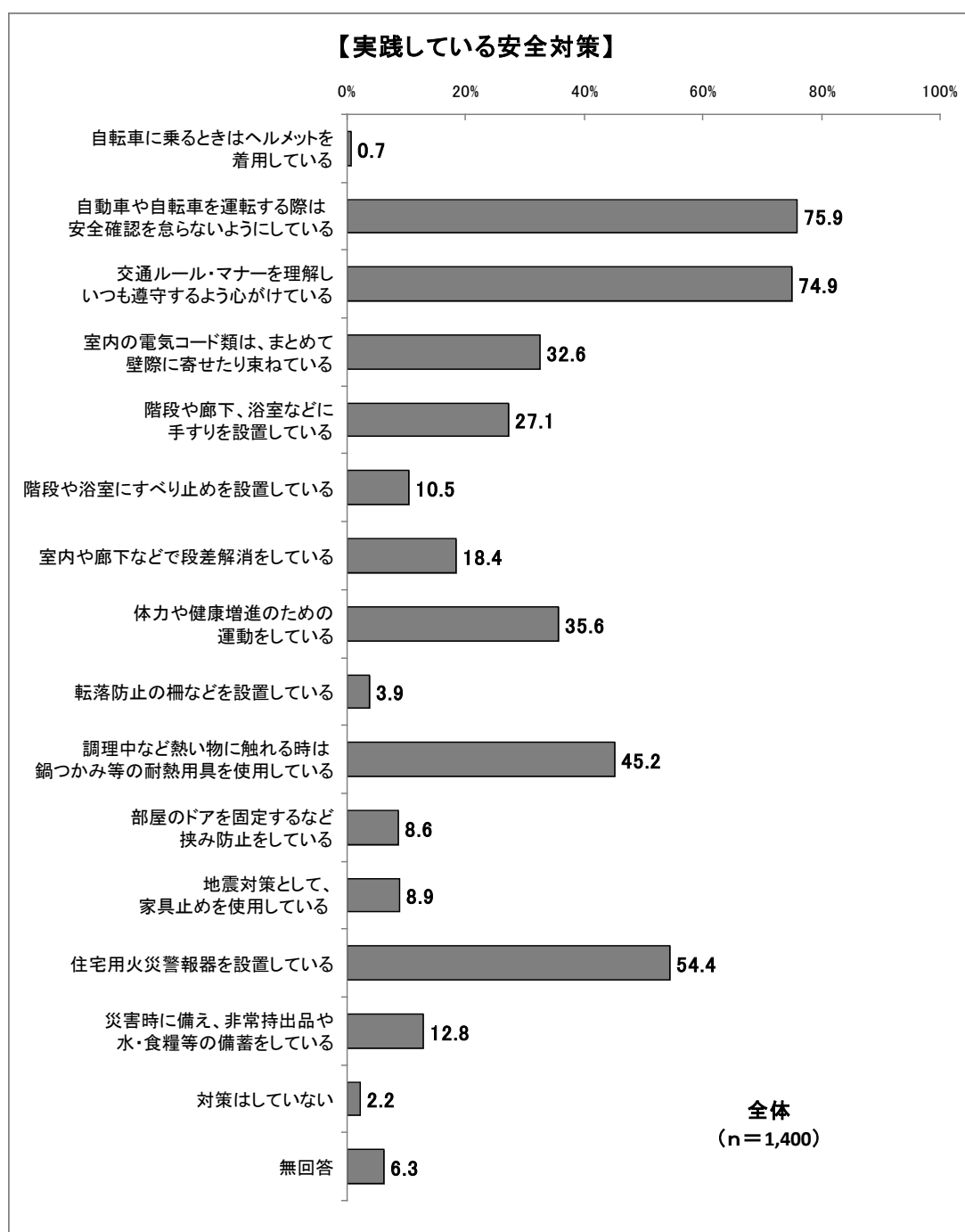
- ケガの内容は、「打撲」が約3割と最も多い。
- 男性では60歳代、女性では50歳代の「打撲」の割合が約4割から4割台半ばを占めており、他に比べて高い。



(10) 日常生活において実践している安全対策

「自動車や自転車を運転する際は、安全確認を怠らないようにしている」、
「交通ルール・マナーを理解しいつも遵守するよう心がけている」人が大半

- 日常生活において実践している安全対策については、「自動車や自転車を運転する際は、安全確認を怠らないようにしている」が8割近くと最も多く、並んで「交通ルール・マナーを理解し、いつも遵守するよう心がけている」が7割台半ばと多くなっている。

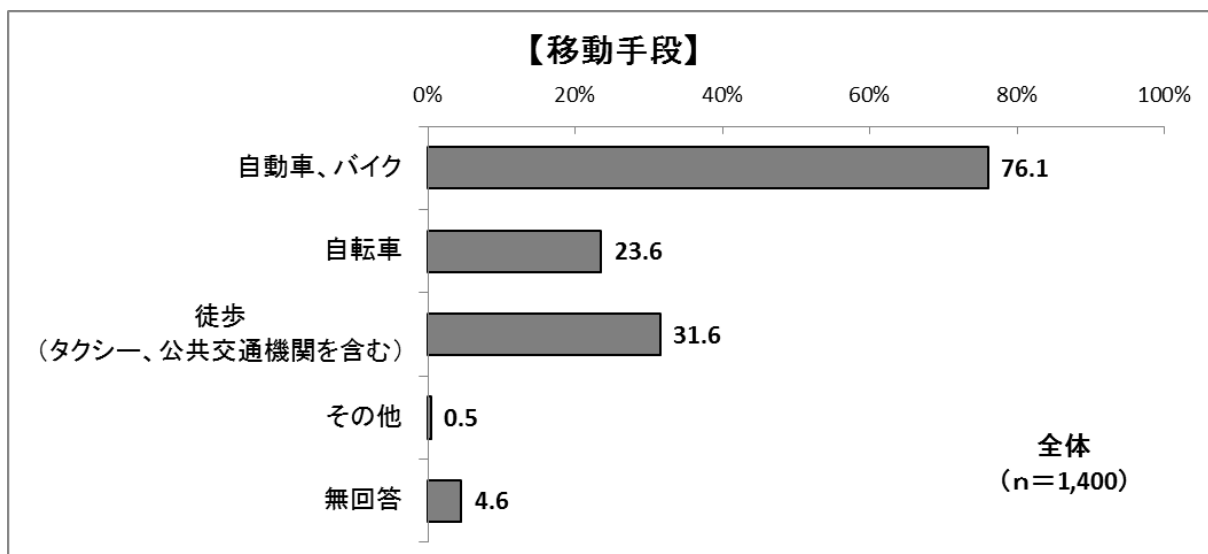


2. 「交通安全」について

(1) 主な移動手段

「自動車、バイク」を移動手段としている人が大半

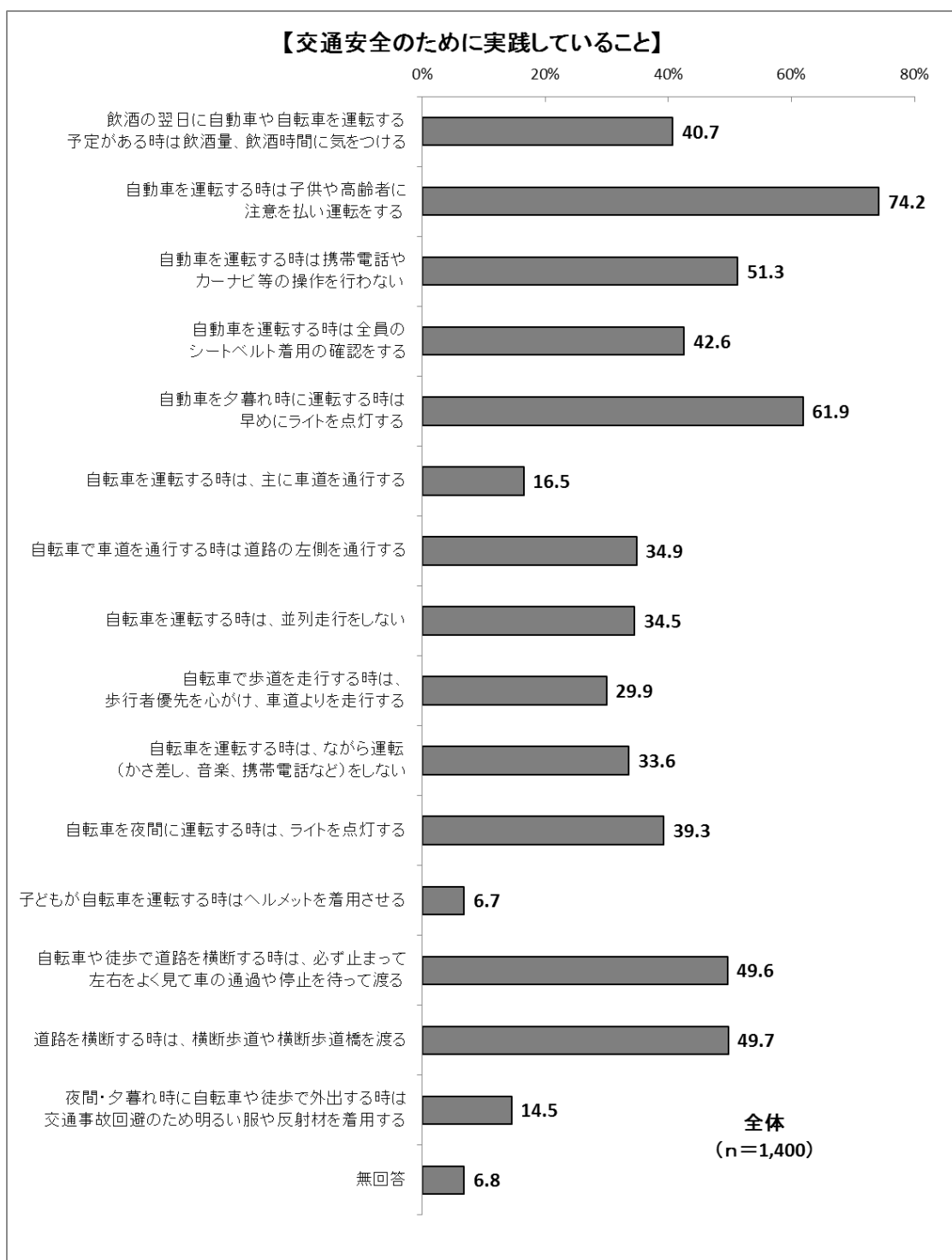
- 本調査の回答者の約8割が、「自動車、バイク」を移動手段として利用している。
- 30歳代では、「自動車、バイク」が9割を超えて多くなっている。
- 「徒歩（タクシー、公共交通機関を含む）」を移動手段としている人は70歳以上に多く、その割合は4割台半ばと他の年代に比べて高く、次いで20歳代で約4割を占めている。
- 中央部に居住している人では、「自動車、バイク」を利用している人が他の地域に比べて低く、「徒歩（タクシー、公共交通機関を含む）」を利用している人の割合が高くなっている。



(2) 交通安全のため実践していること

「自動車を運転する時は、子供や高齢者に注意を払い運転をする」が過半数

- 交通安全のために実践していることは、「自動車を運転する時は、子供や高齢者に注意を払い運転をする」が7割台半ばを占めて最も多い。
- 「自動車を夕暮れ時に運転する時は早めにライトを点灯する」や「自動車を運転する時は携帯電話やカーナビ等の操作を行わない」も半数を超え多い。



3. 「幼児・児童と保護者の状況について」

(1) 子どもの年齢

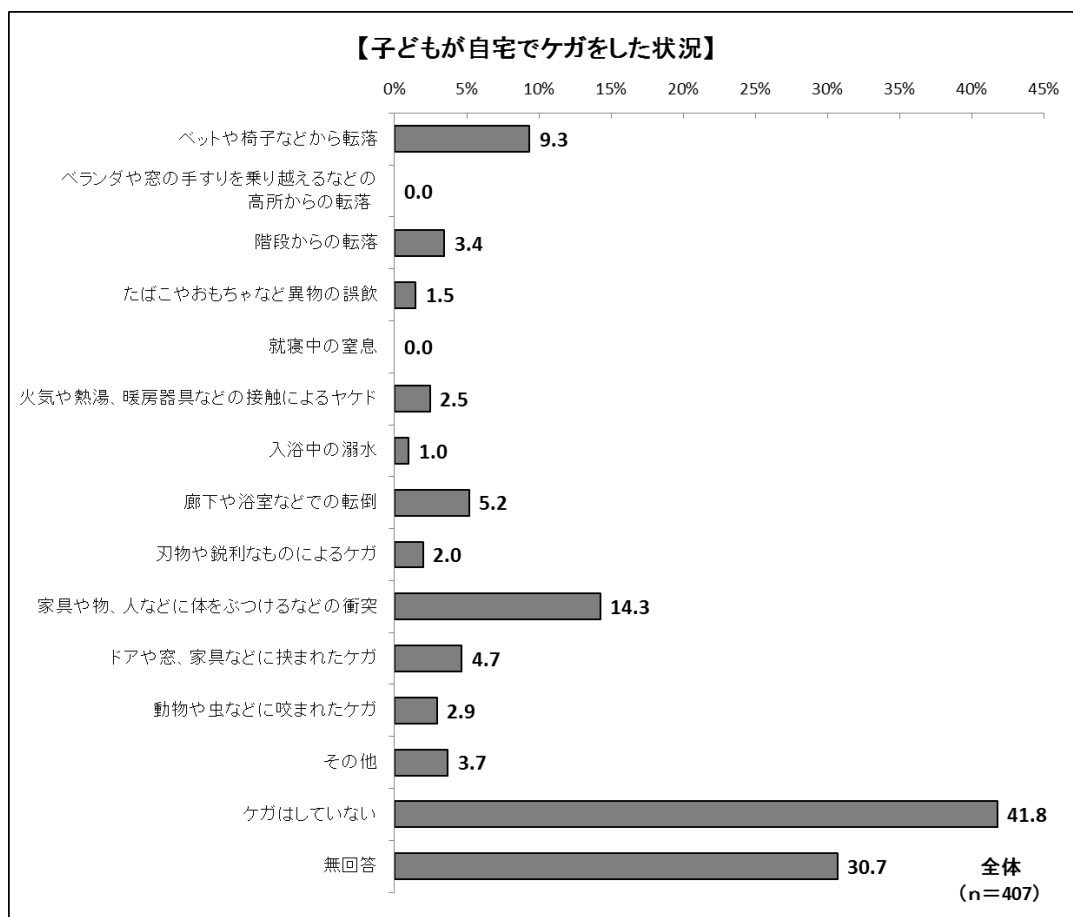
子どもの年齢は「0～2歳」が多い

- 家族のなかで0～15歳までの子どもがいる場合に、子どもの年齢を答えてもらうと、「0～2歳」が約2割と最も多い。

(2) 子どもが自宅でケガをした状況（過去1年間）

過去1年間に子どもは自宅で「ケガはしていない」が多い

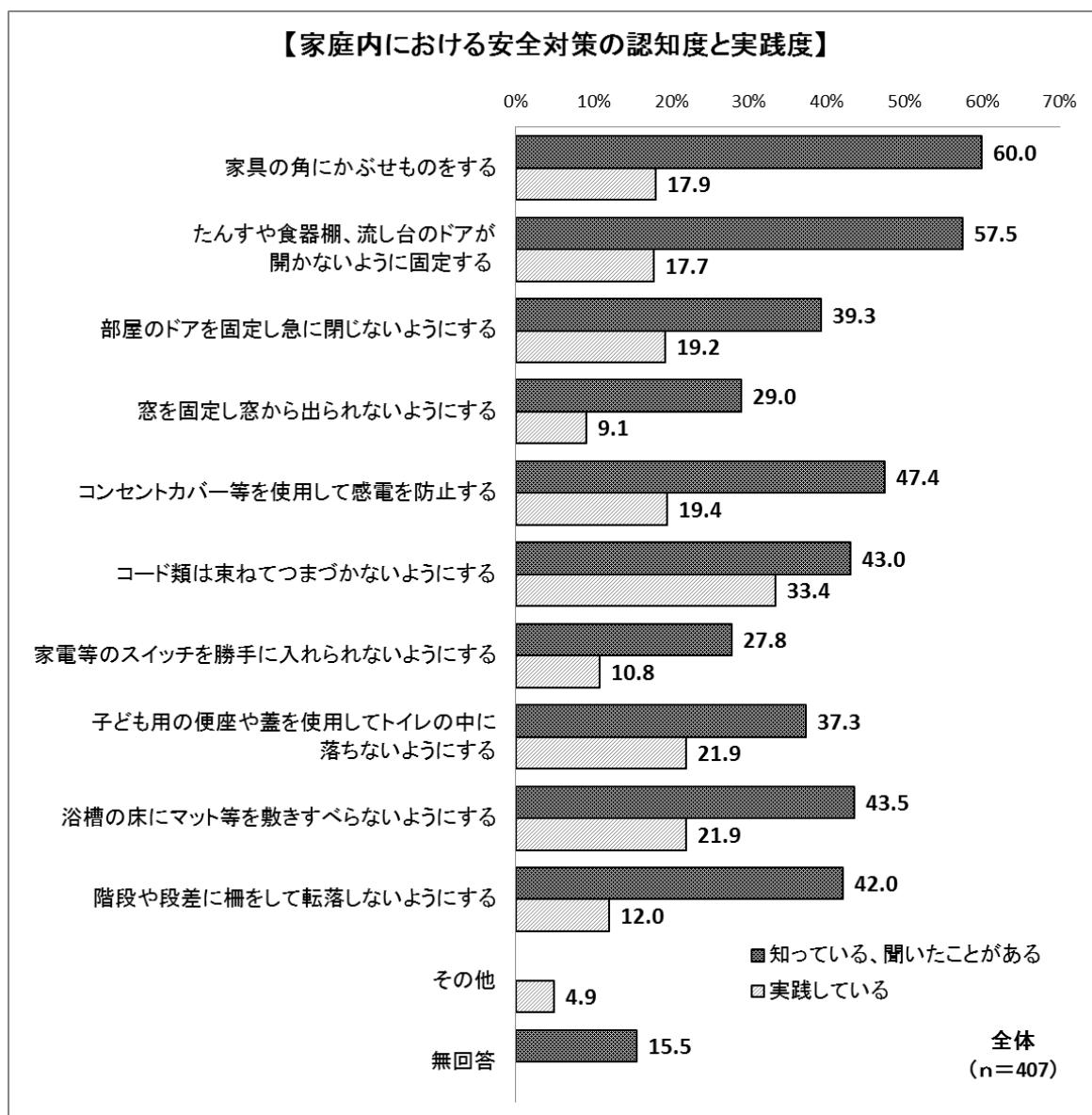
- 過去1年間に、子どもが自宅でケガをした状況については、「ケガはしていない」が4割と最も多い。
- 概ね子供の年齢が上がるほど、自宅で「ケガはしていない」の割合が高くなっている。
- ケガをした状況のうち、「家具や物、人などに体をぶつけるなどの衝突」が1割台半ばと最も多く、年齢が幼いほどその割合は高くなっている。
- 子どもがケガをした時に大人がいた場合が多いなか、「動物や虫などに咬まれたケガ」では、大人が不在であった状況が3割台半ばと他に比べて多くなっているが、医療機関に行った割合は5割を占めて他に比べて多くなっている。



(3) 家庭内における安全対策の認知度と実践度

家庭内における安全対策の中で、「家具の角にかぶせるもの」の認知度が高い
「コード類を束ねるもの」の実践度が高い

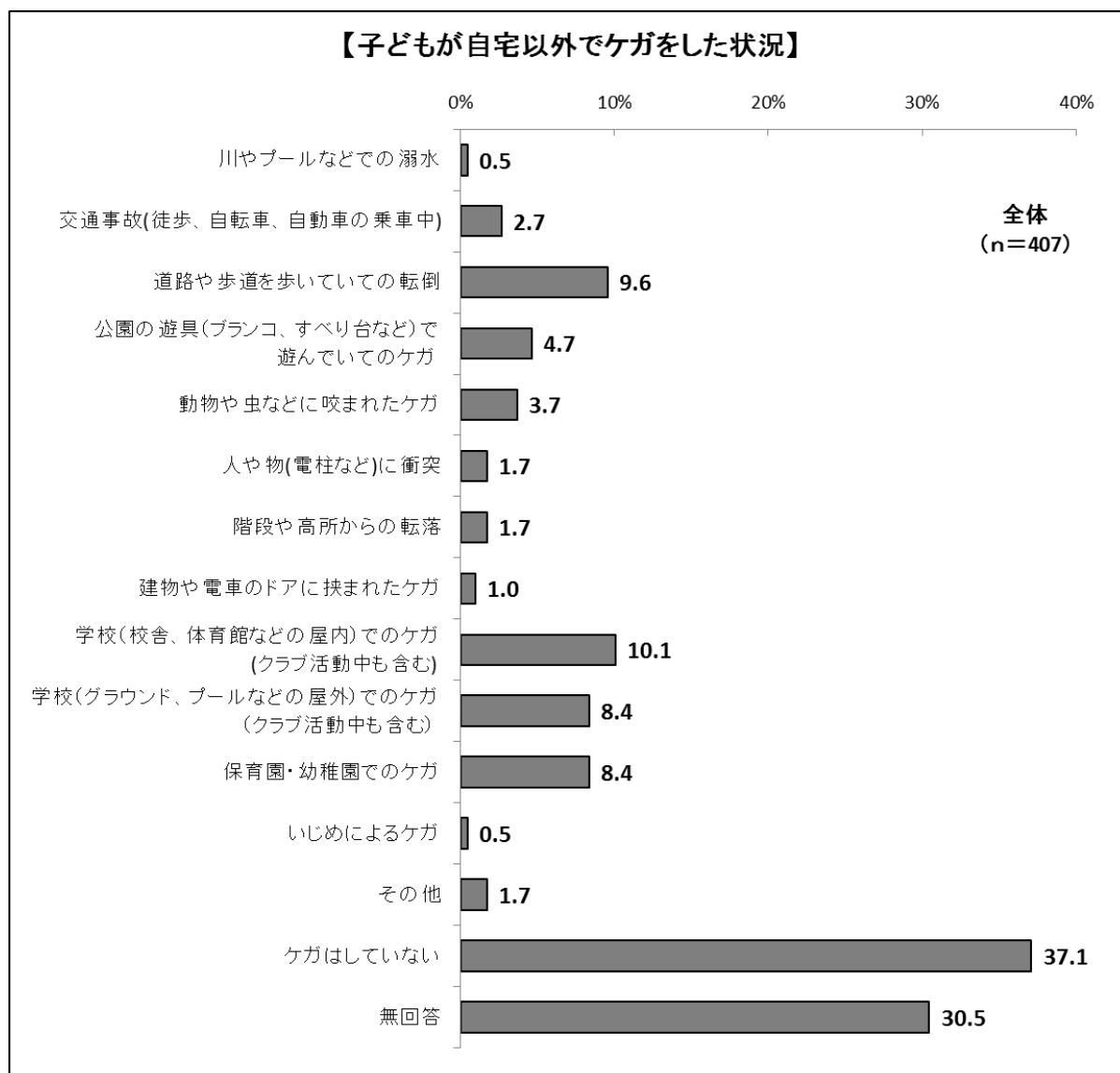
- 家庭内における安全対策の認知度と実践度には差があり、認知度の高いものでも実践度は低いことが分かる
- 「知っている、聞いたことがある」安全対策を尋ねると、「家具の角にかぶせるもの」の割合が6割と最も高く、次いで「たんすや食器棚、流し台のドアのストッパー」が高くなっている。
- 「実践している」安全対策を尋ねると、「コード類を束ねるもの」の実践度が3割を超えて最も高い。
- ほとんどの安全対策で、子どもの年齢が若い家庭ほど実践度が高くなっている。



(4) 子どもが自宅以外でケガをした状況（過去1年間）

過去1年間に子どもは自宅以外で「ケガはしていない」が多い

- 過去1年間に、子どもが自宅以外でケガをした状況については、「ケガはしていない」が約4割と最も多い。
- ケガをした状況のうち、「学校（校舎、体育館などの屋内）でのケガ（クラブ活動中も含む）」が約1割と最も多く、特に、9歳以上では2割半ばを占めて、その割合は他に比べて高い。
- 0～5歳では、「道路や歩道を歩いているの転倒」、3～8歳では「保育園・幼稚園でのケガ」が多くなっている。



4. 「高齢者の状況」について

(1) 高齢者の属性

対象となる高齢者は、「家族にいる」、「女性」、「75歳以上」が多い

- 家族の中で65歳以上の高齢者がいる場合（本人が高齢者の場合も含む）に、回答者本人が高齢者かどうか尋ねたところ、回答者の家族に高齢者がいる場合が5割以上を占めている。
- 高齢者の性別は、「女性」が5割を超えており、年齢は、「75歳以上」が約4割と最も多い。

(2) 高齢者の要介護認定の有無

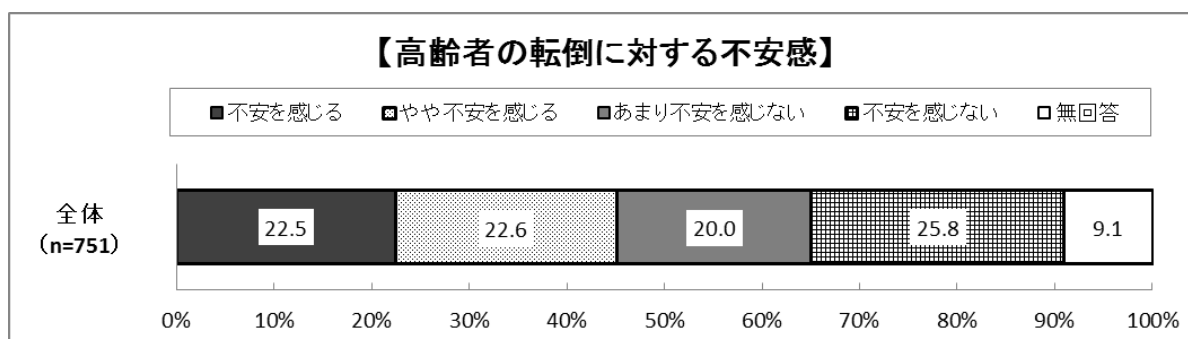
「要介護認定の申請をしていない」場合が過半数

- 高齢者の要介護認定の有無については、「要介護認定の申請をしていない」が約7割と最も多い。
- 要介護認定を持っている人は、「要介護5～1」が1割以上、「要支援2～1」が1割に満たない割合となっている。

(3) 高齢者の転倒について

高齢者の転倒に対して『不安を感じる』、『不安に感じない』の割合はほぼ等しい

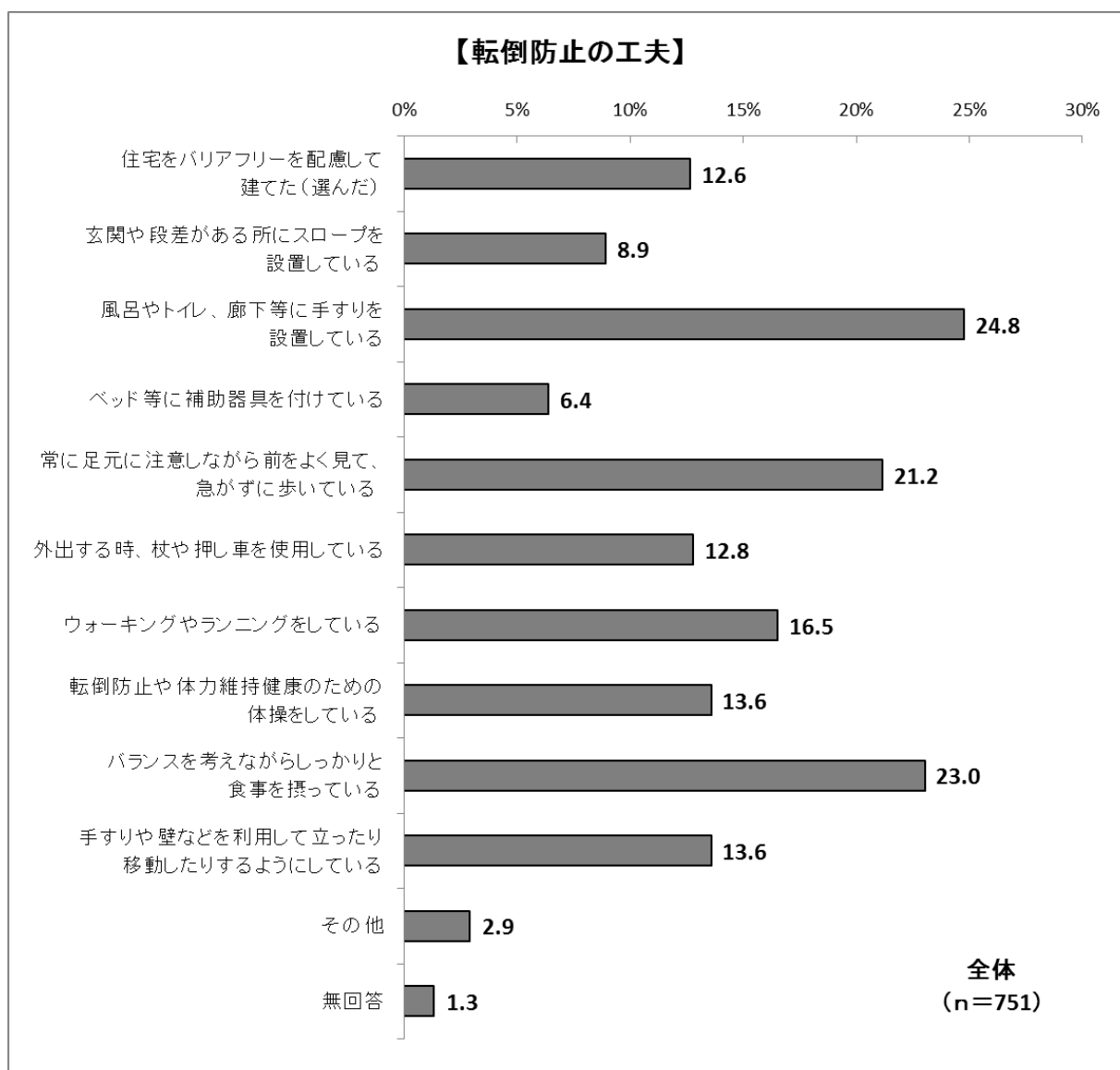
- 高齢者に、転倒に対する不安感について尋ねたところ、『不安を感じる』（「不安を感じる」＋「やや不安を感じる」）、『不安に感じない』（「不安を感じない」＋「あまり不安を感じない」）がともに約5割を占めている。
- 男性よりも女性、年齢が高くなるほど、『不安がある』の割合が高い。



(4) 転倒防止の工夫

転倒防止のために工夫していることが「ある」と「ない」は半々
 転倒防止の工夫は「風呂やトイレ、廊下等に手すりを設置している」や
 「バランスを考えながらしっかりと食事を摂っている」が多い

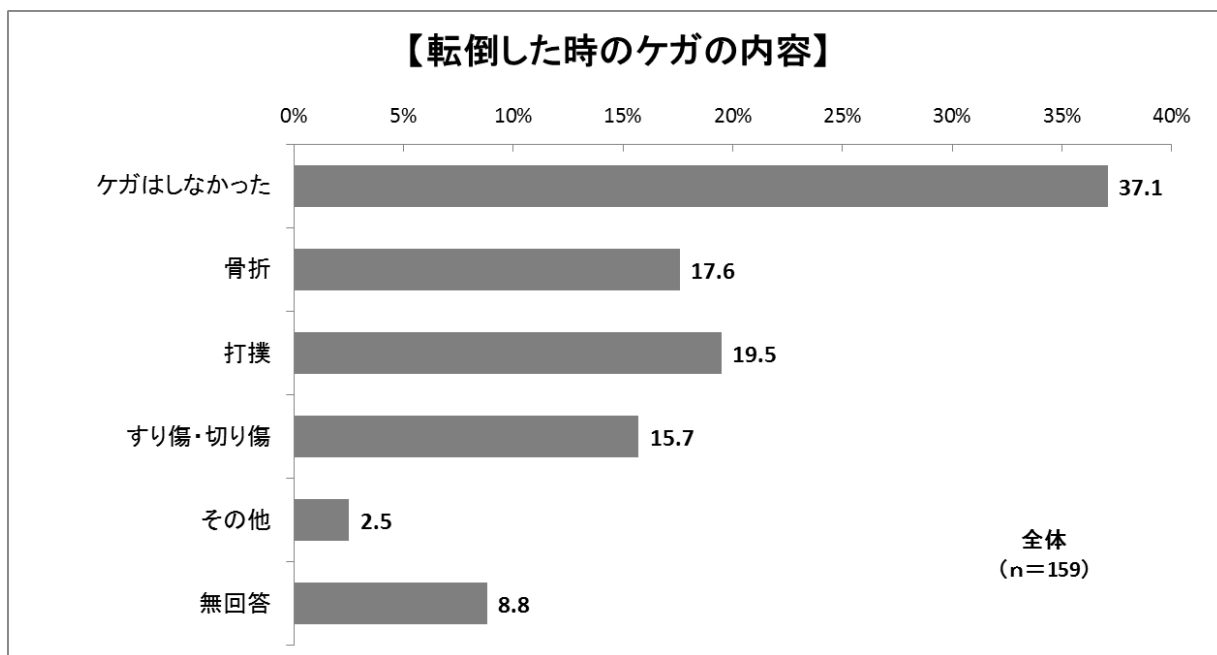
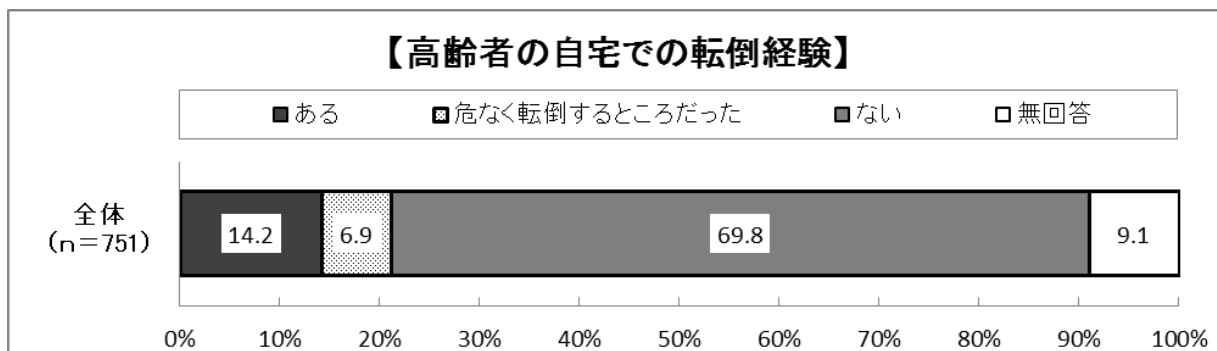
- 転倒防止の工夫の有無については、「ある」と「ない」の割合はほぼ等しい。転倒防止の工夫の具体的な内容としては、「風呂やトイレ、廊下等に手すりを設置している」が2割半ばと最も多く、次いで、「バランスを考えながら、しっかりと食事を摂っている」が2割以上と多くなっている。
- 男性よりも女性、年齢が高くなるほど、転倒防止の工夫をしている人が多い。



(5) 高齢者の自宅での転倒（過去1年間）

過去1年間に転倒したことが「ない」高齢者が過半数
 転倒場所は、「居間」や「玄関」が多い
 転倒した時のケガは、「打撲」が多い

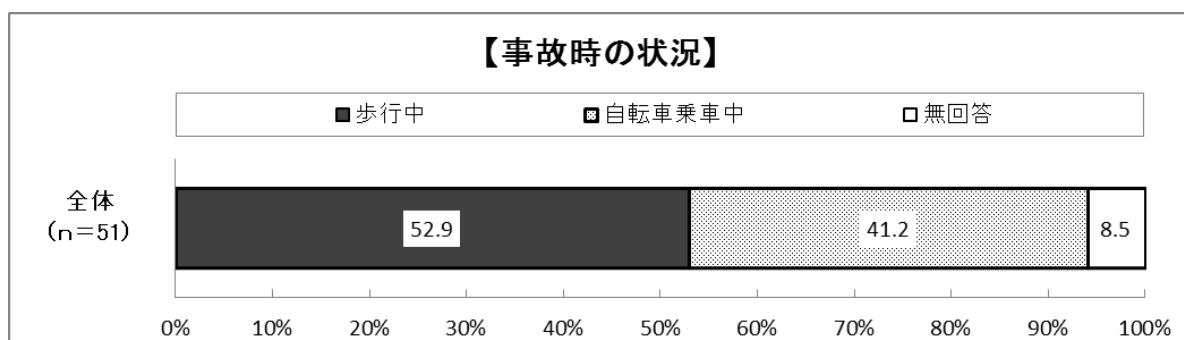
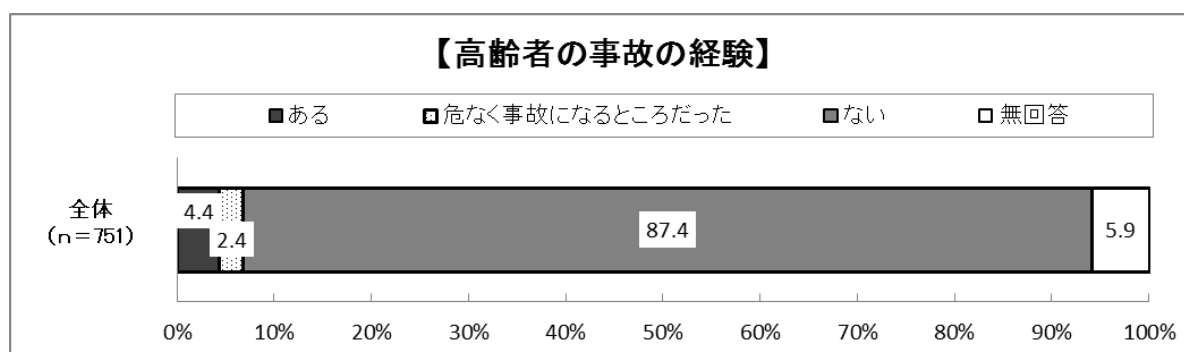
- 高齢者の過去1年間の自宅での転倒経験については、転倒したことが「ない」が約7割と過半数を占めている。
- 転倒経験がある人の割合は、75歳以上が最も多くなっている。
- 転倒した場所は、「居間」と「玄関」が約2割と最も多い。
- 転倒した時のケガについて尋ねると、「ケガはしなかった」が約4割と最も多い。ケガをした状況のうち、「打撲」が約2割と最も多い。



(6) 高齢者の歩行中や自転車乗車時の事故（過去1年間）

過去1年間に事故にあったことが「ない」高齢者が過半数
 「歩行中」に事故にあった場合が多い
 事故にあった時、お酒や薬を「飲んでいなかった」が大半

- 高齢者が過去1年間に事故にあった経験については、事故にあったことが「ない」が約9割と大半を占めている。
- 事故にあった時の状況は、「歩行中」が5割を超えており、「自転車乗車中」が約4割となっている。
- 事故にあった人のうち、大半の人が事故にあった時にお酒や薬を「飲んでいなかった」と回答している。



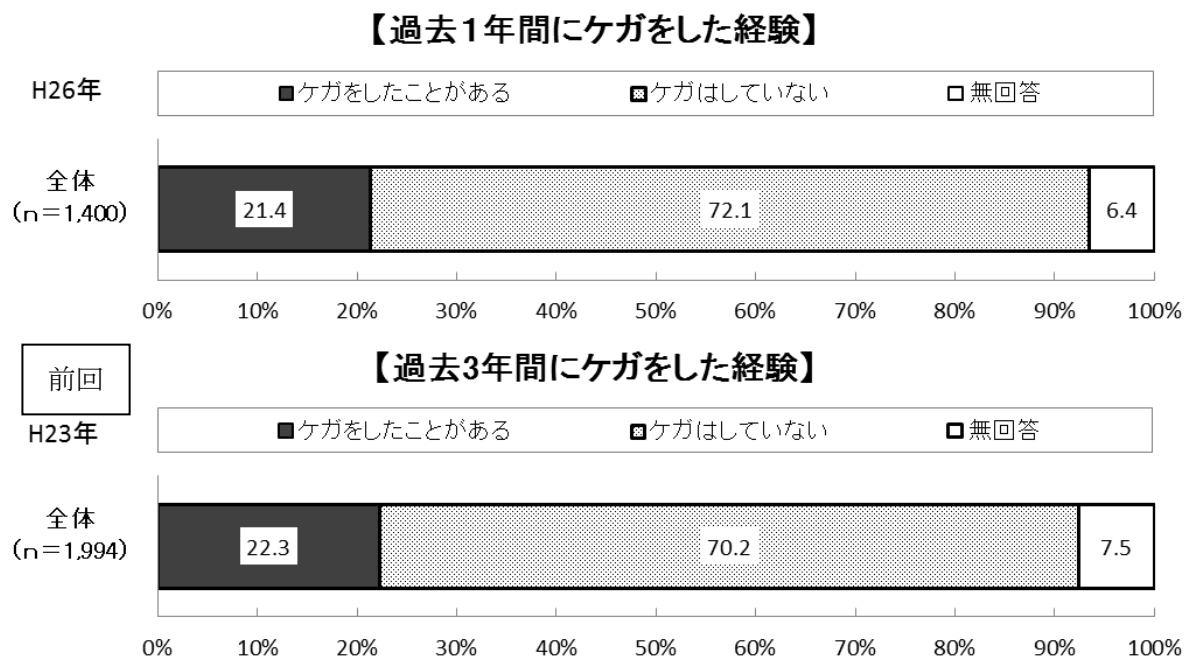
IV. 調査結果の詳細

IV. 調査結果の詳細

1. 過去のケガについて

(1) 過去1年間にケガをした経験

問1. あなたは過去1年間にケガをされましたか。(○はひとつ)



過去1年間にケガをした経験については、「ケガはしていない」(72.1%)が7割以上を占めており、「ケガをしたことがある」(21.4%)を上回っている。

平成23年調査におけるケガをした経験について比較すると、今回とほぼ変わらない割合となっている。

注) 平成23年調査では、過去3年間のケガを対象としている。(以下、同様)

【属性別特徴】

性別にみると、「ケガをしたことがある」(男性：19.7%、女性：24.0%)の割合は男性よりも女性の方が高い。

男性では、20歳代から40歳代の「ケガをしたことがある」の割合は、2割台半ばと他の年代に比べて高い。50歳代女性において、「ケガをしたことがある」(32.8%)の割合が他の年代・性別に比べて高くなっている。

◆表 性別・年代別◆

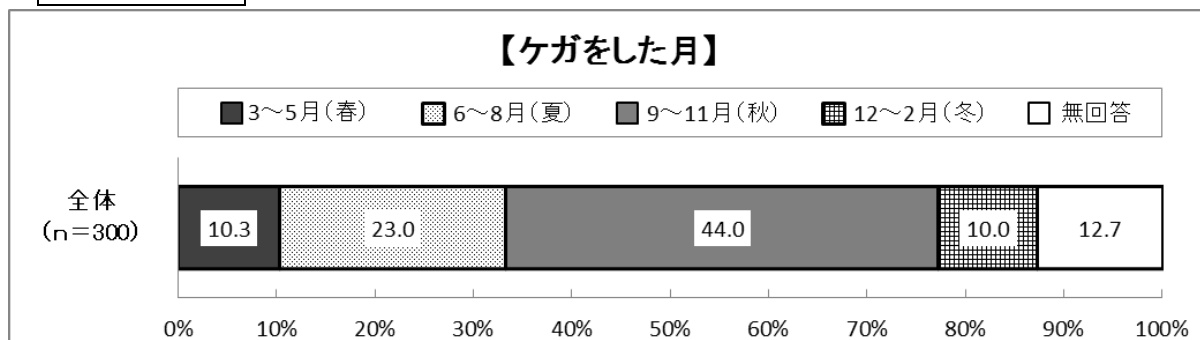
		合計 (件)	ケガの有無		
			ケガをした ことがある	ケガはしてい ない	無回答
全体(件)		1,400	300	1,010	90
%		100	21.4	72.1	6.4
性別	男性	633	125	485	23
	%	100	19.7	76.6	3.6
	女性	718	172	513	33
	%	100	24.0	71.4	4.6
	無回答	49	3	12	34
	%	100	6.1	24.5	69.4

		合計 (件)	ケガの有無		
			ケガをした ことがある	ケガはしてい ない	無回答
全体(件)		1,400	300	1,010	90
%		100	21.4	72.1	6.4
20歳代	男性	58	14	43	1
	%	100	24.1	74.1	1.7
	女性	85	20	63	2
	%	100	23.5	74.1	2.4
	無回答	-	-	-	-
	%	-	-	-	-
30歳代	男性	88	22	66	-
	%	100	25.0	75.0	-
	女性	103	23	79	1
	%	100	22.3	76.7	1.0
	無回答	-	-	-	-
	%	-	-	-	-
40歳代	男性	106	28	77	1
	%	100	26.4	72.6	0.9
	女性	120	35	81	4
	%	100	29.2	67.5	3.3
	無回答	1	-	1	-
	%	100	-	100.0	-
50歳代	男性	120	24	95	1
	%	100	20.0	79.2	0.8
	女性	122	40	80	2
	%	100	32.8	65.6	1.6
	無回答	1	-	1	-
	%	100	-	100.0	-
60歳代	男性	165	23	133	9
	%	100	13.9	80.6	5.5
	女性	169	37	121	11
	%	100	21.9	71.6	6.5
	無回答	4	-	4	-
	%	100	-	100.0	-
70歳以上	男性	93	11	71	11
	%	100	11.8	76.3	11.8
	女性	118	17	88	13
	%	100	14.4	74.6	11.0
	無回答	2	-	1	1
	%	100	-	50.0	50.0
無回答	男性	3	3	-	-
	%	100	100.0	-	-
	女性	1	-	1	-
	%	100	-	100.0	-
	無回答	41	3	5	33
	%	100	7.3	12.2	80.5

(2) ケガをした日時

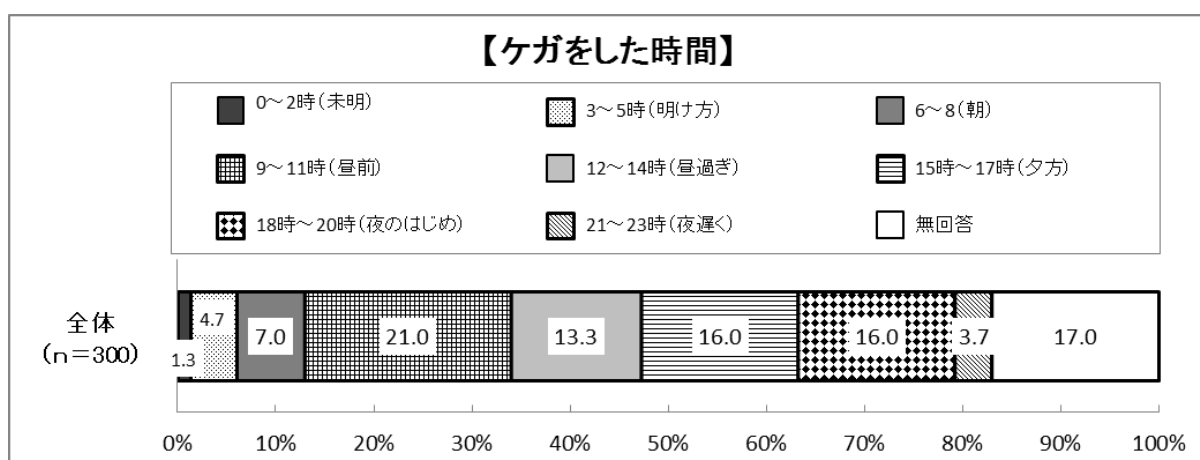
問1-1. ケガをしたのはいつ、何時頃ですか。

ケガをした日時 ②ケガをした月



ケガをした月については、「9～11月（秋）」（44.0%）が4割台半ばと最も多く、次いで「6～8月（夏）」（23.0%）となっている。

ケガをした日時 ③ケガをした時間

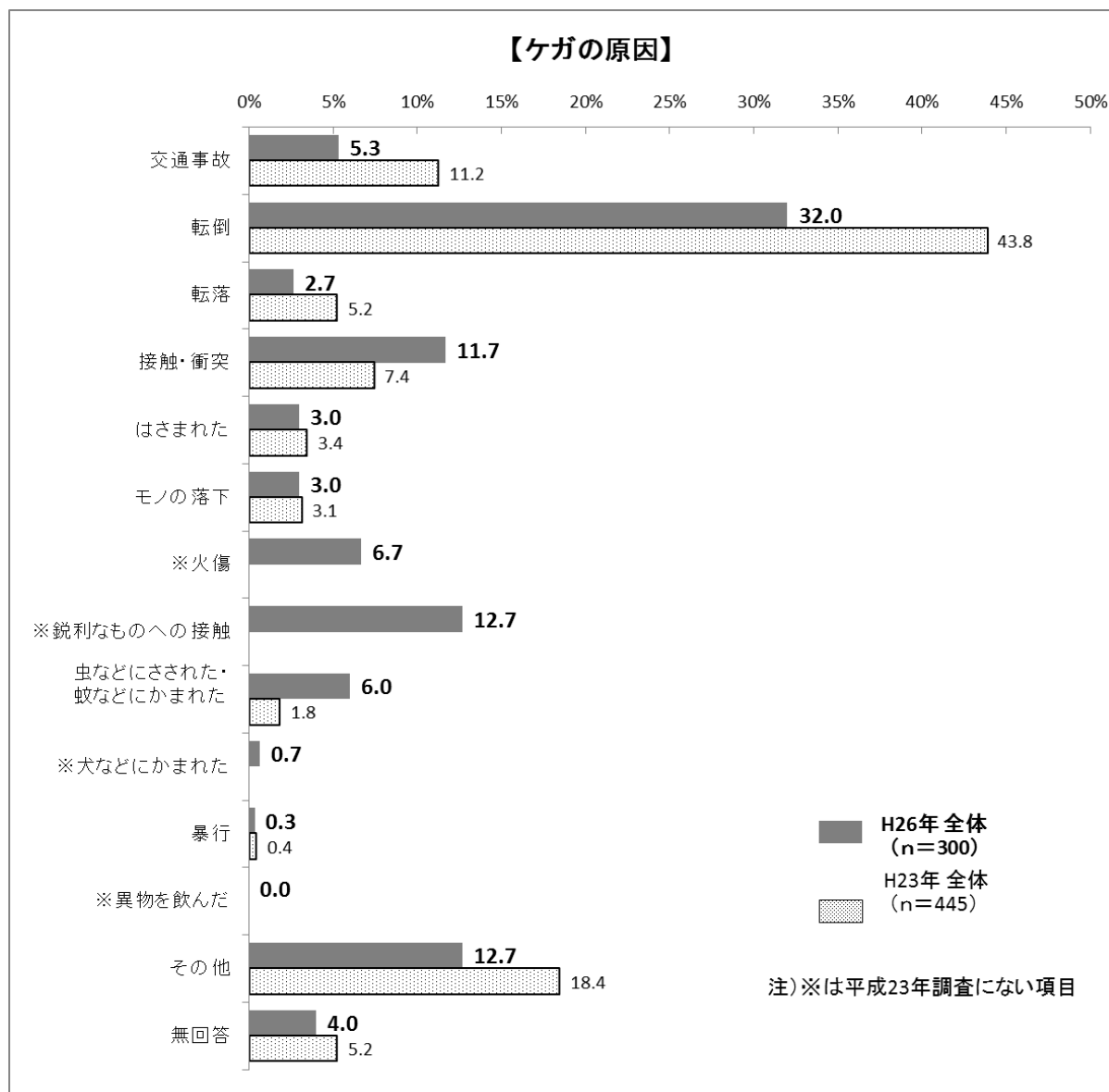


ケガをした時間帯については、「9～11時（昼前）」（21.0%）が約2割を占め、次いで「15～17時（夕方）」（16.0%）、並んで「18時～20時（夜のはじめ）」（16.0%）となっている。

また、『9～20時』にケガをした人が全体の6割以上（66.3%）を占めており、夜や未明の時間帯よりも日中から夜のはじめ頃にケガをする人が多いことが分かる。

(3) ケガの原因

問 1-2. ケガの原因は何でしたか。(〇はひとつ)



ケガの原因については、「転倒」(32.0%)が3割以上と最も多く、次いで「鋭利なものへの接触」(12.7%)、「接触・衝突」(11.7%)の順となっている。前回の調査では、最も多かった「転倒」(43.8%)と次いで多かった「交通事故」(11.2%)が全体の5割台半ばを占めていたが、今回の調査では、4割にも満たない結果となっている。

今回の調査では、「接触・衝突」(11.7%)の割合が前回(7.4%)よりも高くなっている。

また、選択肢以外の「その他」では、「紙で指を切った」や「重い物を持った」などが挙げられた。

【属性別特徴】

性別・年代別にみると、20歳代の女性において、「交通事故」(20.0%)の割合が男性や他の年代に比べて高い。年代が高くなるほど、「転倒」の割合が高くなっており、70歳以上の男性(63.6%)と女性(64.7%)ともに6割台半ばを占めて他よりも高くなっている。また、「鋭利なものへの接触」は女性の方が男性に比べて高く、特に20歳代や30歳代女性で2割台半ばから3割と多くなっている。

◆表 性別・年代別◆

	合計 (件)	ケガの原因														
		交通事故	転倒	転落	接触・衝突	はさまれた	モノの落下	火傷	鋭利なものへの接触	蚊などにかまれた	犬などにかまれた	暴行	異物を飲んだ	その他	無回答	
全体(件)	300	16	96	8	35	9	9	20	38	18	2	1	-	38	12	
%		5.3	32.0	2.7	11.7	3.0	3.0	6.7	12.7	6.0	0.7	0.3	-	12.7	4.0	
性別	男性	125	7	36	4	12	5	3	6	11	8	2	1	-	22	8
	%		5.6	28.8	3.2	9.6	4.0	2.4	4.8	8.8	6.4	1.6	0.8	-	17.6	6.4
	女性	172	9	59	4	23	4	6	14	27	10	-	-	-	15	3
	%		5.2	34.3	2.3	13.4	2.3	3.5	8.1	15.7	5.8	-	-	-	8.7	1.7
	無回答	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	%		-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3

IV. 調査結果の詳細

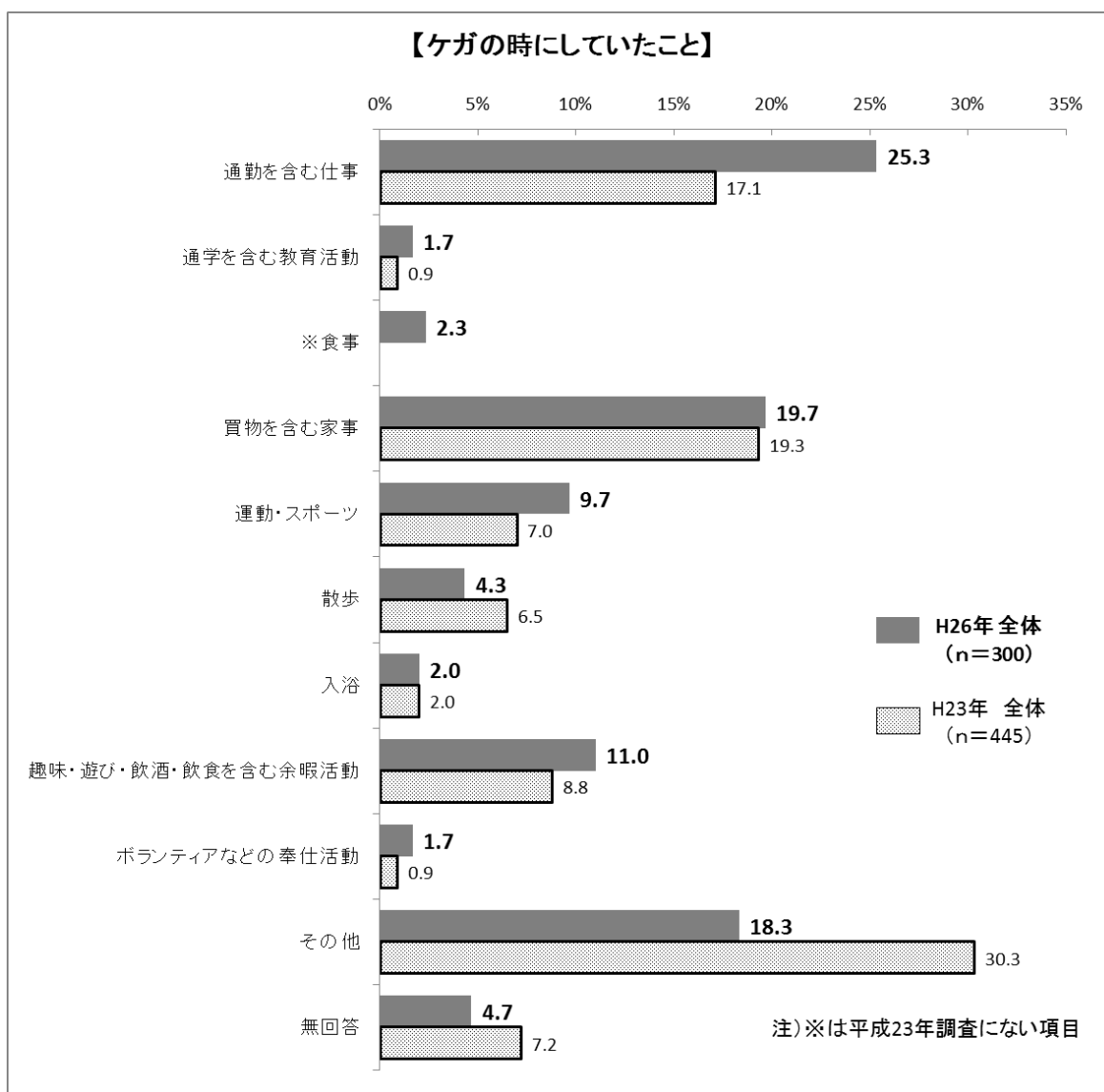
		合計 (件)	ケガの原因													
			交通事故	転倒	転落	接触・衝突	はさまれた	モノの落下	火傷	鋭利なものへの接触	虫などにかまれた・蚊などにかまれた	犬などにかまれた	暴行	異物を飲んだ	その他	無回答
全体(件)		300	16	96	8	35	9	9	20	38	18	2	1	-	38	12
	%		5.3	32.0	2.7	11.7	3.0	3.0	6.7	12.7	6.0	0.7	0.3	-	12.7	4.0
20歳代	男性	14	1	1	-	3	2	-	1	2	-	-	-	-	4	-
	%		7.1	7.1	-	21.4	14.3	-	7.1	14.3	-	-	-	-	28.6	-
	女性	20	4	4	-	2	-	1	1	5	1	-	-	-	2	-
	%		20.0	20.0	-	10.0	-	5.0	5.0	25.0	5.0	-	-	-	10.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	男性	22	2	3	-	4	-	1	1	3	1	-	1	-	6	-
	%		9.1	13.6	-	18.2	-	4.5	4.5	13.6	4.5	-	4.5	-	27.3	-
	女性	23	1	1	-	4	1	1	3	7	1	-	-	-	4	-
	%		4.3	4.3	-	17.4	4.3	4.3	13.0	30.4	4.3	-	-	-	17.4	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	男性	28	2	6	3	1	-	-	3	1	4	-	-	-	6	2
	%		7.1	21.4	10.7	3.6	-	-	10.7	3.6	14.3	-	-	-	21.4	7.1
	女性	35	2	7	2	7	1	2	5	4	-	-	-	-	4	1
	%		5.7	20.0	5.7	20.0	2.9	5.7	14.3	11.4	-	-	-	-	11.4	2.9
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50歳代	男性	24	1	11	1	2	-	1	-	3	-	2	-	-	2	1
	%		4.2	45.8	4.2	8.3	-	4.2	-	12.5	-	8.3	-	-	8.3	4.2
	女性	40	-	16	-	6	1	1	5	5	6	-	-	-	1	1
	%		-	38.1	-	14.3	2.4	2.4	11.9	11.9	14.3	-	-	-	2.4	2.4
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
60歳代	男性	23	-	8	-	2	2	-	1	2	3	-	-	-	2	3
	%		-	34.8	-	8.7	8.7	-	4.3	8.7	13.0	-	-	-	8.7	13.0
	女性	37	2	20	1	3	1	1	-	5	2	-	-	-	2	-
	%		5.4	54.1	2.7	8.1	2.7	2.7	-	13.5	5.4	-	-	-	5.4	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70歳以上	男性	11	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1
	%		9.1	63.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18.2	9.1
	女性	17	-	11	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	2	1
	%		-	64.7	5.9	5.9	-	-	-	5.9	-	-	-	-	11.8	5.9
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	男性	3	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	%		-	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3
	女性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	%		-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3

※回答者:300人(「問1」の「1.ケガをしたことがある」の回答数)

※複数回答があるため、横列の合計は「合計(件)」と異なる

(4) ケガをした時にしていたこと

問1-3. ケガをした時は何をしていましたか。(〇はひとつ)



ケガをした時にしていたことについては、「通勤を含む仕事」(25.3%)が2割台半ばと最も多く、次いで「買い物を含む家事」(19.7%)、「趣味・遊び・飲酒・飲食を含む余暇活動」(11.0%)の順となっている。

平成23年の調査結果と比較すると、「買い物を含む家事」(前回:19.3%、今回:19.7%)の割合はほぼ変わらず、「通勤を含む仕事」(前回:17.1%、今回:25.3%)や「趣味・遊び・飲酒・飲食を含む余暇活動」(前回:8.8%、今回:11.0%)の割合は高くなっている。「散歩」(前回:6.5%、今回:4.3%)時におけるケガについては前回の割合よりも低くなっている。

また、選択肢以外の「その他」では、「トイレに入っているとき」や「植木の手入れ」などが挙げられた。

IV. 調査結果の詳細

【属性別特徴】

性別・年代別にみると、20歳代や30歳代男性において「通勤を含む仕事」（20歳代：71.4%、30歳代：63.6%）の割合が高くなっている。

「買物を含む家事」（男性：7.2%、女性：29.1%）の割合は、男性よりも女性が高く、特に、30歳代から70歳以上の女性では約3割から4割を占めている。「運動・スポーツ」や「趣味・遊び・飲酒・飲食を含む余暇活動」については、男性が1割台半ばと女性よりも高くなっている。

◆表 性別・年代別◆

		合計 (件)	ケガをした時にしていたこと										
			通勤を含む仕事	通学を含む教育活動	食事	買物を含む家事	運動・スポーツ	散歩	入浴	飲食・趣味・遊び・余暇活動・飲酒	ボランティアなどの奉仕活動	その他	無回答
全体(件)		300	76	5	7	59	29	13	6	33	5	55	14
%			25.3	1.7	2.3	19.7	9.7	4.3	2.0	11.0	1.7	18.3	4.7
性別	男性	125	39	1	1	9	20	2	2	20	3	20	8
	%		31.2	0.8	0.8	7.2	16.0	1.6	1.6	16.0	2.4	16.0	6.4
	女性	172	36	4	6	50	9	10	4	13	2	35	5
	%		20.9	2.3	3.5	29.1	5.2	5.8	2.3	7.6	1.2	20.3	2.9
	無回答	3	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	%		33.3	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	33.3

IV. 調査結果の詳細

		合計 (件)	ケガをした時にしていたこと										
			通勤を含む仕事	通学を含む教育活動	食事	買物を含む家事	運動・スポーツ	散歩	入浴	飲食を含む余暇活動・趣味・遊び・飲酒	ボランティアなどの奉仕活動	その他	無回答
全体(件)		300	76	5	7	59	29	13	6	33	5	55	14
%			25.3	1.7	2.3	19.7	9.7	4.3	2.0	11.0	1.7	18.3	4.7
20歳代	男性	14	10	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
	%		71.4	-	-	-	28.6	-	-	-	-	-	-
	女性	20	10	2	1	1	-	2	-	3	-	1	-
	%		50.0	10.0	5.0	5.0	-	10.0	-	15.0	-	5.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	男性	22	14	-	-	-	2	-	-	3	-	3	-
	%		63.6	-	-	-	9.1	-	-	13.6	-	13.6	-
	女性	23	4	2	2	9	2	1	-	1	-	4	-
	%		17.4	8.7	8.7	39.1	8.7	4.3	-	4.3	-	17.4	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	男性	28	7	1	-	3	8	-	1	4	-	2	2
	%		25.0	3.6	-	10.7	28.6	-	3.6	14.3	-	7.1	7.1
	女性	35	10	-	1	12	4	1	2	-	-	4	1
	%		28.6	-	2.9	34.3	11.4	2.9	5.7	-	-	11.4	2.9
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50歳代	男性	24	4	-	1	3	5	-	-	7	1	2	1
	%		16.7	-	4.2	12.5	20.8	-	-	29.2	4.2	8.3	4.2
	女性	40	6	-	2	11	2	1	1	6	-	9	2
	%		15.0	-	5.0	27.5	5.0	2.5	2.5	15.0	-	22.5	5.0
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
60歳代	男性	23	3	-	-	-	1	2	1	4	2	7	3
	%		13.0	-	-	-	4.3	8.7	4.3	17.4	8.7	30.4	13.0
	女性	37	5	-	-	11	1	5	-	2	2	10	1
	%		13.5	-	-	29.7	2.7	13.5	-	5.4	5.4	27.0	2.7
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70歳以上	男性	11	-	-	-	3	-	-	-	2	-	5	1
	%		-	-	-	27.3	-	-	-	18.2	-	45.5	9.1
	女性	17	1	-	-	6	-	-	1	1	-	7	1
	%		5.9	-	-	35.3	-	-	5.9	5.9	-	41.2	5.9
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	男性	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	%		33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3
	女性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	3	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
%			33.3	-	-	-	33.3	-	-	-	-	33.3	

※回答者: 300人(「問1」の「1.ケガをしたことがある」の回答数)

※複数回答があるため、横列の合計は「合計(件)」と異なる

IV. 調査結果の詳細

◇ケガをした時にしていたことと、「問1-2.ケガの原因」の関係.

ケガをした時にしていたことをケガの原因別にみると、「交通事故」や「転倒」、「接触・衝突」において、ケガをした時にしていたことは「通勤を含む仕事」（交通事故：50.0%、転倒：20.8%、接触・衝突：34.3%）の割合が高くなっている。また、「転落」や「火傷」、「鋭利なものへの接触」においては、「買物を含む家事」（転落：25.0%、火傷：25.0%、鋭利なものへの接触：44.7%）をしていた時にケガをした割合が高くなっている。

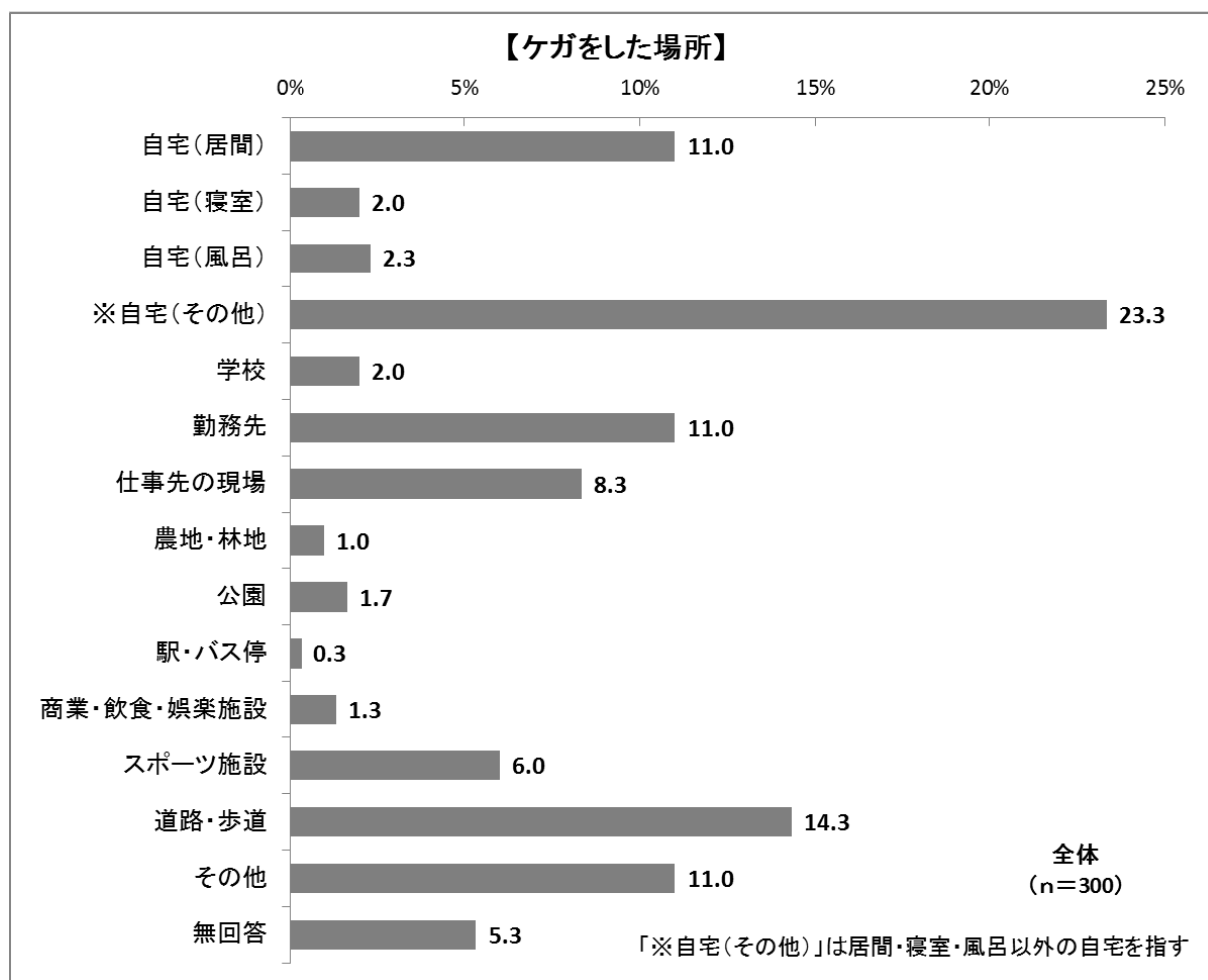
◆表 ケガの原因別・ケガをした時にしていたこと◆

	合計 (件)	ケガをした時にしていたこと											
		通勤を含む仕事	通学を含む教育活動	食事	買物を含む家事	運動・スポーツ	散歩	入浴	趣味・遊び・余暇活動・飲酒	ボランティアなどの活動	その他	無回答	
全体(件)	300	76	5	7	59	29	13	6	33	5	55	14	
%		25.3	1.7	2.3	19.7	9.7	4.3	2.0	11.0	1.7	18.3	4.7	
ケガの原因	交通事故	16	8	-	-	4	-	-	-	1	-	3	-
	%		50.0	-	-	25.0	-	-	-	6.3	-	18.8	-
	転倒	96	20	1	1	14	12	7	3	8	4	24	2
	%		20.8	1.0	1.0	14.6	12.5	7.3	3.1	8.3	4.2	25.0	2.1
	転落	8	1	1	-	2	-	-	-	1	-	3	-
	%		12.5	12.5	-	25.0	-	-	-	12.5	-	37.5	-
	接触・衝突	35	12	-	-	7	4	1	1	9	-	1	-
	%		34.3	-	-	20.0	11.4	2.9	2.9	25.7	-	2.9	-
	はさまれた	9	5	-	-	2	-	-	-	1	-	1	-
	%		55.6	-	-	22.2	-	-	-	11.1	-	11.1	-
	モノの落下	9	5	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-
	%		55.6	-	-	22.2	-	-	-	-	-	22.2	-
	火傷	20	4	-	4	5	-	-	1	1	-	5	-
	%		20.0	-	20.0	25.0	-	-	5.0	5.0	-	25.0	-
	鋭利なものへの接触	38	13	1	-	17	-	-	-	3	-	4	-
	%		34.2	2.6	-	44.7	-	-	-	7.9	-	10.5	-
	虫さされ・蚊にかまれた	18	1	-	1	5	2	1	-	2	-	8	-
	%		5.6	-	5.6	27.8	11.1	5.6	-	11.1	-	44.4	-
	犬などにかまれた	2	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
	%		-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-
暴行	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
%		100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
異物を飲んだ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	38	7	2	1	2	11	4	1	6	-	4	-	
%		18.4	5.3	2.6	5.3	28.9	10.5	2.6	15.8	-	10.5	-	
無回答	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	
%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	

※回答者: 300人(「問1」の「1.ケガをしたことがある」の回答数)
 ※複数回答があるため、横列または縦列の合計は全体の合計と異なる

(5) ケガをした場所

問1-4. ケガをした場所は、どこでしたか。(〇はひとつ)



ケガをした場所については、「自宅(その他)」(23.3%)が2割台半ばを占め、「自宅(その他)」、「自宅(居間)」、「自宅(寝室)」、「自宅(風呂)」を合計すると全体の約4割を占める。次いで、「道路・歩道」(14.3%)、「勤務先」(11.0%)が多くなっている。

また、選択肢以外の「その他」では、「近隣の家」や「駐車場」などが挙げられた。

IV. 調査結果の詳細

【属性別特徴】

性別にみると、男女ともに「自宅（その他）」（男性：15.2%、女性：29.1%）でのケガが最も多い。「自宅（居間）」、「自宅（寝室）」、「自宅（風呂）」、「自宅（その他）」を含めた『自宅』では、男性で約3割（28.8%）、女性で4割台半ば（44.7%）を占めており、女性の方が男性よりも『自宅』でのケガが多くなっている。男性では、「仕事先の現場」（15.2%）でのケガも「自宅（その他）」と並んで多くなっている。

性別・年代別にみると、女性では、30歳代や40歳代、70歳以上で「自宅（その他）」（30歳代：39.1%、40歳代：40.0%、70歳以上：41.2%）でのケガの割合が最も高くなっている。男性では、70歳以上で、「自宅（その他）」（36.4%）でのケガが3割台半ばを超えて他の年代よりも多くなっている。

また、20歳代男性で「仕事先の現場」（50.0%）でのケガが突出して多く、50歳代男性では、「道路・歩道」（37.5%）でのケガが多くなっている。

◆表 性別・年代別◆

	合計 (件)	ケガをした場所														無回答
		自宅 (居間)	自宅 (寝室)	自宅 (風呂)	自宅 (その他)	学校	勤務先	仕事 先の 現場	農地・ 林地	公園	駅・ バス 停	商業 施設・ 飲食・ 娯楽	スポ ーツ 施設	道路・ 歩道	その他	
全体(件)	300	33	6	7	70	6	33	25	3	5	1	4	18	43	33	16
	%	11.0	2.0	2.3	23.3	2.0	11.0	8.3	1.0	1.7	0.3	1.3	6.0	14.3	11.0	5.3
性別	男性	125	11	3	3	19	1	16	19	2	3	1	10	18	12	8
	%	8.8	2.4	2.4	15.2	0.8	12.8	15.2	1.6	2.4	-	0.8	8.0	14.4	9.6	6.4
	女性	172	20	3	4	50	5	17	6	1	2	3	8	25	21	8
	%	11.6	1.7	2.3	29.1	2.9	9.9	3.5	0.6	1.2	0.6	1.7	4.7	14.5	12.2	4.7
	無回答	3	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	%	66.7	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※回答者：300人（「問1」の「1.ケガをしたことがある」の回答数）

※複数回答があるため、横列の合計は「合計(件)」と異なる

IV. 調査結果の詳細

	合計 (件)	ケガをした場所															
		自宅 (居間)	自宅 (寝室)	自宅 (風呂)	自宅 (その他)	学校	勤務先	仕事 先の 現場	農地・ 林地	公園	駅・ バス停	商業・ 飲食・ 娯楽 施設	スポーツ 施設	道路・ 歩道	その他	無回答	
全体(件)	300	33	6	7	70	6	33	25	3	5	1	4	18	43	33	16	
	%	11.0	2.0	2.3	23.3	2.0	11.0	8.3	1.0	1.7	0.3	1.3	6.0	14.3	11.0	5.3	
20歳代	男性	14	-	-	-	-	2	7	-	-	-	-	2	2	1	-	
	%	-	-	-	-	-	14.3	50.0	-	-	-	-	14.3	14.3	7.1	-	
	女性	20	-	-	2	2	4	1	-	1	-	1	-	6	3	-	
	%	-	-	-	10.0	10.0	20.0	5.0	-	5.0	-	5.0	-	30.0	15.0	-	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
30歳代	男性	22	4	-	1	-	7	5	-	1	-	-	1	2	1	-	
	%	18.2	-	-	4.5	-	31.8	22.7	-	4.5	-	-	4.5	9.1	4.5	-	
	女性	23	5	-	9	1	3	1	-	-	-	1	1	1	1	-	
	%	21.7	-	-	39.1	4.3	13.0	4.3	-	-	-	4.3	4.3	4.3	4.3	-	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
40歳代	男性	28	2	1	1	4	-	4	2	-	2	-	6	3	1	2	
	%	7.1	3.6	3.6	14.3	-	14.3	7.1	-	7.1	-	-	21.4	10.7	3.6	7.1	
	女性	35	1	-	1	14	-	3	4	-	-	-	1	3	4	2	2
	%	2.9	-	2.9	40.0	-	8.6	11.4	-	-	-	-	2.9	8.6	11.4	5.7	5.7
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
50歳代	男性	24	2	1	-	4	-	2	2	-	-	-	1	9	2	1	
	%	8.3	4.2	-	16.7	-	8.3	8.3	-	-	-	-	4.2	37.5	8.3	4.2	
	女性	40	8	2	1	11	2	4	-	-	-	-	1	1	5	5	
	%	20.0	5.0	2.5	27.5	5.0	10.0	-	-	-	-	-	2.5	2.5	12.5	12.5	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
60歳代	男性	23	2	1	2	6	1	1	2	1	-	-	-	1	3	4	
	%	8.7	4.3	8.7	26.1	4.3	4.3	8.7	4.3	-	-	-	-	4.3	13.0	17.4	
	女性	37	4	-	-	7	-	3	-	1	1	1	-	3	8	8	1
	%	10.8	-	-	18.9	-	8.1	-	2.7	2.7	2.7	-	8.1	21.6	21.6	2.7	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
70歳以上	男性	11	1	-	-	4	-	-	-	1	-	-	1	1	3	-	
	%	9.1	-	-	36.4	-	-	-	9.1	-	-	9.1	-	9.1	27.3	-	
	女性	17	2	1	2	7	-	-	-	-	-	-	-	5	2	-	
	%	11.8	5.9	11.8	41.2	-	-	-	-	-	-	-	-	29.4	11.8	-	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	男性	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	
	%	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3	
	女性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無回答	3	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	%	66.7	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※回答者: 300人(「問1」の「1.ケガをしたことがある」の回答数)

※複数回答があるため、横列の合計は「合計(件)」と異なる

IV. 調査結果の詳細

◇ケガをした場所と「問1-2.ケガの原因」の関係

ケガをした場所をケガの原因別にみると、「転倒」や「転落」、「火傷」、「鋭利なものへの接触」においては、「自宅（その他）」（転倒：19.8%、転落：50.0%、火傷：60.0%、鋭利なものへの接触：39.5%）でのケガが多くなっている。

「交通事故」や「転倒」においては、「道路・歩道」（交通事故：93.8%、転倒：20.8%）でのケガが多くなっている。

「接触・衝突」においては、「仕事先の現場」（22.9%）でのケガが多くなっている。

◆表 ケガの原因別・ケガをした場所◆

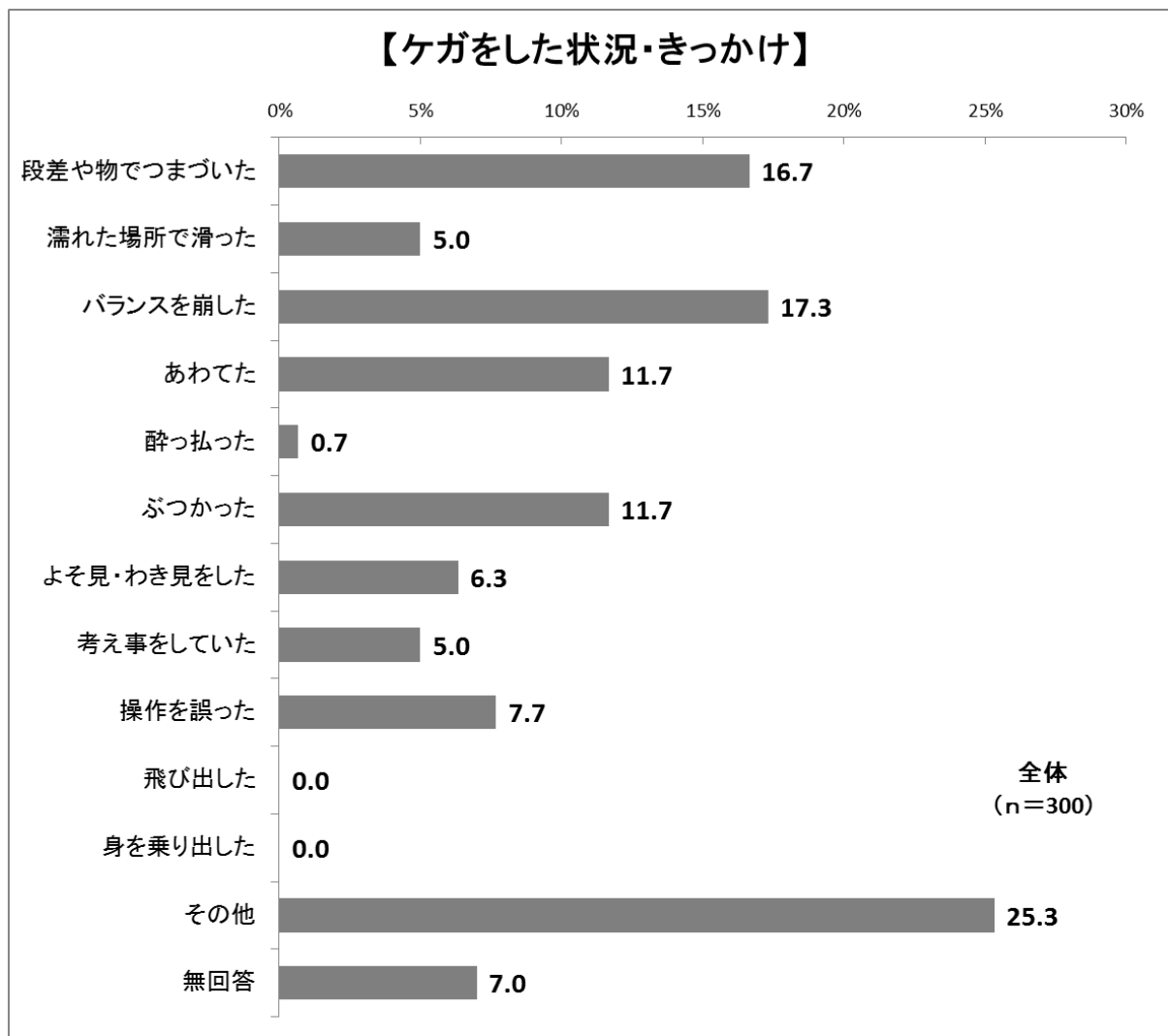
	合計 (件)	ケガをした場所														
		自宅 (居間)	自宅 (寝室)	自宅 (風呂)	自宅 (その他)	学校	勤務先	仕事 先の 現場	農地・ 林地	公園	駅・ バス 停	商業・ 飲食・ 娯 楽施設	スポ ーツ 施設	道路・ 歩道	その他	無 回 答
全体(件)	300	33	6	7	70	6	33	25	3	5	1	4	18	43	33	16
%		11.0	2.0	2.3	23.3	2.0	11.0	8.3	1.0	1.7	0.3	1.3	6.0	14.3	11.0	5.3
ケガの 原因	交通事故	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	15	-	-
	%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.3	-	93.8	-	-
	転倒	96	8	2	4	19	3	9	4	2	4	1	6	20	13	3
	%		8.3	2.1	4.2	19.8	3.1	9.4	4.2	2.1	4.2	1.0	6.3	20.8	13.5	3.1
	転落	8	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	1	2	-
	%		-	-	-	50.0	-	12.5	-	-	-	-	-	12.5	25.0	-
	接触・衝突	35	6	1	1	6	-	3	8	-	-	-	2	4	3	1
	%		17.1	2.9	2.9	17.1	-	8.6	22.9	-	-	-	5.7	11.4	8.6	2.9
	はさまれた	9	1	-	-	2	-	1	4	-	-	-	-	-	1	-
	%		11.1	-	-	22.2	-	11.1	44.4	-	-	-	-	-	11.1	-
	モノの落下	9	-	-	-	2	1	4	-	-	-	-	-	-	1	1
	%		-	-	-	22.2	11.1	44.4	-	-	-	-	-	-	11.1	11.1
	火傷	20	2	-	-	12	-	3	-	-	-	-	1	-	-	2
	%		10.0	-	-	60.0	-	15.0	-	-	-	-	5.0	-	-	10.0
	鋭利なものへの接触	38	4	2	-	15	1	9	4	-	-	-	-	-	3	-
	%		10.5	5.3	-	39.5	2.6	23.7	10.5	-	-	-	-	-	7.9	-
	虫さされ・蚊にかまれた	18	4	-	-	6	-	-	1	-	-	-	-	1	5	1
	%		22.2	-	-	33.3	-	-	5.6	-	-	-	-	5.6	27.8	5.6
	犬などにかまれた	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	%		50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-
暴行	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
%		-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	
異物を飲んだ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	38	6	1	1	3	1	3	3	1	1	-	1	9	3	4	
%		15.8	2.6	2.6	7.9	2.6	7.9	7.9	2.6	2.6	-	2.6	23.7	7.9	10.5	
無回答	12	1	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	
%		8.3	-	8.3	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7	

※回答者: 300人(「問1」の「1.ケガをしたことがある」の回答数)

※複数回答があるため、横列または縦列の合計は全体の合計と異なる

(6) ケガをした状況・きっかけ

問 1-5. ケガをした状況・きっかけは何ですか。(○はひとつ)



ケガをした状況・きっかけについては、「バランスを崩した」(17.3%)が約2割と最も多く、次いで「段差や物でつまづいた」(16.7%)、「あわてた」(11.7%)、並んで「ぶつかった」(11.7%)となっている。

また、選択肢以外の「その他」が2割台半ばを占めているが、具体的な内容としては、「車で追突された」、「気を失った」「滑った」などが挙げられた。

IV. 調査結果の詳細

【属性別特徴】

性別にみると、男性では「バランスを崩した」(18.4%)が最も多く、女性では「段差や物でつまづいた」(20.3%)が最も多くなっている。

性別・年代別にみると、20歳代の男女ともに「ぶつかった」(男性：21.4%、女性30.0%)が最も多く、30歳代男性では、「操作を誤った」(22.7%)、30歳代女性では、「あわてた」(21.7%)や「ぶつかった」(21.7%)が最も多くなっている。40歳代や50歳代男性では「バランスを崩した」(40歳代：25.0%、50歳代：33.3%)が最も多い。

50歳代女性や、60歳代女性、70歳以上の男性では、「段差や物でつまづいた」(女性50歳代：17.5%、60歳代女性：32.4%、70歳以上男性：27.3%)が他よりも多く、年代が上がるほど多い傾向にある。

70歳以上女性のケガをした状況・きっかけでは、「バランスを崩した」(58.8%)が約6割と男性や他の年代よりも多くなっている。

◆表 性別・年代別◆

	合計 (件)	ケガをした状況・きっかけ													
		ぶ 段 差 や 物 で つま づ い た	滑 濡 っ た 場 所 で	た バ ラ ン ス を 崩 し	あ わ て た	酔 っ 払 っ た	ぶ つ か っ た	を よ そ 見 ・ わ き 見	た 考 え 事 を し て い	操 作 を 誤 っ た	飛 び 出 し た	身 を 乗 り 出 し た	そ の 他	無 回 答	
全体(件)	300	50	15	52	35	2	35	19	15	23	-	-	76	21	
	%	16.7	5.0	17.3	11.7	0.7	11.7	6.3	5.0	7.7	-	-	25.3	7.0	
性別	男性	125	15	10	23	8	1	11	5	4	11	-	-	36	10
	%	12.0	8.0	18.4	6.4	0.8	8.8	4.0	3.2	8.8	-	-	28.8	8.0	
	女性	172	35	5	27	27	1	24	14	10	12	1	-	39	11
	%	20.3	2.9	15.7	15.7	0.6	14.0	8.1	5.8	7.0	0.6	-	22.7	6.4	
	無回答	3	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	0	0
	%	-	-	66.7	-	-	-	-	33.3	-	-	-	0.0	0.0	

※回答者：300人(「問1」の「1.ケガをしたことがある」の回答数)

※複数回答があるため、横列の合計は「合計(件)」と異なる

IV. 調査結果の詳細

		合計 (件)	ケガをした状況・きっかけ											その他	無回答
			づ 段 差 や 物 で つ ま	滑 濡 れ た 場 所 で	た バ ラ ン ス を 崩 し	あ わ て た	酔 っ 払 つ た	ぶ つ か つ た	を よ そ 見 ・ わ き 見	た 考 え 事 を し て い	操 作 を 誤 つ た	飛 び 出 し た	身 を 乗 り 出 し た		
全体(件)		300	50	15	52	35	2	35	19	15	23	-	-	76	21
	%		16.7	5.0	17.3	11.7	0.7	11.7	6.3	5.0	7.7	-	-	25.3	7.0
20歳代	男性	14	-	2	2	-	-	3	-	1	2	-	-	4	-
	%		-	14.3	14.3	-	-	21.4	-	7.1	14.3	-	-	28.6	-
	女性	20	3	-	4	3	1	6	2	2	3	-	-	4	-
	%		15.0	-	20.0	15.0	5.0	30.0	10.0	10.0	15.0	-	-	20.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	男性	22	4	-	2	2	-	2	2	-	5	-	-	8	-
	%		18.2	-	9.1	9.1	-	9.1	9.1	-	22.7	-	-	36.4	-
	女性	23	1	-	1	5	-	5	1	3	3	-	-	5	2
	%		4.3	-	4.3	21.7	-	21.7	4.3	13.0	13.0	-	-	21.7	8.7
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	男性	28	-	1	7	2	-	2	-	1	2	-	-	10	3
	%		-	3.6	25.0	7.1	-	7.1	-	3.6	7.1	-	-	35.7	10.7
	女性	35	5	-	3	8	-	5	1	3	4	-	-	11	2
	%		14.3	-	8.6	22.9	-	14.3	2.9	8.6	11.4	-	-	31.4	5.7
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50歳代	男性	24	5	-	8	1	1	2	2	-	2	-	-	4	1
	%		20.8	-	33.3	4.2	4.2	8.3	8.3	-	8.3	-	-	16.7	4.2
	女性	40	7	2	3	4	-	5	4	1	2	-	-	11	3
	%		17.5	5.0	7.5	10.0	-	12.5	10.0	2.5	5.0	-	-	27.5	7.5
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
60歳代	男性	23	3	5	2	3	-	2	-	2	-	-	-	4	5
	%		13.0	21.7	8.7	13.0	-	8.7	-	8.7	-	-	-	17.4	21.7
	女性	37	12	2	6	5	-	3	3	-	-	-	-	8	3
	%		32.4	5.4	16.2	13.5	-	8.1	8.1	-	-	-	-	21.6	8.1
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70歳以上	男性	11	3	2	2	-	-	-	1	-	-	-	-	4	-
	%		27.3	18.2	18.2	-	-	-	9.1	-	-	-	-	36.4	-
	女性	17	7	1	10	2	-	-	3	1	-	-	-	1	1
	%		41.2	5.9	58.8	11.8	-	-	17.6	5.9	-	-	-	5.9	5.9
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	男性	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1
	%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7	33.3
	女性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	3	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	%		-	-	66.7	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-

※回答者:300人(「問1」の「1.ケガをしたことがある」の回答数)

※複数回答があるため、横列の合計は「合計(件)」と異なる

IV. 調査結果の詳細

◇ケガをした状況・きっかけと「問1-2.ケガの原因」の関係

ケガをした状況・きっかけをケガの原因別にみると、「交通事故」、「接触・衝突」、「はさまれた」におけるケガの状況は、「ぶつかった」（交通事故：37.5%、接触・衝突：54.3%、はさまれた：22.2%）が最も多く、「転落」や「モノの落下」では、「バランスを崩した」（転落：75.0%、モノの落下：33.3%）が多くなっている。また、「転倒」におけるケガの状況は、「段差や物でつまづいた」（44.8%）が最も多く、「火傷」や「鋭利なものへの接触」では「操作を誤った」（火傷：25.0%、鋭利なものへの接触：28.9%）が最も多くなっている。

◆表 ケガの原因別・ケガをした状況・きっかけ◆

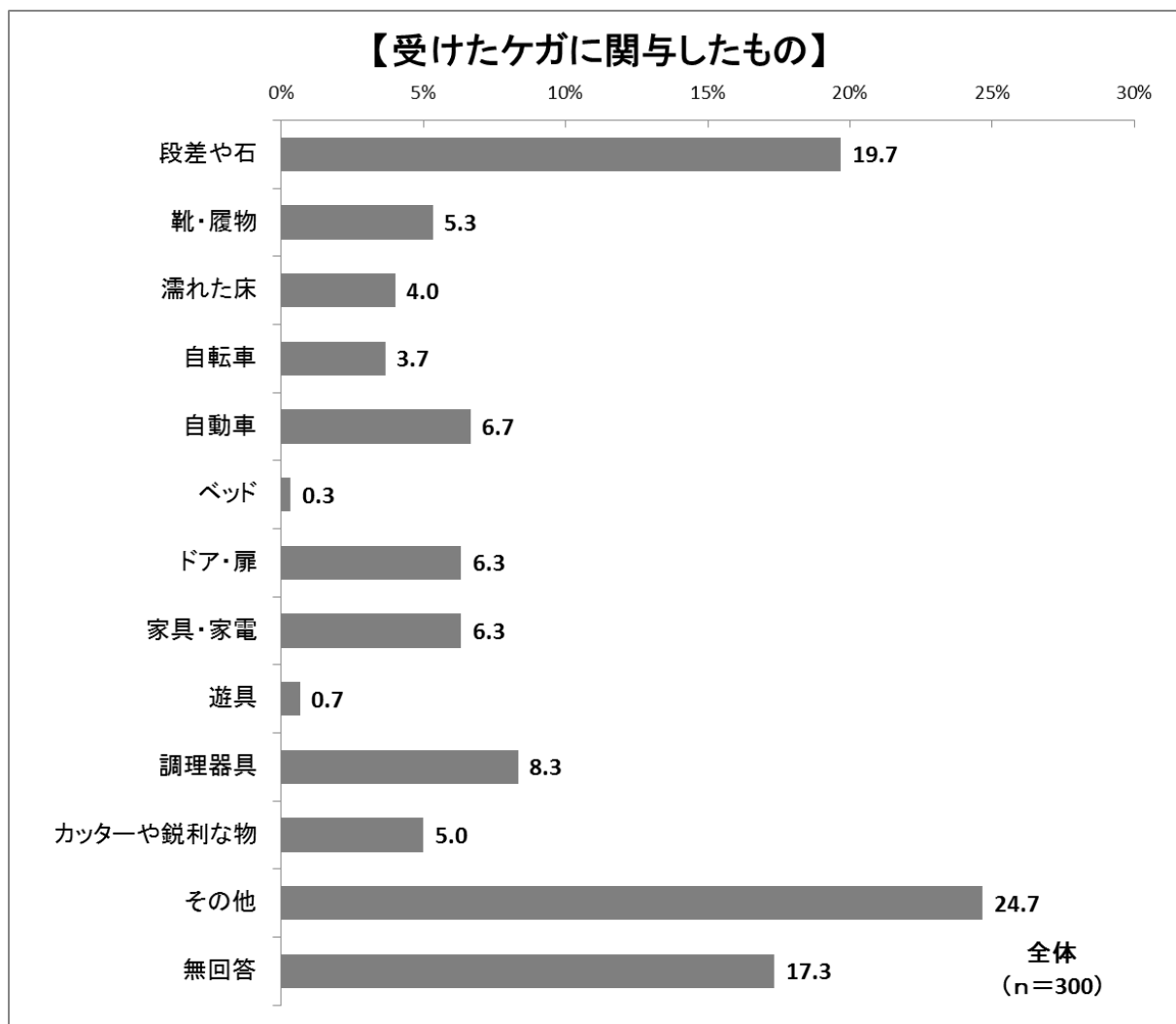
	合計 (件)	ケガをした状況・きっかけ													
		まぶ つ	段差 いや 物で つ	濡 れた 場所 で	し た バ ラン スを 崩	あ わ て た	酔 っ 払 っ た	ぶ つ か っ た	見 よ そ 見 た ・ わ き	い 考 え 事 を し て	操 作 を 誤 っ た	飛 び 出 し た	た 身 を 乗 り 出 し	そ の 他	無 回 答
全体(件)	300	50	15	52	35	2	35	19	15	23	-	-	76	21	
%		16.7	5.0	17.3	11.7	0.7	11.7	6.3	5.0	7.7	-	-	25.3	7.0	
ケ ガ の 原 因	交通事故	16	-	1	2	-	-	6	-	-	1	-	-	8	-
	%		-	6.3	12.5	-	-	37.5	-	-	6.3	-	-	50.0	-
	転倒	96	43	12	31	8	1	3	8	2	-	-	-	8	1
	%		44.8	12.5	32.3	8.3	1.0	3.1	8.3	2.1	-	-	-	8.3	1.0
	転落	8	1	-	6	1	-	-	1	1	1	-	-	2	-
	%		12.5	-	75.0	12.5	-	-	12.5	12.5	12.5	-	-	25.0	-
	接触・衝突	35	3	1	5	7	-	19	1	2	3	-	-	3	1
	%		8.6	2.9	14.3	20.0	-	54.3	2.9	5.7	8.6	-	-	8.6	2.9
	はさまれた	9	-	-	-	1	-	2	1	1	1	-	-	3	1
	%		-	-	-	11.1	-	22.2	11.1	11.1	11.1	-	-	33.3	11.1
	モノの落下	9	-	-	3	1	-	1	-	-	1	-	-	2	1
	%		-	-	33.3	11.1	-	11.1	-	-	11.1	-	-	22.2	11.1
	火傷	20	-	-	1	4	-	1	1	-	5	-	-	8	1
	%		-	-	5.0	20.0	-	5.0	5.0	-	25.0	-	-	40.0	5.0
	鋭利なものへの接触	38	1	-	-	8	-	1	3	5	11	-	-	10	-
	%		2.6	-	-	21.1	-	2.6	7.9	13.2	28.9	-	-	26.3	-
	虫さされ・蚊にかまれた	18	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	11	4
	%		-	-	-	5.6	-	-	-	11.1	-	-	-	61.1	22.2
	犬などにかまれた	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
	%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
暴行	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
異物を飲んだ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	38	2	-	3	5	1	1	4	2	-	-	-	18	4	
%		5.3	-	7.9	13.2	2.6	2.6	10.5	5.3	-	-	-	47.4	10.5	
無回答	12	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	9	
%		-	8.3	8.3	-	-	8.3	-	-	-	-	-	-	75.0	

※回答者：300人（「問1」の「1.ケガをしたことがある」の回答数）

※複数回答があるため、横列または縦列の合計は全体の合計と異なる

(7) 受けたケガに関与したもの

問1-6. 受けたケガに関与したモノがあれば、それは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



受けたケガに関与したものについては、「段差や石」(19.7%)が約2割と最も多く、次いで「調理器具」(8.3%)、「自動車」(6.7%)の順となっている。

また、選択肢以外の「その他」が2割台半ばを占めているが、具体的な内容としては、「犬」や「猫」などの『動物』や「虫」、「紙」などが挙げられた。

IV. 調査結果の詳細

【属性別特徴】

性別にみると、男女ともに「段差や石」（男性：17.6%、女性：20.9%）が他に比べて最も多くなっている。また、女性において次いで多かったものが「調理器具」（12.8%）となっており、男性よりも大きな割合を占めている。

性別・年代別にみると、年代が上がるほど、「段差や石」がケガに関与した割合が高い傾向にある。特に、50歳代男性や70歳以上の女性において「段差や石」（50歳代男性：37.5%、70歳以上女性：35.3%）の割合が他よりも高くなっている。30歳代や40歳代の女性においては、「調理器具」（30歳代：26.1%、40歳代：17.1%）によるケガが多くなっている。

◆表 性別・年代別◆

	合計 (件)	受けたケガに関与したもの													
		段差 や石	靴・ 履物	濡れ た床	自 転車	自 動車	ベ ッド	ド ア・ 扉	家 具・ 家電	遊 具	調 理 器 具	鋭 利な 物 や	カ ッタ ー や	そ の 他	無 回 答
全体(件)	300	59	16	12	11	20	1	19	19	2	25	15	74	52	
	%	19.7	5.3	4.0	3.7	6.7	0.3	6.3	6.3	0.7	8.3	5.0	24.7	17.3	
性別	男性	125	22	10	7	2	9	1	9	3	2	3	7	37	25
		%	17.6	8.0	5.6	1.6	7.2	0.8	7.2	2.4	1.6	2.4	5.6	29.6	20.0
	女性	172	36	6	5	9	11	-	10	15	-	22	8	36	27
		%	20.9	3.5	2.9	5.2	6.4	-	5.8	8.7	-	12.8	4.7	20.9	15.7
	無回答	3	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
		%	33.3	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	33.3	-

※回答者：300人（「問1」の「1.ケガをしたことがある」の回答数）

※複数回答があるため、横列の合計は「合計（件）」と異なる

IV. 調査結果の詳細

	合計 (件)	受けたケガに関与したもの													
		段差 や石	靴・履物	濡れた床	自転車	自動車	ベッド	ドア・扉	家具・家電	遊具	調理器具	鋭利な物 カッターや	その他	無回答	
全体(件)	300	59	16	12	11	20	1	19	19	2	25	15	74	52	
%		19.7	5.3	4.0	3.7	6.7	0.3	6.3	6.3	0.7	8.3	5.0	24.7	17.3	
20歳代	男性	14	1	-	-	1	1	-	-	1	1	-	1	7	2
	%		7.1	-	-	7.1	7.1	-	-	7.1	7.1	-	7.1	50.0	14.3
	女性	20	4	2	1	1	5	-	-	1	-	1	1	9	-
	%		20.0	10.0	5.0	5.0	25.0	-	-	5.0	-	5.0	5.0	45.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	男性	22	4	1	1	-	2	-	4	-	-	-	3	7	3
	%		18.2	4.5	4.5	-	9.1	-	18.2	-	-	-	13.6	31.8	13.6
	女性	23	2	-	-	1	1	-	-	3	-	6	4	3	3
	%		8.7	-	-	4.3	4.3	-	-	13.0	-	26.1	17.4	13.0	13.0
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	男性	28	1	1	2	-	2	-	2	-	-	1	1	9	9
	%		3.6	3.6	7.1	-	7.1	-	7.1	-	-	3.6	3.6	32.1	32.1
	女性	35	6	2	-	1	4	-	4	2	-	6	1	7	4
	%		17.1	5.7	-	2.9	11.4	-	11.4	5.7	-	17.1	2.9	20.0	11.4
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50歳代	男性	24	9	-	-	-	3	-	1	1	1	1	1	5	4
	%		37.5	-	-	-	12.5	-	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	20.8	16.7
	女性	40	9	1	2	1	-	-	2	5	-	4	2	9	7
	%		22.5	2.5	5.0	2.5	-	-	5.0	12.5	-	10.0	5.0	22.5	17.5
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
60歳代	男性	23	4	4	3	-	1	1	2	1	-	1	1	4	6
	%		17.4	17.4	13.0	-	4.3	4.3	8.7	4.3	-	4.3	4.3	17.4	26.1
	女性	37	9	1	1	2	1	-	2	2	-	5	-	6	9
	%		24.3	2.7	2.7	5.4	2.7	-	5.4	5.4	-	13.5	-	16.2	24.3
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70歳以上	男性	11	2	4	1	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-
	%		18.2	36.4	9.1	9.1	-	-	-	-	-	-	-	36.4	-
	女性	17	6	-	1	3	-	-	2	2	-	-	-	2	4
	%		35.3	-	5.9	17.6	-	-	11.8	11.8	-	-	-	11.8	23.5
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	男性	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	%		33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3
	女性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	3	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
%		33.3	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	33.3	-	

※回答者:300人(「問1」の「1.ケガをしたことがある」の回答数)

※複数回答があるため、横列の合計は「合計(件)」と異なる

IV. 調査結果の詳細

◇受けたケガに関連したものと「問1-2.ケガの原因」の関係

受けたケガに関連したものをケガの原因別にみると、「転倒」や「転落」においては、「段差や石」（転倒：46.9%、転落：25.0%）の割合が最も高い。「火傷」や「鋭利なものへの接触」においては「調理器具」（火傷：45.0%、鋭利なものへの接触：42.1%）が高くなっている。

「接触・衝突」や「モノの落下」においては「家具・家電」（接触・衝突：22.9%、モノの落下：22.2%）の割合が高くなっている。

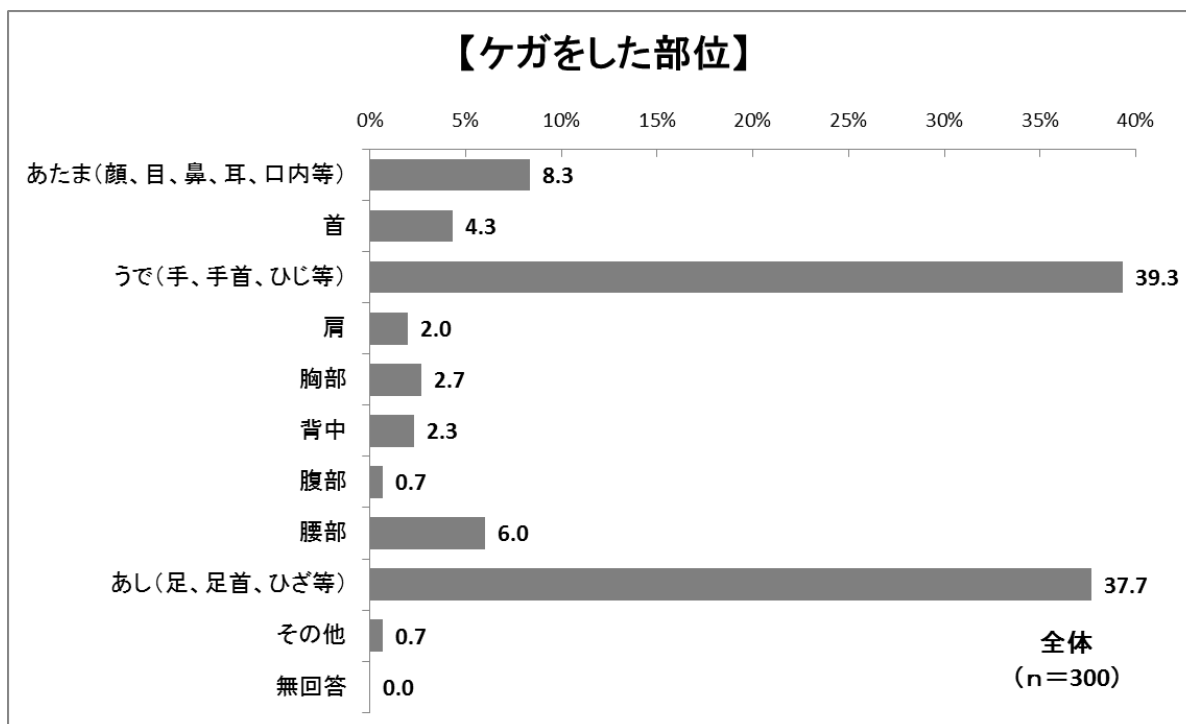
◆表 ケガの原因別・ケガに関連したもの◆

	合計 (件)	受けたケガに関連したもの													
		段差 や石	靴・ 履物	濡れ た床	自 転車	自 動車	ベ ッド	ド ア・ 扉	家 具・ 家電	遊 具	調 理器 具	鋭 利な 物 や	カ ッタ ー や	そ の 他	無 回 答
全体(件)	300	59	16	12	11	20	1	19	19	2	25	15	74	52	
%		19.7	5.3	4.0	3.7	6.7	0.3	6.3	6.3	0.7	8.3	5.0	24.7	17.3	
ケ ガ の 原 因	交通事故	16	-	-	3	13	-	1	-	-	-	-	4	-	
	%		-	-	18.8	81.3	-	6.3	-	-	-	-	25.0	-	
	転倒	96	45	11	10	6	2	-	4	6	-	-	12	14	
	%		46.9	11.5	10.4	6.3	2.1	-	4.2	6.3	-	-	12.5	14.6	
	転落	8	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	
	%		25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37.5	37.5	
	接触・衝突	35	2	1	1	2	2	-	7	8	2	-	-	10	1
	%		5.7	2.9	2.9	5.7	5.7	-	20.0	22.9	5.7	-	-	28.6	2.9
	はさまれた	9	1	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	2	2
	%		11.1	-	-	-	11.1	-	33.3	-	-	-	-	22.2	22.2
	モノの落下	9	1	-	-	-	1	-	-	2	-	-	1	2	2
	%		11.1	-	-	-	11.1	-	-	22.2	-	-	11.1	22.2	22.2
	火傷	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	7	4
	%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	45.0	-	35.0	20.0
	鋭利なものへの接触	38	1	-	-	-	-	-	-	1	-	16	13	7	-
	%		2.6	-	-	-	-	-	-	2.6	-	42.1	34.2	18.4	-
	虫さされ・蚊にかまれた	18	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	4	11
	%		-	-	-	-	-	5.6	11.1	-	-	-	-	22.2	61.1
	犬などにかまれた	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
	%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
暴行	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
異物を飲んだ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	38	7	3	1	-	1	-	2	1	-	-	1	19	8	
%		18.4	7.9	2.6	-	2.6	-	5.3	2.6	-	-	2.6	50.0	21.1	
無回答	12	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	9	
%		-	8.3	-	-	-	-	-	8.3	-	-	-	8.3	75.0	

※回答者：300人（「問1」の「1.ケガをしたことがある」の回答数）
 ※複数回答があるため、横列または縦列の合計は全体の合計と異なる

(8) ケガをした部位

問1-7. ケガをした部位（からだの場所）はどこですか。（○はひとつ）



ケガをした部位については、「うで（手、手首、ひじ等）」（39.3%）が約4割と最も多く、次いで「あし（足、足首、ひざ等）」（37.7%）、「あたま（顔、目、鼻、耳、口内等）」（8.3%）の順となっている。

また、選択肢以外の「その他」では、「からだ全体」が挙げられた。

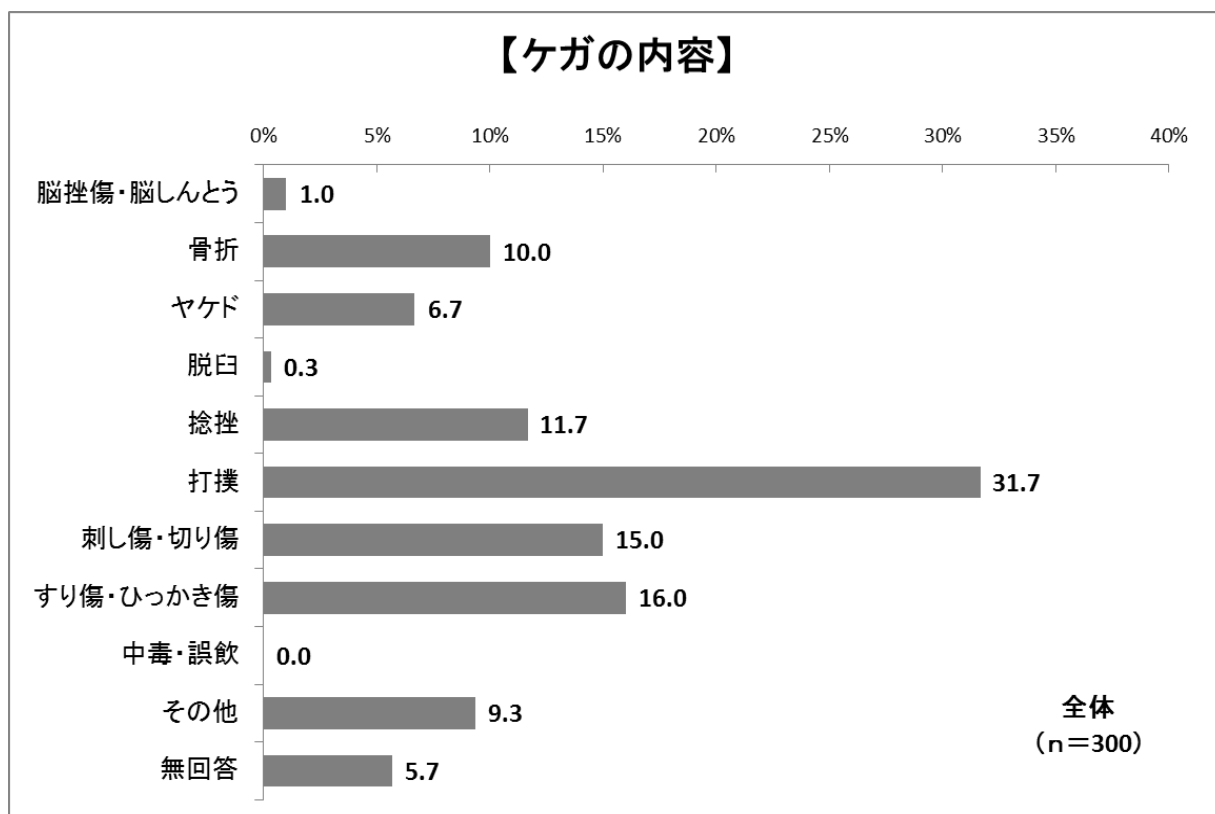
ケガをした部位	件数	%
全体(件)	300	100
あたま(顔、目、鼻、耳、口内等)	25	8.3
首	13	4.3
うで(手、手首、ひじ等)	118	39.3
肩	6	2.0
胸部	8	2.7
背中	7	2.3
腹部	2	0.7
腰部	18	6.0
あし(足、足首、ひざ等)	113	37.7
その他	2	0.7
無回答	0	0.0

※回答者:300人(「問1」の「1.ケガをしたことがある」の回答数)

※複数回答があるため、設問の回答数の合計は”全体(件)”と異なる

(9) ケガの内容

問1-8. どのようなケガでしたか。(〇はひとつ)



ケガの内容については、「打撲」(31.7%)が約3割と最も多く、次いで「すり傷・ひっかき傷」(16.0%)「刺し傷・切り傷」(15.0%)の順となっている。

また、選択肢以外の「その他」では、「肉離れ」や「虫刺され」、「アキレス断裂」などが挙げられた。

【属性別特徴】

性別にみると、男女ともに「打撲」（男性：31.2%、女性：32.6%）の割合が最も高くなっている。特に、60歳代男性や50歳代女性で「打撲」（60歳代男性：39.1%、50歳代女性：45.0%）の割合が高くなっており、50歳代女性においては、約2人に1人が「打撲」のケガをしている。

男性では、「打撲」に次いで多いケガの内容は、「捻挫」（16.8%）であるのに対し、女性では「刺し傷・切り傷」（18.0%）が多くなっている。

また、20歳代女性では、「すり傷・ひっかき傷」（30.0%）、30歳代女性では、「刺し傷・切り傷」（43.5%）、70歳以上女性では「骨折」（35.3%）が最も多くなっている。

◆表 性別・年代別◆

	合計 (件)	ケガの内容											
		と脳 う挫 傷・ 脳し ん	骨 折	ヤ ケ ド	脱 臼	捻 挫	打 撲	刺 し 傷 ・ 切 り 傷	き すり 傷 ・ ひ っ か	中 毒 ・ 誤 飲	そ の 他	無 回 答	
全体(件)	300	3	30	20	1	35	95	45	48	-	28	17	
	%	1.0	10.0	6.7	0.3	11.7	31.7	15.0	16.0	-	9.3	5.7	
性別	男性	125	1	10	7	-	21	39	14	18	-	15	7
		%	0.8	8.0	5.6	-	16.8	31.2	11.2	14.4	-	12.0	5.6
	女性	172	3	21	13	-	13	56	31	27	-	13	10
		%	1.7	12.2	7.6	-	7.6	32.6	18.0	15.7	-	7.6	5.8
	無回答	3	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-
	%	-	33.3	-	33.3	-	-	-	33.3	-	-	-	

※回答者：300人（「問1」の「1.ケガをしたことがある」の回答数）

※複数回答があるため、横列または縦列の合計は全体の合計と異なる

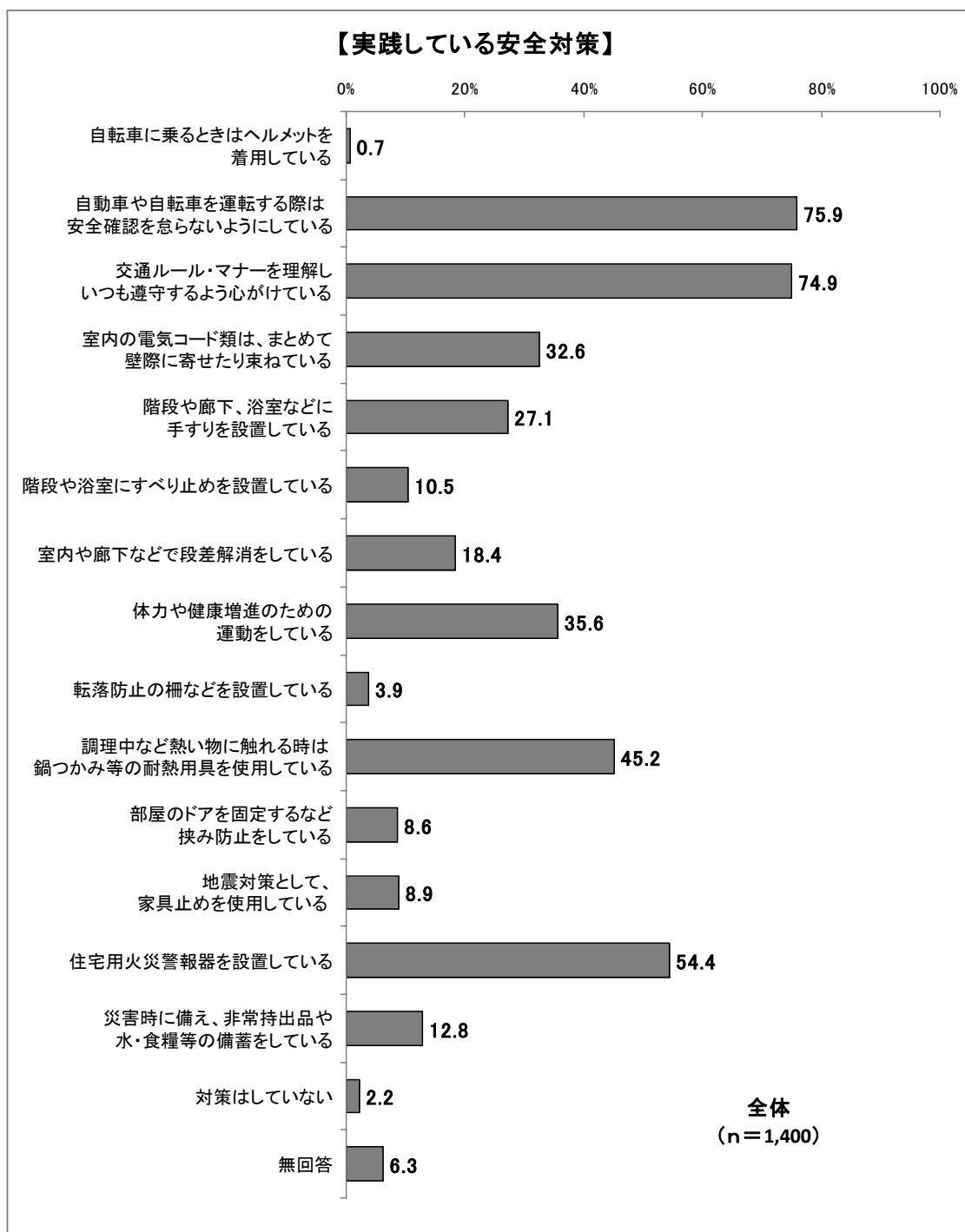
IV. 調査結果の詳細

		合計 (件)	ケガの内容										
			と う 脳 挫 傷 ・ 脳 し ん	骨 折	ヤ ケ ド	脱 臼	捻 挫	打 撲	刺 し 傷 ・ 切 り 傷	き ず り 傷 ・ ひ っ か	中 毒 ・ 誤 飲	そ の 他	無 回 答
全体(件)		300	3	30	20	1	35	95	45	48	-	28	17
	%		1.0	10.0	6.7	0.3	11.7	31.7	15.0	16.0	-	9.3	5.7
20歳代	男性	14	-	-	1	-	3	4	4	3	-	1	-
	%		-	-	7.1	-	21.4	28.6	28.6	21.4	-	7.1	-
	女性	20	-	1	1	-	3	5	3	6	-	2	1
	%		-	5.0	5.0	-	15.0	25.0	15.0	30.0	-	10.0	5.0
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	男性	22	-	1	2	-	5	6	5	3	-	2	-
	%		-	4.5	9.1	-	22.7	27.3	22.7	13.6	-	9.1	-
	女性	23	-	1	2	-	2	3	10	4	-	-	1
	%		-	4.3	8.7	-	8.7	13.0	43.5	17.4	-	-	4.3
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	男性	28	-	1	3	-	6	10	1	3	-	4	2
	%		-	3.6	10.7	-	21.4	35.7	3.6	10.7	-	14.3	7.1
	女性	35	-	2	5	-	1	13	5	6	-	7	1
	%		-	5.7	14.3	-	2.9	37.1	14.3	17.1	-	20.0	2.9
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50歳代	男性	24	-	2	-	-	3	6	3	5	-	4	1
	%		-	8.3	-	-	12.5	25.0	12.5	20.8	-	16.7	4.2
	女性	40	-	2	4	-	2	18	7	4	-	3	4
	%		-	5.0	10.0	-	5.0	45.0	17.5	10.0	-	7.5	10.0
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
60歳代	男性	23	-	2	1	-	2	9	1	3	-	3	3
	%		-	8.7	4.3	-	8.7	39.1	4.3	13.0	-	13.0	13.0
	女性	37	1	8	-	-	3	12	5	5	-	1	3
	%		2.7	21.6	-	-	8.1	32.4	13.5	13.5	-	2.7	8.1
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70歳以上	男性	11	1	2	-	-	2	3	-	2	-	1	-
	%		9.1	18.2	-	-	18.2	27.3	-	18.2	-	9.1	-
	女性	17	1	6	1	-	3	5	1	3	-	-	-
	%		5.9	35.3	5.9	-	17.6	29.4	5.9	17.6	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	男性	3	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	%		-	33.3	-	-	-	33.3	-	-	-	-	33.3
	女性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	3	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-
	%		-	33.3	-	33.3	-	-	-	33.3	-	-	-

※回答者:300人(「問1」の「1.ケガをしたことがある」の回答数)
 ※複数回答があるため、横列または縦列の合計は全体の合計と異なる

(10) 日常生活において実践している安全対策

問2. あなたの日常生活における安全対策に関する質問です。以下の選択肢の中で、実践している項目に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)



日常生活において実施している安全対策については、「自動車や自転車を運転する際には安全確認を怠らないようにしている」(75.9%)が8割近くと最も多く、次いで「交通ルール・マナーを理解しいつも遵守するよう心がけている」(74.9%)が7割台半ばとなっている。また、「住宅用火災警報器を設置している」(54.4%)も5割台半ばと多くなっている。一方、「自転車に乗る時はヘルメットを着用している」(0.7%)や「転落防止の柵などを設置している」(3.9%)は他の項目に比べて実践度が低い。

IV. 調査結果の詳細

【属性別特徴】

性別にみると、男性は、「自動車や自転車を運転する際は、安全確認を怠らないようにしている」(83.6%)が最も多く、女性では「交通ルール・マナーを理解し、いつも遵守するよう心がけている」(74.5%)が最も多くなっている。「調理中など熱い物に触れる時は、鍋つかみ等の耐熱用具を使用している」については、男性間で大きな差がみられ、男性では約4割(38.1%)に対し、女性では約6割(58.8%)となっている。

性別・年代別にみると、男女・各年代ともに「自動車や自転車を運転する際は、安全確認を怠らないようにしている」の割合が7割から9割に近いなか、70歳以上の女性においては、約5割(47.5%)と割合が特に低い。また、50歳代男性においては「交通ルール・マナーを理解し、いつも遵守するよう心がけている」(85.0%)の割合も他に比べて高くなっている。

70歳以上の男女において、「住宅用火災警報器を設置している」(男性:69.9%、女性:67.8%)の割合が7割近くを占め、若い年代よりも高い傾向にある。

◆表 性別◆

		合計 (件)	安全対策について実践している項目							
			メ 自 ト 車 を に 着 乗 る と き は 、 ヘル	よ 際 自 動 車 に 安 全 認 認 を 怠 ら な す い る	が し 交 通 い つ も ル ・ マ ナ ー を 守 ら な す い る	て と 室 内 の 壁 電 気 に コ ー ド 類 は 束 ね ま	す 階 段 を や 廊 下 し 、 浴 室 な ど に 手	設 置 し て 浴 室 に す べ り 止 め を	を 室 内 や 廊 下 な ど で 段 差 解 消	動 体 力 を し て 健 康 増 進 の た め の 運
全体(件)		1,400	10	1,062	1,049	456	380	147	258	512
%			0.7	75.9	74.9	32.6	27.1	10.5	18.4	36.6
性別	男性	633	8	529	501	180	175	68	121	269
	%		1.3	83.6	79.1	28.4	27.6	10.7	19.1	42.5
	女性	718	2	520	535	270	199	77	133	238
	%		0.3	72.4	74.5	37.6	27.7	10.7	18.5	33.1
	無回答	49	-	13	13	6	6	2	4	5
%			-	26.5	26.5	12.2	12.2	4.1	8.2	10.2

※回答者:1,400人

※複数回答があるため、横列または縦列の合計は全体の合計と異なる

	合計 (件)	安全対策について実践している項目								
		て転 い落 防 止 の 柵 な ど を 設 置 し	具 時 調 理 中 な ど 熱 い 物 に 触 れ る	挟 部 屋 の ド ア を 固 定 す る な ど	を 地 震 対 策 と し て 、 家 具 止 め	て 住 宅 用 火 災 警 報 器 を 設 置 し	い や 災 害 時 に 備 え 、 非 常 持 出 品	対 策 は し て い な い	無 回 答	
全体(件)	1,400	66	668	144	143	829	204	31	88	
	%	4.7	47.7	10.3	10.2	59.2	14.6	2.2	6.3	
性別	男性	633	41	241	52	74	363	85	17	28
		%	6.5	38.1	8.2	11.7	57.3	13.4	2.7	4.4
	女性	718	21	422	91	68	454	116	14	29
		%	2.9	58.8	12.7	9.5	63.2	16.2	1.9	4.0
	無回答	49	4	5	1	1	12	3	-	31
		%	-	8.2	10.2	2.0	2.0	24.5	6.1	-

※回答者:1,400人

※複数回答があるため、横列または縦列の合計は全体の合計と異なる

IV. 調査結果の詳細

◆表 性別・年代別◆

	合計 (件)	安全対策について実践している項目								
		メ ット に 乗 る と き は 、 ヘル	よ う に し て い る	自 動 車 や 自 転 車 を 運 転 す る	が し 、 交 通 ル ー ル ・ マ ナー を 理 解	と め て 壁 際 に 寄 せ た り 束 ね	す 階 段 や 廊 下 、 浴 室 な ど に 手	設 置 し て い る	を し て い る	動 体 力 や 健 康 増 進 の た め の 運
全体(件)	1,400	10	1,062	1,049	456	380	147	258	512	
	%	0.7	75.9	74.9	32.6	27.1	10.5	18.4	36.6	
20歳代	男性	58	1	46	46	9	11	5	1	23
	%	1.7	79.3	79.3	15.5	19.0	8.6	1.7	39.7	
	女性	85	-	68	65	20	10	4	3	19
	%	-	80.0	76.5	23.5	11.8	4.7	3.5	22.4	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	-	-	
30歳代	男性	88	-	76	70	25	21	4	9	25
	%	-	86.4	79.5	28.4	23.9	4.5	10.2	28.4	
	女性	103	-	77	83	37	25	5	19	19
	%	-	74.8	80.6	35.9	24.3	4.9	18.4	18.4	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	-	-	
40歳代	男性	106	1	93	76	31	26	6	17	31
	%	0.9	87.7	71.7	29.2	24.5	5.7	16.0	29.2	
	女性	120	-	94	92	39	31	8	25	34
	%	-	78.3	76.7	32.5	25.8	6.7	20.8	28.3	
	無回答	1	-	1	1	-	-	-	1	-
	%	-	100.0	100.0	-	-	-	100.0	-	
50歳代	男性	120	1	107	102	32	39	18	27	53
	%	0.8	89.2	85.0	26.7	32.5	15.0	22.5	44.2	
	女性	122	-	103	95	47	29	10	22	38
	%	-	84.4	77.9	38.5	23.8	8.2	18.0	31.1	
	無回答	1	-	-	1	1	-	-	-	-
	%	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	
60歳代	男性	165	4	139	133	55	51	24	37	81
	%	2.4	84.2	80.6	33.3	30.9	14.5	22.4	49.1	
	女性	169	-	122	123	73	60	28	36	70
	%	-	72.2	72.8	43.2	35.5	16.6	21.3	41.4	
	無回答	4	-	3	2	2	2	2	2	2
	%	-	75.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
70歳以上	男性	93	1	66	72	28	25	10	30	55
	%	1.1	71.0	77.4	30.1	26.9	10.8	32.3	59.1	
	女性	118	2	56	77	53	43	21	28	57
	%	1.7	47.5	65.3	44.9	36.4	17.8	23.7	48.3	
	無回答	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	男性	3	-	2	2	-	2	1	-	1
	%	-	-	66.7	66.7	-	66.7	33.3	-	33.3
	女性	1	-	-	-	1	1	1	-	1
	%	-	-	-	-	100.0	100.0	100.0	-	100.0
	無回答	41	-	9	9	3	4	-	1	3
	%	-	22.0	22.0	7.3	9.8	-	2.4	7.3	

※回答者: 1,400人

※複数回答があるため、横列または縦列の合計は全体の合計と異なる

IV. 調査結果の詳細

		合計 (件)	安全対策について実践している項目							無回答
			て転 落防 止の 柵な どを 設置 し て い る	具は 調理 中な ど熱 い物 に触 れる 耐 熱用 具を 使用 して い る	調 理な ど熱 い物 に触 れる 耐 熱用 具を 使用 して い る	挟み 防止 を して い る	部 屋の ドア を固 定す るな ど	を地 震対 策と して 、 家具 止め	て住 宅用 火災 警報 器を 設置 し て い る	
全体(件)		1,400	66	668	144	143	829	204	31	88
	%		4.7	47.7	10.3	10.2	59.2	14.6	2.2	6.3
20歳代	男性	58	6	19	1	5	21	7	2	1
	%		10.3	32.8	1.7	8.6	36.2	12.1	3.4	1.7
	女性	85	3	54	9	4	46	10	2	1
	%		3.5	63.5	10.6	4.7	54.1	11.8	2.4	1.2
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	男性	88	4	31	4	4	44	13	4	1
	%		4.5	35.2	4.5	4.5	50.0	14.8	4.5	1.1
	女性	103	6	66	13	6	72	20	3	-
	%		5.8	64.1	12.6	5.8	69.9	19.4	2.9	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	男性	106	2	42	14	12	67	16	4	-
	%		1.9	39.6	13.2	11.3	63.2	15.1	3.8	-
	女性	120	3	65	11	24	78	23	1	4
	%		2.5	54.2	9.2	20.0	65.0	19.2	0.8	3.3
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-
50歳代	男性	120	6	54	6	16	63	21	2	3
	%		5.0	45.0	5.0	13.3	52.5	17.5	1.7	2.5
	女性	122	4	80	19	8	65	12	1	2
	%		3.3	65.6	15.6	6.6	53.3	9.8	0.8	1.6
	無回答	1	-	-	-	-	1	-	-	-
60歳代	男性	165	14	64	16	17	101	17	3	13
	%		8.5	38.8	9.7	10.3	61.2	10.3	1.8	7.9
	女性	169	1	98	29	12	113	32	6	8
	%		0.6	58.0	17.2	7.1	66.9	18.9	3.6	4.7
	無回答	4	4	2	1	1	2	2	-	-
70歳以上	男性	93	8	29	11	18	65	11	2	9
	%		8.6	31.2	11.8	19.4	69.9	11.8	2.2	9.7
	女性	118	4	59	10	14	80	19	1	14
	%		3.4	50.0	8.5	11.9	67.8	16.1	0.8	11.9
	無回答	2	-	-	-	-	-	-	-	2
無回答	男性	3	1	2	-	2	2	-	-	1
	%		33.3	66.7	-	66.7	66.7	-	-	33.3
	女性	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	%		-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	41	-	3	-	-	9	1	-	29
	%		-	7.3	-	-	22.0	2.4	-	70.7

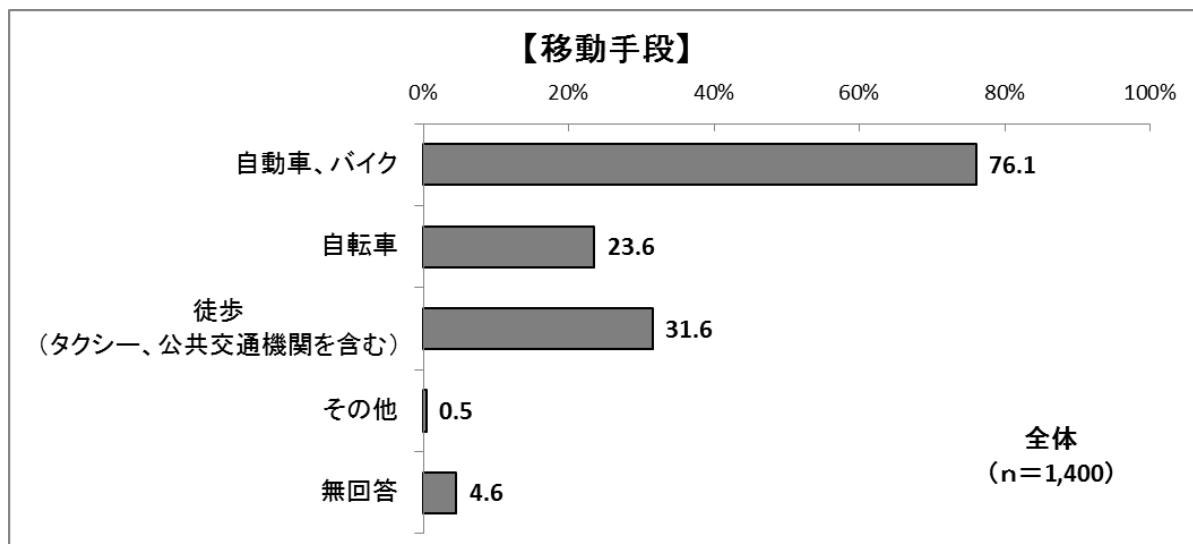
※回答者: 1,400人

※複数回答があるため、横列または縦列の合計は全体の合計と異なる

2. 「交通安全」について

(1) 主な交通手段

問3. あなたの主な移動手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



主な交通手段については、「自動車、バイク」(76.1%)が約8割と最も多く、次いで「徒歩(タクシー、公共交通機関を含む)」(31.6%)、「自転車」(23.6%)の順となっている。

また、選択肢以外の「その他」では、「スケートボード」や「デイサービス等の送迎バス」などが挙げられた。

【属性別特徴】

年代別にみると、全ての年代において、「自動車、バイク」（20歳代：72.7%、30歳代：90.1%、40歳代：87.2%、50歳代：82.3%、60歳代：76.9%、70歳以上：57.3%）の割合が最も高く、なかでも30歳代は9割と過半数を占めている。70歳以上においては「徒歩（タクシー、公共交通機関を含む）」の割合が4割台半ば（45.5%）と他の年代に比べて高い。20歳代では、「徒歩（タクシー、公共交通機関を含む）」（39.2%）が約4割と70歳以上に次いで多くなっている。

居住地別にみると、全ての地域において「自転車、バイク」の割合が最も高いが、特に「三潞」において約9割（89.2%）と他の地域に比べて高くなっている。また、「中央部」や「中央南部」に居住している人では、「自転車」（中央部：30.3%、中央南部：34.5%）が3割半ば未満、「徒歩（タクシー、公共交通機関を含む）」（中央部：47.2%、中央南部：43.1%）が4割以上と中央部になるほど「自動車、バイク」の割合が低く、「自転車」や「徒歩（タクシー、公共交通機関を含む）」の割合が高い傾向にある。

◆表 年代別◆

	合計 (件)	移動手段				
		自動車、 バイク	自転車	徒歩 (タクシー、 公共交通機 関を含む)	その他	無回答
全体(件)	1,400	1,066	330	442	7	64
%		76.1	23.6	31.6	0.5	4.6
20歳代	143	104	38	56	2	1
%		72.7	26.6	39.2	1.4	0.7
30歳代	191	172	34	45	-	1
%		90.1	17.8	23.6	-	0.5
40歳代	227	198	42	51	-	3
%		87.2	18.5	22.5	-	1.3
50歳代	243	200	63	69	-	-
%		82.3	25.9	28.4	-	-
60歳代	338	260	92	113	1	14
%		76.9	27.2	33.4	0.3	4.1
70歳以上	213	122	53	97	4	17
%		57.3	24.9	45.5	1.9	8.0
無回答	45	10	8	11	-	28
%		22.2	17.8	24.4	-	62.2

※回答者：1,400人

※複数回答があるため、横列の合計は”合計(件)”と異なる

◆表 居住地別◆

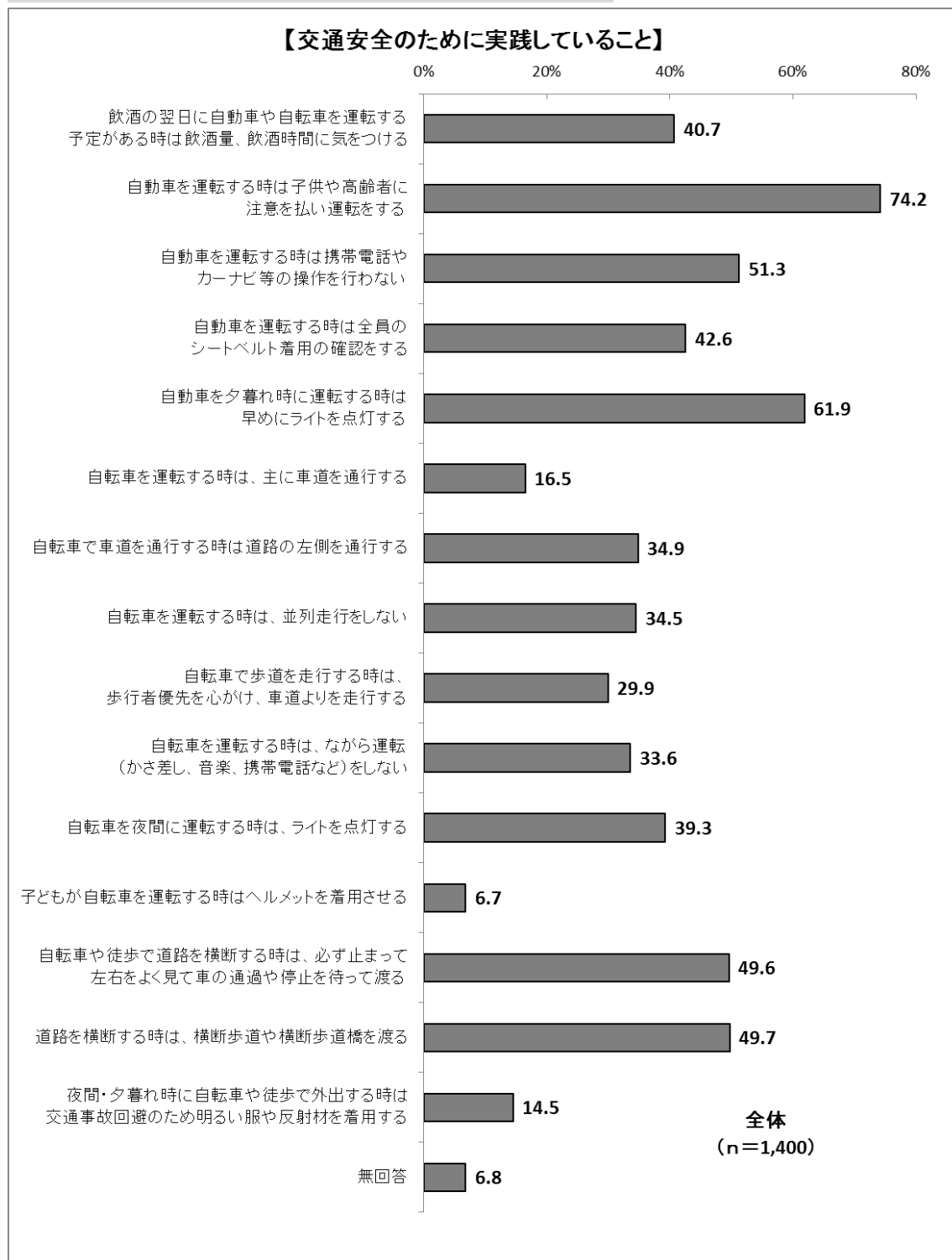
	合計 (件)	移動手段					
		自動車、 バイク	自転車	関 （タク を含む） 歩 （タ クシ ー、 公 共 交 通 機	そ の 他	無 回 答	
全体(件)	1,400	1,066	330	442	7	64	
%		76.1	23.6	31.6	0.5	4.6	
居住地	中央部	178	116	54	84	1	5
	%		65.2	30.3	47.2	0.6	2.8
	中央東部	162	128	42	61	1	1
	%		79.0	25.9	37.7	0.6	0.6
	中央南部	232	168	80	100	1	6
	%		72.4	34.5	43.1	0.4	2.6
	南東部	121	92	23	30	-	6
	%		76.0	19.0	24.8	-	5.0
	南西部	117	95	22	29	1	3
	%		81.2	18.8	24.8	0.9	2.6
	東部	99	86	15	25	-	2
	%		86.9	15.2	25.3	-	2.0
	北部	102	81	26	30	-	2
	%		79.4	25.5	29.4	-	2.0
	田主丸	82	71	13	13	-	1
	%		86.6	15.9	15.9	-	1.2
	北野	88	75	17	22	-	2
	%		85.2	19.3	25.0	-	2.3
	城島	66	57	13	12	1	-
	%		86.4	19.7	18.2	1.5	-
三瀨	83	74	14	22	-	-	
%		89.2	16.9	26.5	-	-	
わからない	13	7	5	6	1	-	
%		53.8	38.5	46.2	7.7	-	
無回答	57	16	6	8	1	36	
%		28.1	10.5	14.0	1.8	63.2	

※回答者:1,400人

※複数回答があるため、横列の合計は”合計(件)”と異なる

(2) 交通安全のために実践していること

問4. 交通安全に関する質問です。以下の選択肢の中で、あなたが普段実践している項目に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)



普段実践している交通安全については、「自動車を運転する時は子供や高齢者に注意を払い運転をする」(74.2%)が7割台半ばを占めて最も多く、次いで「自動車を夕暮れ時に運転する時は早めにライトを点灯する」(61.9%)、「自動車を運転する時は携帯電話やカーナビなどの操作を行わない」(51.3%)の順となっている。

IV. 調査結果の詳細

【属性別特徴】

「交通安全のため実践していること」の項目すべてにおいて、女性よりも男性の方が実践している割合が高い傾向にある。

性別にみると、男女ともに、「自動車を運転する時は子供や高齢者に注意を払い運転をする」(男性：85.8%、女性：67.4%)が最も高い。男女間では、「飲酒の翌日に自動車や自転車を運転する予定がある時は飲酒量、飲酒時間に気をつける」(男性：53.9%、女性：30.6%)が女性よりも男性の方が高くなっており、大きな差がみられる。

性別・年代別にみると、「道路を横断する時は、横断歩道や横断歩道橋を渡る」の割合は女性が高く、特に60歳代(64.5%)や70歳以上(65.3%)など年代が上がるほど高い傾向にある。

◆表 性別・年代別◆

		合計 (件)	交通安全のため実践していること							
			酒を飲 量運 飲す 飲す 酒の 翌日 予 間 に が 動 車 を つ つ け る	飲酒 の 翌 日 に 注 意 す る は 運 転 を 供 与 す る	自 動 車 を 運 転 す る 時 は 子 供 や 高 齢 者 に 注 意 を 払 い 運 転 を す る	電 話 力 を 運 転 す る 時 は 操 作 を 携 行 す る	自 動 車 を 運 転 す る 時 は 確 認 全 員 を 乗 車 す る	自 動 車 を 運 転 す る 時 は 早 め 夕 暮 れ の 時 に 運 転 す る	自 道 を 通 行 す る 時 は 、 主 に 左 側 を 通 行 す る	自 道 を 通 行 す る 時 は 、 並 列 を 通 行 す る
全体(件)		1,400	570	1,039	718	596	866	231	488	483
	%		40.7	74.2	51.3	42.6	61.9	16.5	34.9	34.5
性別	男性	633	341	543	363	322	442	120	241	241
	%		53.9	85.8	57.3	50.9	69.8	19.0	38.1	38.1
	女性	718	220	484	342	267	411	107	238	236
	%		30.6	67.4	47.6	37.2	57.2	14.9	33.1	32.9
	無回答	49	9	12	13	7	13	4	9	6
	%	-	18.4	24.5	26.5	14.3	26.5	8.2	18.4	12.2

		合計 (件)	交通安全のため実践していること							無 回 答
			道 は 自 道 を 通 行 す る	自 道 を 通 行 す る	自 道 を 通 行 す る	自 道 を 通 行 す る	自 道 を 通 行 す る	自 道 を 通 行 す る	自 道 を 通 行 す る	
全体(件)		1,400	419	470	550	94	695	696	203	95
	%		29.9	33.6	39.3	6.7	49.6	49.7	14.5	6.8
性別	男性	633	218	230	268	51	296	282	92	24
	%		34.4	36.3	42.3	8.1	46.8	44.5	14.5	3.8
	女性	718	192	233	273	41	390	402	109	41
	%		26.7	32.5	38.0	5.7	54.3	56.0	15.2	5.7
	無回答	49	9	7	9	2	9	12	2	30
	%	-	18.4	14.3	18.4	4.1	18.4	24.5	4.1	61.2

※回答者：1,400人

※複数回答があるため、横列の合計は”合計(件)”と異なる

IV. 調査結果の詳細

		交通安全のため実践していること								
		酒を飲 量、飲 酒の翌 日に自 転車や 自動車 を運転 する時 間にあ る時は 飲	飲酒の 翌日に 自動車 や自動 車を運 転する 時は、 子供	や自動 車を運 転する 時は、 子供	自動車 を運転 する時 は、携 帯	電話や カーナ ビ等の 操作を 携帯	自動車 を運転 する時 は、全 員	自動車 を運転 する時 は、点 灯す	自動車 を運転 する時 は、主 に	自動車 を運転 する時 は、左 側を通 行する とき
全体(件)	1,400	570	1,039	718	596	866	231	488	483	
	%	40.7	74.2	51.3	42.6	61.9	16.5	34.9	34.5	
20歳代	男性	58	37	45	25	28	34	13	24	26
	%	63.8	77.6	43.1	48.3	58.6	22.4	41.4	44.8	
	女性	85	40	64	39	33	56	15	25	25
	%	47.1	75.3	45.9	38.8	65.9	17.6	29.4	29.4	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	-	-	
30歳代	男性	88	53	79	52	45	62	19	33	35
	%	60.2	89.8	59.1	51.1	70.5	21.6	37.5	39.8	
	女性	103	51	90	47	42	77	10	28	32
	%	49.5	87.4	45.6	40.8	74.8	9.7	27.2	31.1	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	-	-	
40歳代	男性	106	59	89	46	55	74	20	35	40
	%	55.7	84.0	43.4	51.9	69.8	18.9	33.0	37.7	
	女性	120	44	98	67	48	77	19	46	45
	%	36.7	81.7	55.8	40.0	64.2	15.8	38.3	37.5	
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	-	-	
50歳代	男性	120	69	109	66	55	80	23	49	51
	%	57.5	90.8	55.0	45.8	66.7	19.2	40.8	42.5	
	女性	122	40	97	74	54	86	18	48	53
	%	32.8	79.5	60.7	44.3	70.5	14.8	39.3	43.4	
	無回答	1	1	-	1	1	1	-	-	-
	%	100.0	-	100.0	100.0	100.0	-	-	-	
60歳代	男性	165	88	147	106	93	126	28	65	55
	%	53.3	89.1	64.2	56.4	76.4	17.0	39.4	33.3	
	女性	169	36	101	84	62	86	27	50	49
	%	21.3	59.8	49.7	36.7	50.9	16.0	29.6	29.0	
	無回答	4	2	4	2	2	3	1	2	2
	%	50.0	100.0	50.0	50.0	75.0	25.0	50.0	50.0	
70歳以上	男性	93	35	72	66	46	64	16	34	32
	%	37.6	77.4	71.0	49.5	68.8	17.2	36.6	34.4	
	女性	118	9	34	31	28	29	18	41	32
	%	7.6	28.8	26.3	23.7	24.6	15.3	34.7	27.1	
	無回答	2	-	-	-	-	-	-	1	-
	%	-	-	-	-	-	-	50.0	-	
無回答	男性	3	-	2	2	-	2	1	1	2
	%	-	66.7	66.7	-	66.7	33.3	33.3	66.7	
	女性	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無回答	41	6	8	10	4	9	3	6	4
	%	14.6	19.5	24.4	9.8	22.0	7.3	14.6	9.8	

※回答者:1,400人

※複数回答があるため、横列の合計は"合計(件)"と異なる

IV. 調査結果の詳細

	合計 (件)	交通安全のため実践していること								
		道は、歩行者優先を心がける、車	自転車専用レーンを利用する、音楽、携帯電話など	自転車専用レーンを利用する、音楽、携帯電話など	自転車専用レーンを利用する、音楽、携帯電話など	自転車専用レーンを利用する、音楽、携帯電話など	自転車専用レーンを利用する、音楽、携帯電話など	自転車専用レーンを利用する、音楽、携帯電話など	自転車専用レーンを利用する、音楽、携帯電話など	無回答
全体(件)	1,400	419	470	550	94	695	696	203	95	
%		29.9	33.6	39.3	6.7	49.6	49.7	14.5	6.8	
20歳代	男性	58	24	20	28	1	24	23	8	3
	%		41.4	34.5	48.3	1.7	41.4	39.7	13.8	5.2
	女性	85	24	20	35	3	41	38	11	1
	%		28.2	23.5	41.2	3.5	48.2	44.7	12.9	1.2
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	男性	88	36	28	37	10	29	34	5	-
	%		40.9	31.8	42.0	11.4	33.0	38.6	5.7	-
	女性	103	22	28	33	12	57	60	9	1
	%		21.4	27.2	32.0	11.7	55.3	58.3	8.7	1.0
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	男性	106	32	38	46	10	52	42	15	2
	%		30.2	35.8	43.4	9.4	49.1	39.6	14.2	1.9
	女性	120	35	44	53	8	58	49	14	3
	%		29.2	36.7	44.2	6.7	48.3	40.8	11.7	2.5
	無回答	1	-	1	1	-	1	1	-	-
50歳代	男性	120	44	48	57	8	62	60	14	-
	%		36.7	40.0	47.5	6.7	51.7	50.0	11.7	-
	女性	122	44	51	56	2	73	68	19	1
	%		36.1	41.8	45.9	1.6	59.8	55.7	15.6	0.8
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-
60歳代	男性	165	50	61	68	10	80	80	26	9
	%		30.3	37.0	41.2	6.1	48.5	48.5	15.8	5.5
	女性	169	37	49	57	7	93	109	30	12
	%		21.9	29.0	33.7	4.1	55.0	64.5	17.8	7.1
	無回答	4	2	1	2	1	2	3	1	-
70歳以上	男性	93	31	33	31	12	48	42	24	9
	%		33.3	35.5	33.3	12.9	51.6	45.2	25.8	9.7
	女性	118	30	41	39	9	68	77	26	23
	%		25.4	34.7	33.1	7.6	57.6	65.3	22.0	19.5
	無回答	2	-	1	-	-	1	1	-	1
無回答	男性	3	1	2	1	-	1	1	-	1
	%		33.3	66.7	33.3	-	33.3	33.3	-	33.3
	女性	1	-	-	-	-	-	1	-	-
	%		-	-	-	-	-	100.0	-	-
	無回答	41	7	4	6	1	5	7	1	29
%		17.1	9.8	14.6	2.4	12.2	17.1	2.4	70.7	

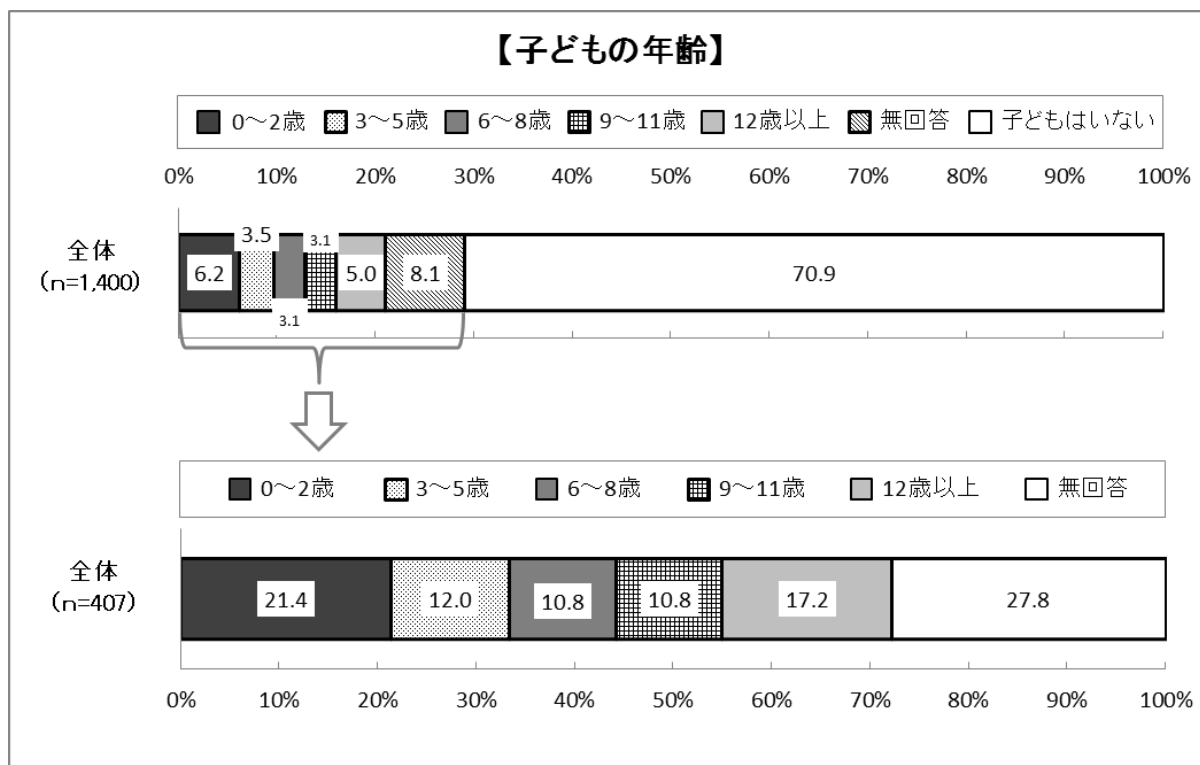
※回答者: 1,400人

※複数回答があるため、横列の合計は"合計(件)"と異なる

3. 「幼児・児童と保護者の状況」について

(1) 子どもの年齢

問5. お子さんの年齢（平成26年10月1日時点）をご記入下さい。

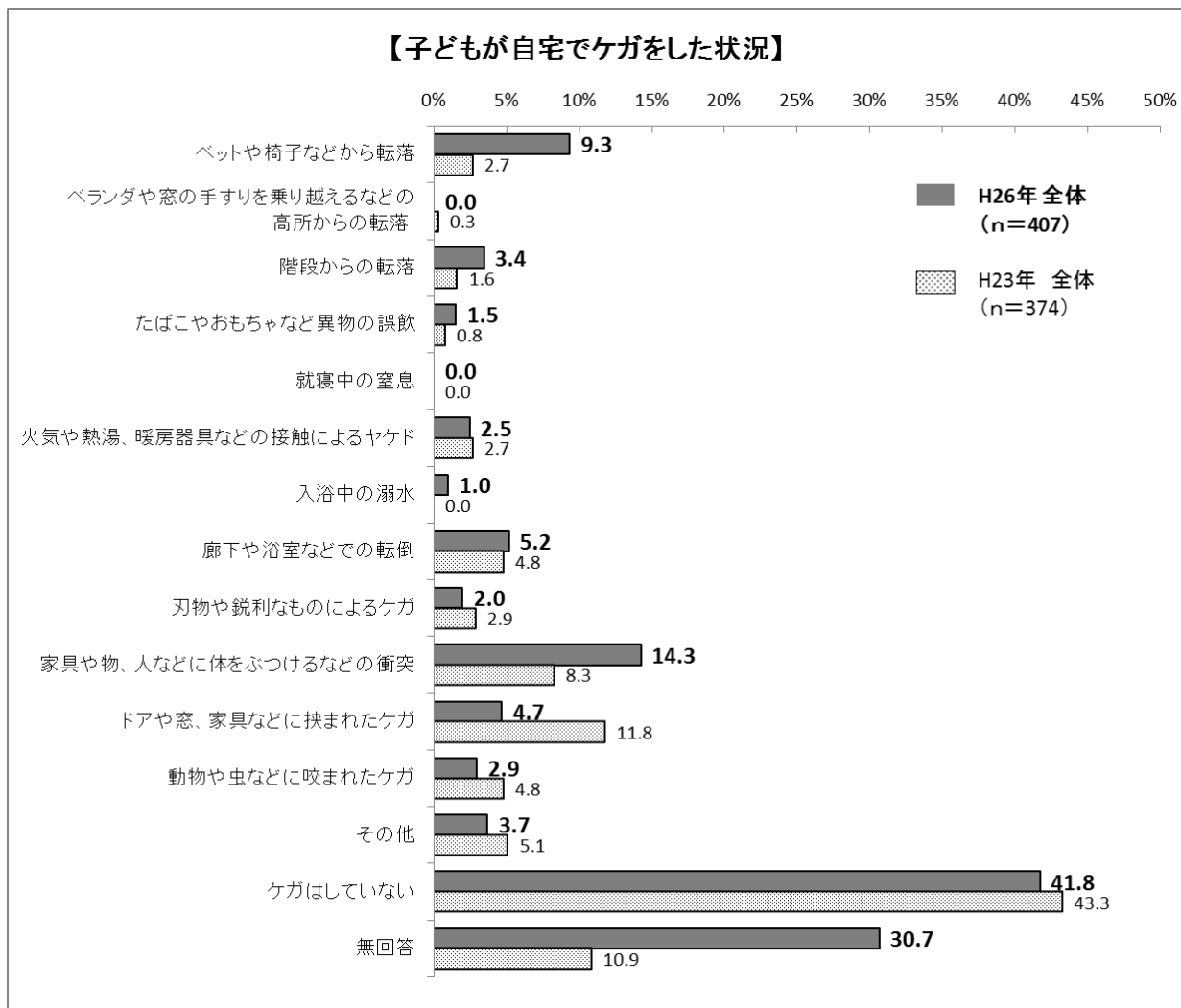


家族の中で15歳未満の子どもがいる場合に、子どもの年齢を答えてもらうと、全体の約3割の人からの回答があった。

回答のあった中で、「0~2歳」(21.4%)が約2割で最も多く、次いで「12歳以上」(17.2%)、「3~5歳」(12.0%)の順となっている。

(2) 子どもが自宅でケガをした状況（過去1年間）

問6. 過去1年間に、お子さんが自宅で、ケガをした状況についてお答え下さい。その際、周りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。（あてはまるものすべてに○）



過去1年間の子どもの自宅でのケガの状況については、「ケガはしていない」（41.8%）が4割以上となっており、ケガの発生率（全体から「ケガはしていない」「無回答」を除いた割合）は3割近く（27.5%）になる。ケガをした状況のうち、「家具や物、人などに体をぶつけるなどの衝突」（14.3%）が最も多く、次いで「ベッドやイスなどから転落」（9.3%）となっている。

平成23年調査と比較すると、「ベッドやイスなどから転落」（前回：2.7%、今回：9.3%）、「家具や物、人などに体をぶつけるなどの衝突」（前回：8.3%、今回：14.3%）、「階段からの転落」（前回：1.6%、今回3.4%）は、前回の割合よりも高くなっており、「ドアや窓、家具などに挟まれたケガ」（前回：11.8%、今回：4.7%）については前回よりも低くなっている。

また、選択肢以外の「その他」では、「単独による転倒」や「抱っこからの転落」などが挙げられた。

注) 平成23年調査では、12歳未満の子どもの対象としている。（以下、同様）

○子どもが自宅でケガをした状況のうち、周りに大人がいた場合、医療機関に行った場合

	ケガをした状況		大人がいた		医療機関に行った	
	合計	%	合計	%	合計	%
全体(件)	407	100	87	21.4	28	6.9
ベットや椅子などから転落	38	9.3	33	86.8	4	10.5
ベランダや窓の手すりを乗り越えるなどの高所からの転落	-	-	-	-	-	-
階段からの転落	14	3.4	10	71.4	2	14.3
たばこやおもちゃなど異物の誤飲	6	1.5	6	100.0	0	0.0
就寝中の窒息	-	-	-	-	-	-
火気や熱湯、暖房器具などの接触によるヤケド	10	2.5	10	100.0	3	30.0
入浴中の溺水	4	1.0	4	100.0	0	0.0
廊下や浴室などでの転倒	21	5.2	16	76.2	2	9.5
刃物や鋭利なものによるケガ	8	2.0	5	62.5	1	12.5
家具や物、人などに体をぶつけるなどの衝突	58	14.3	44	75.9	8	13.8
ドアや窓、家具などに挟まれたケガ	19	4.7	17	89.5	1	5.3
動物や虫などに咬まれたケガ	12	2.9	8	66.7	6	50.0
その他	15	3.7	7	46.7	5	33.3
ケガはしていない	170	41.8				
無回答	125	30.7				

※回答者数(子どもがいる):407人

※複数回答があるため、設問の回答数の合計は”全体(件)”と異なる

子どもが自宅でケガをした時、周りに大人がいたかどうか・医療機関に行ったかどうかを尋ねた。

それぞれの状況で、ケガをした全体数は少ないが、「大人がいた」の割合は「たばこやおもちゃなど異物の誤飲」、「火気や熱湯、暖房器具などの接触によるヤケド」、「入浴中の溺水」において100.0%となっている。一方、「医療機関に行った」の割合は状況毎に差があり、先にも述べた「たばこやおもちゃなど異物の誤飲」「入浴中の溺水」で医療機関に行った人はいないが、「動物や虫などに咬まれたケガ」では医療機関に行った人が半数を占めている。特に、「動物や虫などに咬まれたケガ」は、大人が不在であった状況が3割台半ばと他に比べて高くなっているが、医療機関に行った割合は5割を占めて他に比べて高くなっている。

IV. 調査結果の詳細

【属性別特徴】

子どもの年齢区別にみると、概ね年齢が上がるほど、自宅で「ケガはしていない」の割合が高くなる傾向にある。0～2歳では、「ベットや椅子などからの転落」(29.9%)が最も多く、それ以外の年齢区分では、「家具や物、人などに体をぶつけるなどの衝突」が最も多くなっている。

また、子どもの年齢が若いほど、「家具や物、人などに体をぶつけるなどの衝突」や「ベットや椅子などからの転落」、「廊下や浴室などでの転倒」などの割合が高くなっている。

◆表 子どもの年齢区分別◆

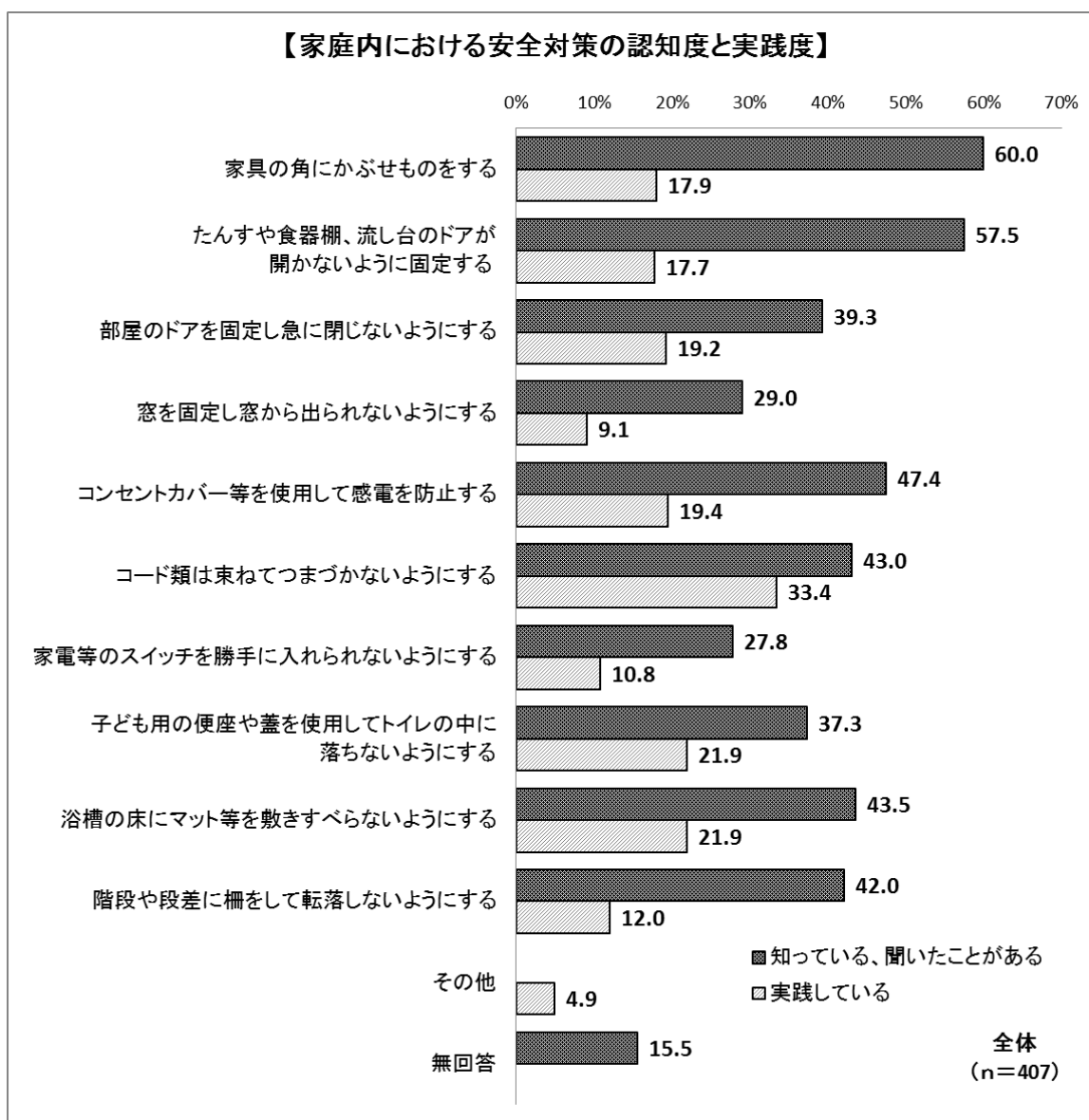
	合計 (件)	子どもが自宅でケガをした状況(周りに大人がいた場合・医療機関に行った場合)														
		ベットや椅子などからの転落	越えるなどの高所からの転落	階段からの転落	誤飲	たばこやおもちゃなど異物の	就寝中の窒息	接火	火気や熱湯、暖房器具などの	入浴中の溺水	廊下や浴室などでの転倒	刃物や鋭利なものによるケガ	家具や物、人などに体をぶつけるなどの衝突	ドアや窓、家具などに挟まれたケガ	動物や虫などに咬まれたケガ	その他
全体(件)	407	38	-	14	6	-	10	4	21	8	58	20	12	15	170	125
%		9.3	-	3.4	1.5	-	2.5	1.0	5.2	2.0	14.3	4.9	2.9	3.7	41.8	30.7
0～2歳	87	26	-	8	5	-	4	2	11	-	24	13	3	5	39	5
		29.9	-	9.2	5.7	-	4.6	2.3	12.6	-	26.4	14.9	3.4	5.7	44.8	5.7
3～5歳	49	9	-	2	1	-	2	2	5	1	12	5	3	1	20	4
		18.4	-	4.1	2.0	-	4.1	4.1	10.2	2.0	24.5	10.2	6.1	2.0	40.8	8.2
6～8歳	44	-	-	-	-	-	3	-	3	2	6	-	2	6	23	5
		-	-	-	-	-	6.8	-	6.8	4.5	13.6	-	4.5	13.6	52.3	11.4
9～11歳	44	1	-	-	-	-	1	-	-	2	8	2	1	-	30	2
		2.3	-	-	-	-	2.3	-	-	4.5	18.2	4.5	2.3	-	68.2	4.5
12歳以上	70	1	-	1	-	-	-	-	1	3	7	-	1	3	56	1
		1.4	-	1.4	-	-	-	-	1.4	4.3	10.0	-	1.4	4.3	80.0	1.4
無回答	113	1	-	3	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	2	108
		0.9	-	2.7	-	-	-	-	0.9	-	0.9	-	1.8	-	1.8	95.6

※回答者数(子どもがいる): 407人

※複数回答があるため、横列の合計は”合計(件)”と異なる

(3) 家庭内における安全対策の認知度と実践度

問7. 家庭内の安全対策に関する質問です。知っていたり、聞いたことがある項目の欄に○をつけてください。さらに、そのうち実践しているものに○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)



安全対策について、「知っている、聞いたことがある」かどうか（認知度）と、「実践している」かどうか（実践度）を尋ねた。

各種安全対策の認知度は「家具の角にかぶせるもの」（60.0%）が6割と最も高く、次いで「たんすや食器棚、流し台のドアのストッパー」（57.5%）、「感電防止のコンセントカバー」（47.4%）の順となっている。

また、実践度は「コード類を束ねるもの」（33.4%）が3割を超え最も高く、次いで「子ども用の便座や蓋」（21.9%）、並んで「浴槽用のすべり止めマット」（21.9%）の順となっている。

安全対策の認知度と実践度には差があり、認知度の高いものでも実践度は低いことがわかる。

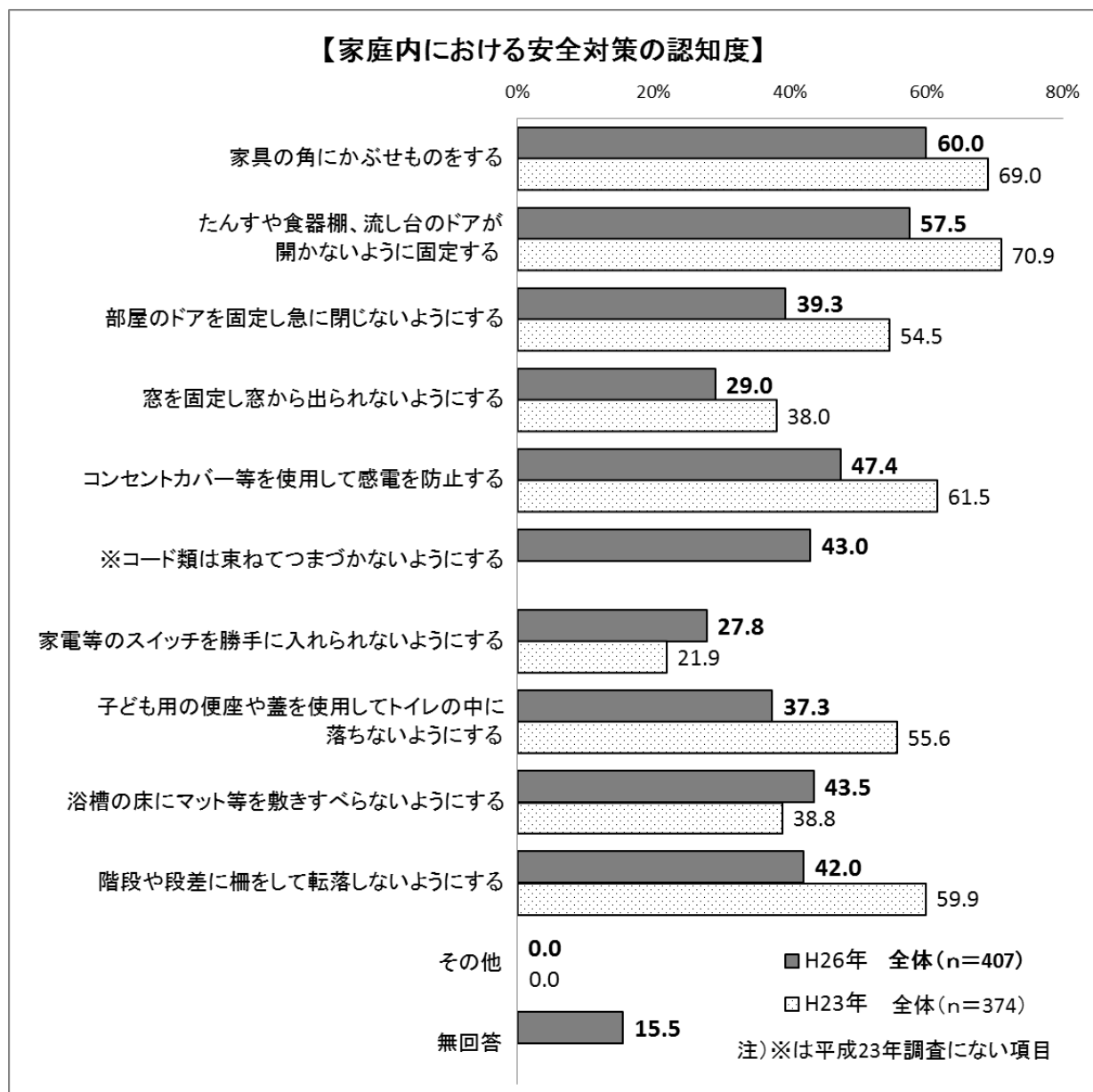
また、選択肢以外の「その他」では、「子どもの手の届くところに危険なものを置かない」や「夜間は足元照明を点けている」などが挙げられた。

【平成 23 年調査との比較】

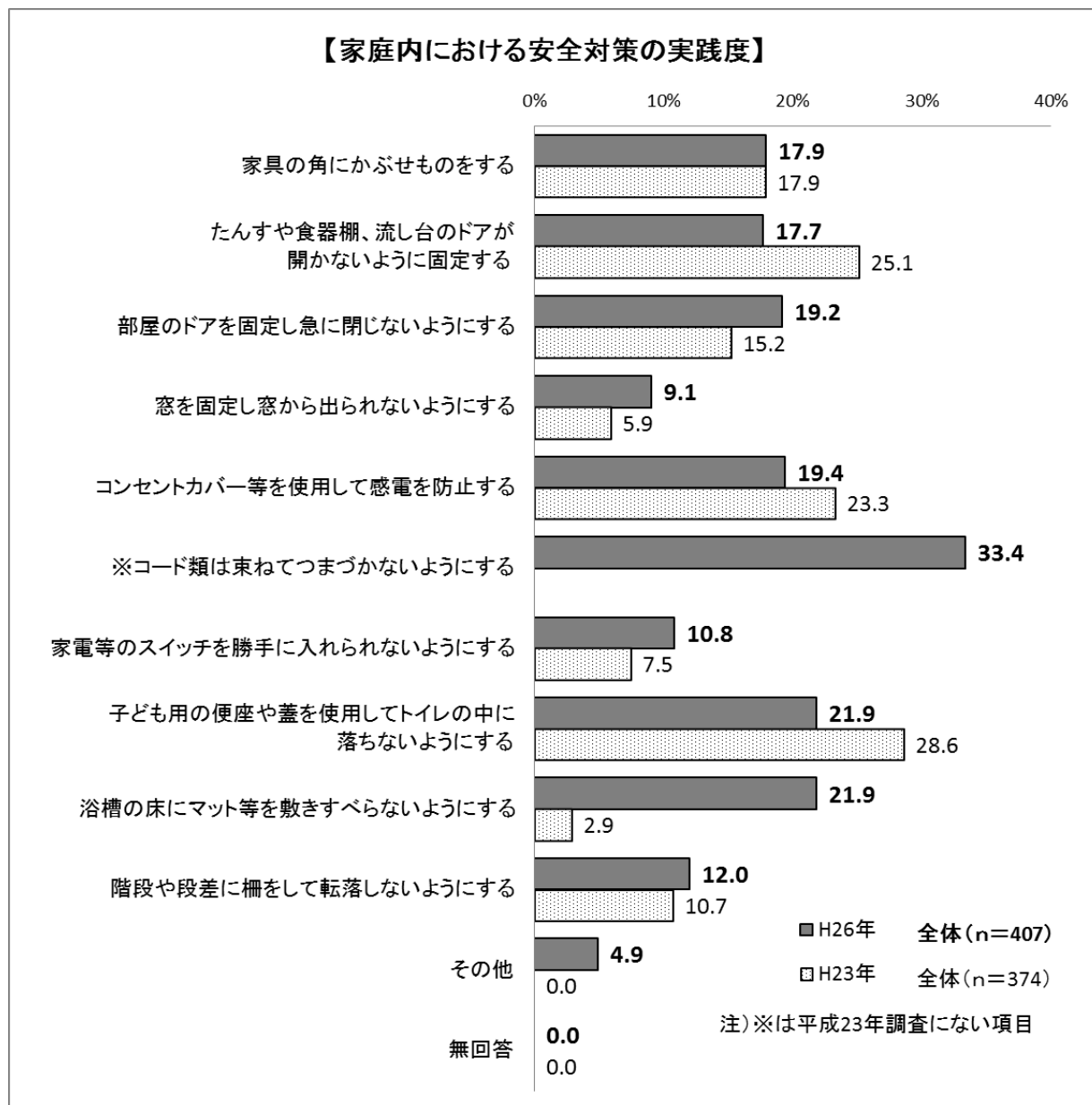
平成 23 年調査の認知度は、「たんすや食器棚、流し台のドアのストッパー」(70.9%) や「家具の角にかぶせるもの」(69.0%) をはじめ 9 品目中 6 品目で 5 割を超えているのに対し、今回では、5 割を超えるものは、10 品目中 2 品目のみとなっている。

また、「家電等のスイッチのカバー」や「浴槽用のすべり止めのマット」以外において、前回よりも認知度が低くなっているものの、実践度については、先に述べた「家電等のスイッチのカバー」や「浴槽用のすべり止めのマット」や「部屋のドアのストッパー」、「階段からの転落防止」、「窓を固定するもの」などにおいて、前回よりも実践度が高くなっている。特に、「浴槽用のすべり止めのマット」の実践度が前回は 2.9% と低かったが、今回は 2 割以上 (21.9%) と高くなっている。

◆表 家庭内における安全対策の認知度◆



◆表 家庭内における安全対策の実践度◆



IV. 調査結果の詳細

【属性別特徴】

子どもの年齢区別にみると、子どもの年齢が若い家庭ほど安全対策の実践度が高い傾向にある。0～2歳や3～5歳の子どもがいる家庭では、「子ども用の便座や蓋」（0～3歳：47.1%、3～5歳：51.0%）の実践度が約5割と他に比べて高くなっており、6歳～8歳、9歳～11歳、12歳以上の子どもがいる家庭では、「コード類を束ねるもの」（6歳～8歳：25.0%、9～11歳：31.8%、12歳以上：25.7%）の実践度が2割台半ばから3割と高くなっている。

◆表 子どもの年齢区別◆

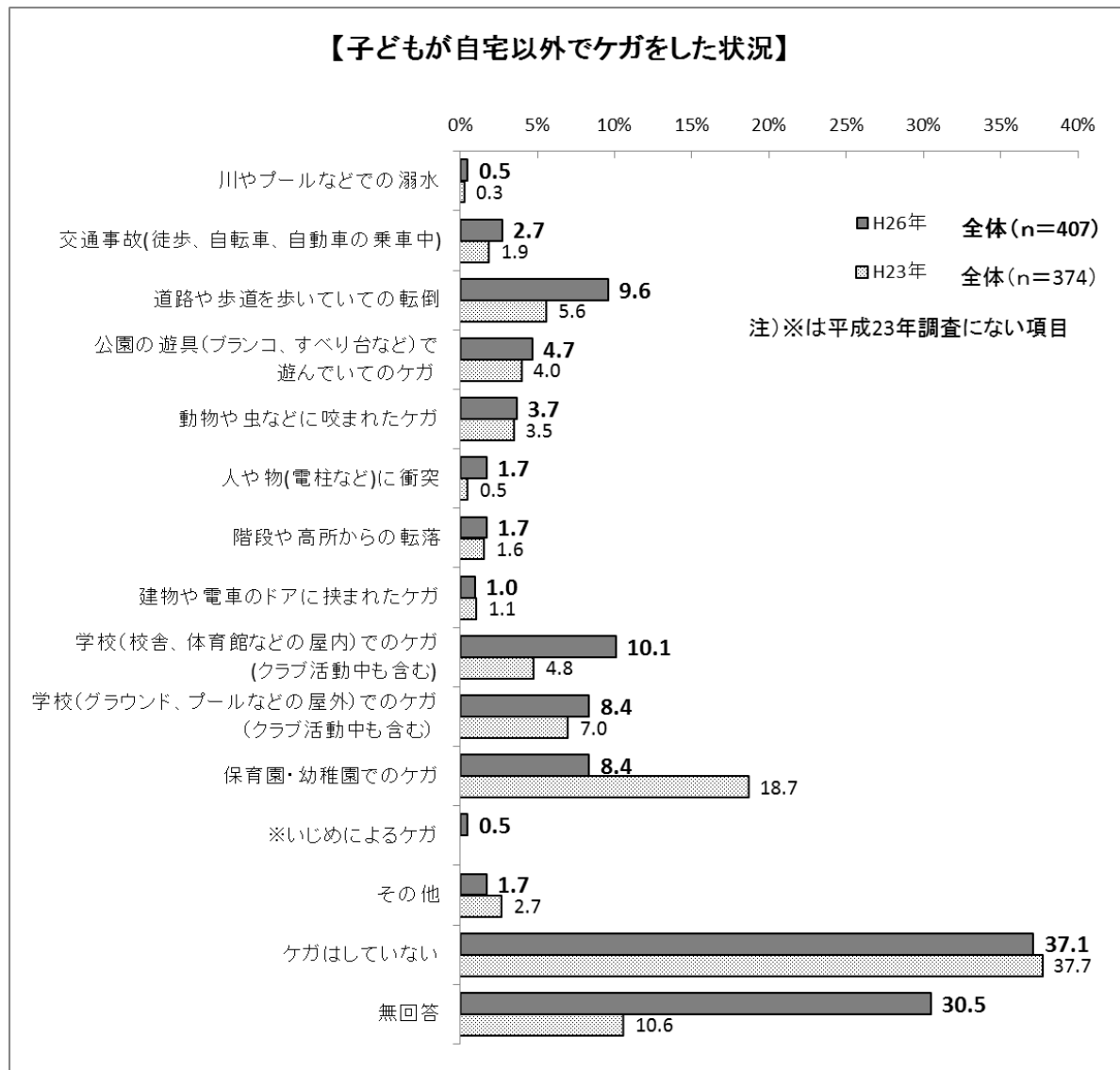
	合計 (件)	実践していること										
		家具の角にかぶせものを する	たんすや食器棚、流し台の ドアを固定し急閉じ	部屋のドアを固定し急閉じ	窓を固定し窓から出られない	コンセントカバー等を使用し	コード類は束ねてつまづかな	家電等のスイッチを勝手に入	子ども用の便座や蓋を使用し	浴槽の床にマット等を敷きす	階段や段差に柵をして転落し	その他
全体(件)	407	73	72	78	37	79	136	44	89	89	49	20
%		17.9	17.7	19.2	9.1	19.4	33.4	10.8	21.9	21.9	12.0	4.9
0～2歳	87	28	30	17	15	33	34	19	41	27	20	8
		32.2	34.5	19.5	17.2	37.9	39.1	21.8	47.1	31.0	23.0	9.2
3～5歳	49	18	15	9	3	10	20	8	25	12	8	4
		36.7	30.6	18.4	6.1	20.4	40.8	16.3	51.0	24.5	16.3	8.2
6～8歳	44	5	5	10	2	10	11	3	9	6	4	1
		11.4	11.4	22.7	4.5	22.7	25.0	6.8	20.5	13.6	9.1	2.3
9～11歳	44	10	5	10	3	7	14	3	4	5	2	1
		22.7	11.4	22.7	6.8	15.9	31.8	6.8	9.1	11.4	4.5	2.3
12歳以上	70	7	5	13	3	10	18	4	4	9	4	3
		10.0	7.1	18.6	4.3	14.3	25.7	5.7	5.7	12.9	5.7	4.3
無回答	113	5	12	19	11	9	39	7	6	30	11	3
		4.4	10.6	16.8	9.7	8.0	34.5	6.2	5.3	26.5	9.7	2.7

※回答者数(子どもがいる):407人

※複数回答があるため、横列の合計は”合計(件)”と異なる

(4) 子どもが自宅以外でケガをした状況（過去1年間）

問8. 過去1年間に、お子さんが久留米市内（自宅を除く）で、事故にあったり、ケガをした状況についてお答え下さい。その際、周りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。（あてはまるものすべてに○）



過去1年間の子どもの自宅以外でのケガの状況については、「ケガはしていない」（37.1%）が約4割となっており、ケガの発生率（全体から「ケガはしていない」「無回答」を除いた割合）は3割以上（32.4%）になる。ケガをした状況のうち、「学校（校舎、体育館などの屋内）でのケガ（クラブ活動中も含む）」（10.1%）が約1割と最も多く、次いで、「道路や歩道を歩いているの転倒」（9.6%）となっている。

平成23年調査と比較すると、「ケガをしていない」の割合はほぼ変わらないが、「保育園・幼稚園でのケガ」（前回：18.7%、今回：8.4%）などの割合が低くなっている。また、「道路や歩道を歩いているの転倒」（前回：5.6%、今回：9.6%）や「学校（校舎、体育館などの屋内）でのケガ（クラブ活動中も含む）」（前回：4.8%、今回：）などの割合が高くなっている。

また、選択肢以外の「その他」では、「木を触って木くずが刺さった」や「草スキー中に足を捻挫した」などが挙げられた。

IV. 調査結果の詳細

○子どもが自宅以外でケガをした状況のうち、周りに大人がいた場合、医療機関に行った場合

	ケガをした状況		大人がいた		医療機関に行った	
	合計 (件)	%	合計 (件)	%	合計 (件)	%
全体(件)	407	100	93	22.9	55	13.5
川やプールなどでの溺水	2	0.5	2	100.0	1	50.0
交通事故(徒歩、自転車、自動車の乗車中)	11	2.7	5	45.5	6	54.5
道路や歩道を歩いているの転倒	39	9.6	24	61.5	4	10.3
公園の遊具(ブランコ、すべり台など)で遊んでいるのケガ	19	4.7	10	52.6	4	21.1
動物や虫などに咬まれたケガ	15	3.7	7	46.7	8	53.3
人や物(電柱など)に衝突	7	1.7	6	85.7	1	14.3
階段や高所からの転落	7	1.7	6	85.7	2	28.6
建物や電車のドアに挟まれたケガ	4	1.0	2	50.0	1	25.0
学校(校舎、体育館などの屋内)でのケガ(クラブ活動中も含む)	41	10.1	22	53.7	18	43.9
学校(グラウンド、プールなどの屋外)でのケガ(クラブ活動中も含む)	34	8.4	12	35.3	11	32.4
保育園・幼稚園でのケガ	34	8.4	27	79.4	6	17.6
いじめによるケガ	2	0.5	0	0.0	0	0.0
その他	7	1.7	5	71.4	3	42.9
ケガはしていない	151	37.1				
無回答	124	30.5				

※回答者数(子どもがいる):407人

※複数回答があるため、設問の回答数の合計は”全体(件)”と異なる

子どもが自宅以外でケガをした時、周りに大人がいたかどうか・医療機関に行ったかどうかを尋ねた。

それぞれの状況で、ケガをした全体数は少なく、「大人がいた」の割合は状況毎に差がある。特に「人や物(電柱など)に衝突」(85.7%)や「階段や高所からの転落」(85.7%)においては「大人がいた」の割合が高くなっている。

また、「医療機関に行った」の割合は、「交通事故(徒歩、自転車、自動車の乗車中)」(54.5%)において最も高くなっている。

【属性別特徴】

0～2歳、3～5歳においては「保育園・幼稚園でのケガ」（0～2歳：12.6%、3～5歳：30.6%）、「道路や歩道を歩いているの転倒」（0～2歳：13.8%、3～5歳：22.4%）がそれぞれ多くなっている。6歳～8歳においては、学校や保育園・幼稚園でのケガが多くなっている。

また、9歳～11歳と12歳以上においては「学校（校舎、体育館などの屋内）でのケガ（クラブ活動中も含む）」（9歳～11歳：27.3%、12歳以上：25.7%）、「学校（グラウンド、プールなどの屋外）でのケガ（クラブ活動中も含む）」（9歳～11歳：20.5%、12歳以上：22.9%）となっており、学校でのケガが合計して約5割（9～11歳：47.8%、12歳以上：48.6%）と高くなっている。

◆表 子どもの年齢区分別◆

	合計 (件)	子どもが自宅以外でケガをした状況														
		川やプールなどでの溺水	交通事故 (徒歩・自転車・自動車の乗車中)	道路や歩道を歩いているの転倒	公園の遊具(ブランコ、すべり台などで遊んでいるのケガ)	動物や虫などに咬まれたケガ	人や物(電柱など)に衝突	階段や高所からの転落	建物や電車のドアに挟まれたケガ	学校(校舎、体育館などの屋内)でのケガ (クラブ活動中も含む)	学校(グラウンド、プールなどの屋外)でのケガ (クラブ活動中も含む)	保育園・幼稚園でのケガ	いじめによるケガ	その他	ケガはしていない	無回答
全体(件)	407	2	11	39	19	15	7	7	4	41	34	34	2	7	151	124
%		0.5	2.7	9.6	4.7	3.7	1.7	1.7	1.0	10.1	8.4	8.4	0.5	1.7	37.1	30.5
0～2歳	87	-	1	12	3	4	4	5	3	-	-	11	-	1	52	8
		-	1.1	13.8	3.4	4.6	4.6	5.7	3.4	-	-	12.6	-	1.1	59.8	9.2
3～5歳	49	1	3	11	4	2	1	1	-	2	1	15	-	1	22	2
		2.0	6.1	22.4	8.2	4.1	2.0	2.0	-	4.1	2.0	30.6	-	2.0	44.9	4.1
6～8歳	44	-	1	6	6	4	1	-	-	7	7	7	1	3	19	2
		-	2.3	13.6	13.6	9.1	2.3	-	-	15.9	15.9	15.9	2.3	6.8	43.2	4.5
9～11歳	44	-	3	7	5	2	-	-	-	12	9	-	-	2	18	2
		-	6.8	15.9	11.4	4.5	-	-	-	27.3	20.5	-	-	4.5	40.9	4.5
12歳以上	70	-	3	2	1	1	1	-	1	18	16	-	-	-	36	5
		-	4.3	2.9	1.4	1.4	1.4	-	1.4	25.7	22.9	-	-	-	51.4	7.1
無回答	113	1	-	1	-	2	-	1	-	2	1	1	1	-	4	105
		0.9	-	0.9	-	1.8	-	0.9	-	1.8	0.9	0.9	0.9	-	3.5	92.9

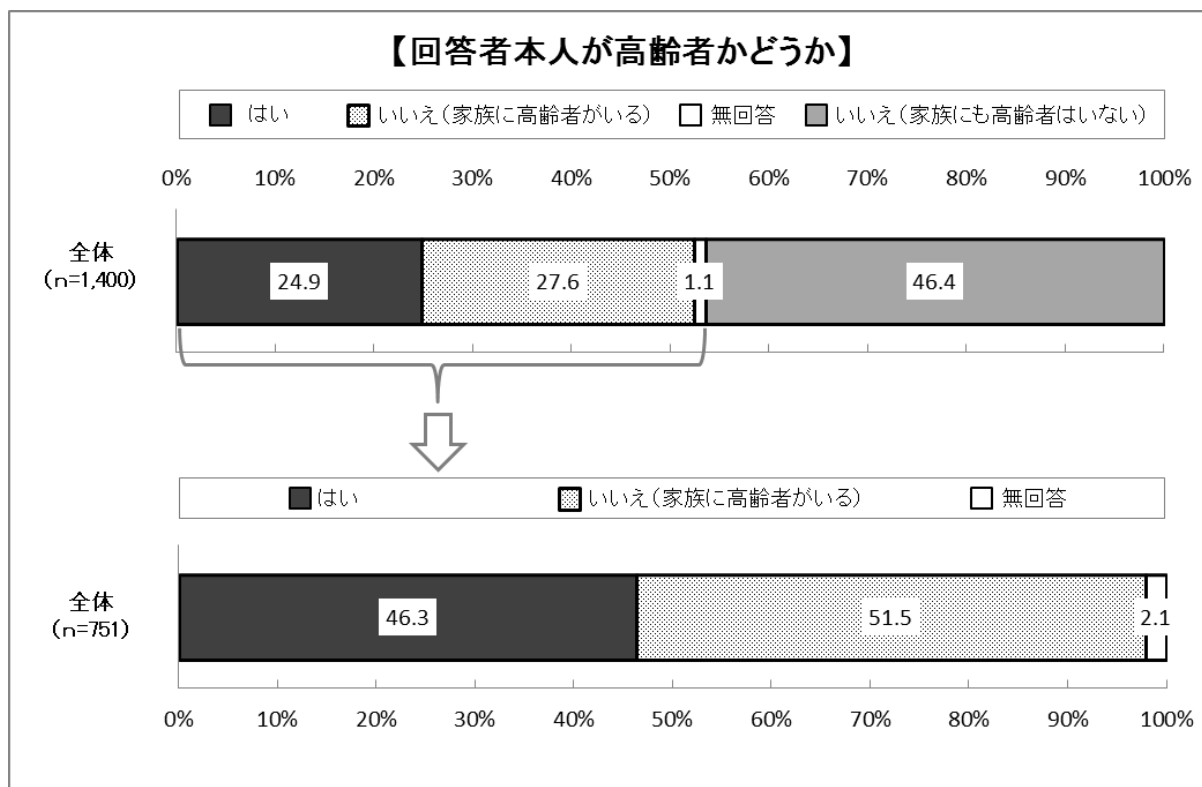
※回答者数(子どもがいる):407人

※複数回答があるため、横列の合計は“合計(件)”と異なる

4. 「高齢者の状況」について

(1) 回答者本人が高齢者かどうか

問9. 対象となる高齢者の方は宛名のご本人ですか。(〇はひとつ)



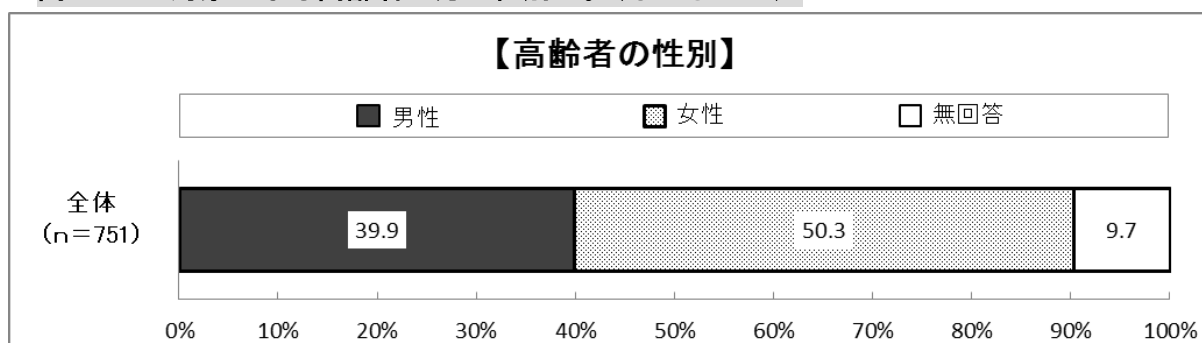
家族の中で65歳以上の高齢者がいる場合（本人が高齢者の場合も含む）に、回答者本人が高齢者かどうかを尋ねたところ、回答者の家族に高齢者がいる場合が5割以上（53.6%）を占めている。

回答のあった中で「いいえ（回答者本人は高齢者ではない）」（51.5%）が約半数であり「はい（回答者本人が高齢者である）」（46.3%）は約4割台半ばである。

(2) 対象となる高齢者の属性

① 性別

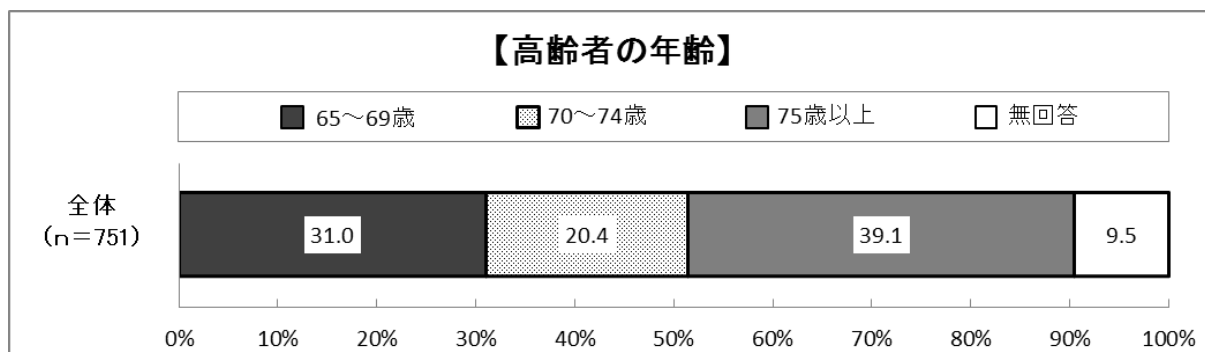
問9-1. 対象となる高齢者の方の性別は。(〇はひとつ)



対象となる高齢者の性別については「女性」（50.3%）が5割を超えており、「男性」（39.9%）を上回っている。

② 年齢

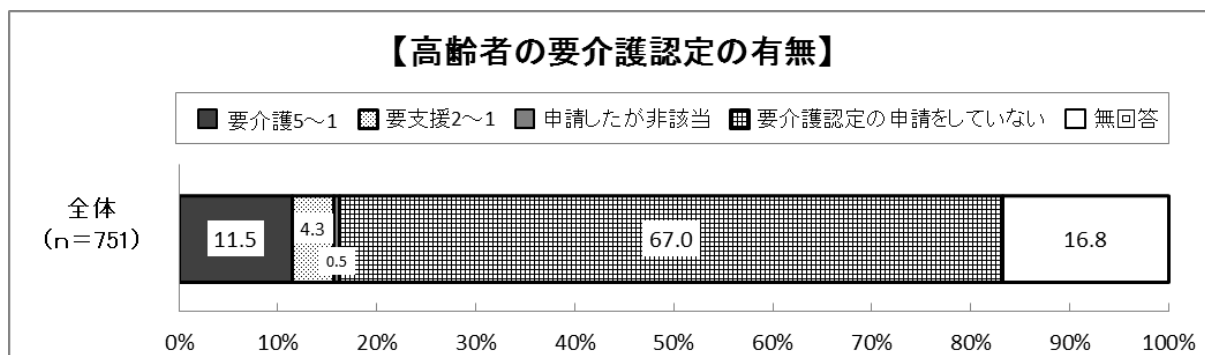
問9-2. 対象となる高齢者の方の年齢（平成26年10月1日時点）は。



高齢者の年齢については、75歳以上（39.1%）が約4割を占めて最も多く、次いで「65～69歳」（31.0%）、「70～74歳」（20.4%）の順となっている。

③ 要介護認定の有無

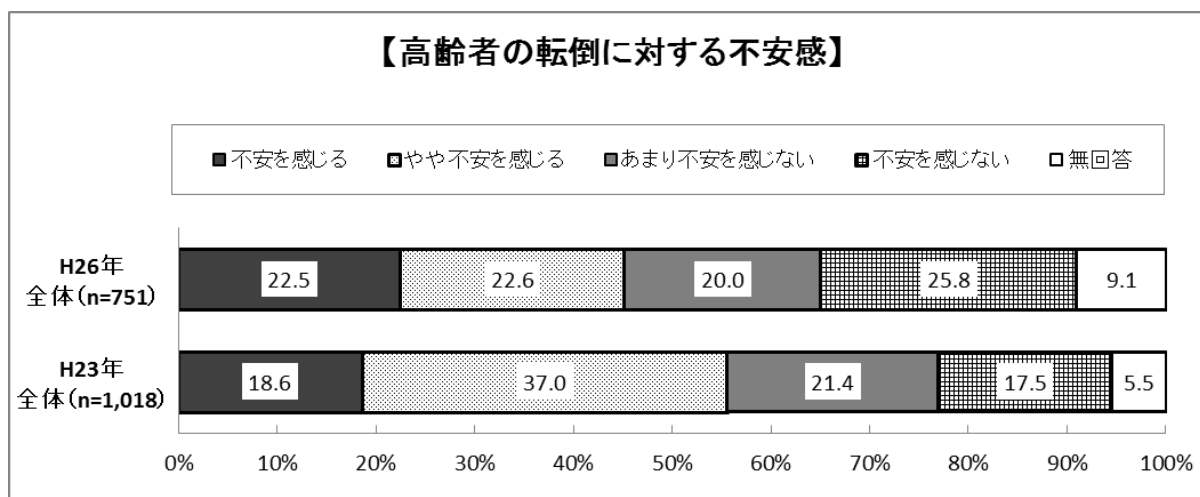
問9-2. 対象となる高齢者の方は、要介護認定をお持ちですか。（○はひとつ）



高齢者の要介護認定の有無については、「要介護認定の申請をしていない」（67.0%）が約7割と最も多く、次いで、「要介護5～1」（11.5%）、「要支援2～1」（4.3%）の順となっている。

(3) 高齢者の日常生活にかかわる動作について

問11. 対象となる高齢者の方は、普段、転倒（転ぶ・倒れる・転落する）することに対して不安感がありますか。（〇はひとつ）



高齢者の転倒に対する不安感については、「不安を感じない」(25.8%)が最も多く、次いで「やや不安を感じる」(22.6%)、「不安を感じる」(22.5%)の順となっているが、全体的にほぼ同等の割合を占めており、『不安を感じる』(「不安を感じる」+「やや不安を感じる」)、『不安を感じない』(「不安を感じない」+「あまり不安を感じない」)がともに約5割を占めている。

平成23年調査と比較して、『不安を感じない』(「不安を感じない」+「あまり不安を感じない」)の割合が4割台半ば(45.8%)と前回(37.5%)よりも低くなっている。一方で、『不安を感じる』(「不安を感じる」+「やや不安を感じる」)の割合が前回よりもやや高くなっている。

【属性別特徴】

性別にみると、男性では、転倒に対して「不安を感じない」(39.0%)の割合が約4割と最も高く、女性では、「不安を感じる」(31.0%)が約3割を占めており、男性よりも女性の方が転倒に対する不安感を持っていることがわかる。

性別、年齢区分別にみると、75歳以上の女性において「不安を感じる」(45.1%)の割合が他の年齢区分よりも高く、「やや不安を感じる」(32.1%)と合わせると8割近くの人が不安を感じている。また、年齢が高くなるほど、「不安を感じる」や「やや不安を感じる」の割合が高くなっている。

一方、65～69歳の男性において「不安を感じない」(53.4%)の割合が他の年齢区分よりも高く、年齢が低くなるほど、「不安を感じない」の割合が高い傾向にある。

◆表 高齢者の性別・年齢別区分◆

		合計 (件)	転倒に対する不安				無回答
			不安を感じる	やや不安を感じる	あまり不安を感じない	不安を感じない	
全体		751	169	170	150	194	68
%		100	22.5	22.6	20.0	25.8	9.1
性別	男性	300	46	58	67	117	12
	%	100	15.3	19.3	22.3	39.0	4.0
	女性	378	117	106	73	64	18
	%	100	31.0	28.0	19.3	16.9	4.8
	無回答	73	6	6	10	13	38
%		100	8.2	8.2	13.7	17.8	52.1

※回答者:751人(「対象となる高齢者」が「本人」である、または「家族」にいるの回答数)

IV. 調査結果の詳細

		合計 (件)	転倒に対する不安				無回答
			不安を感じる	やや不安を感じる	あまり不安を感じない	不安を感じない	
全体		751	169	170	150	194	68
%		100	22.5	22.6	20.0	25.8	9.1
65～69歳	男性	131	11	15	30	70	5
	%	100	8.4	11.5	22.9	53.4	3.8
	女性	100	13	24	21	35	7
	%	100	13.0	24.0	21.0	35.0	7.0
	無回答	2	-	-	1	1	-
%		100	-	-	50.0	50.0	-
70～74歳	男性	70	7	15	17	29	2
	%	100	10.0	21.4	24.3	41.4	2.9
	女性	83	17	20	25	18	3
	%	100	20.5	24.1	30.1	21.7	3.6
	無回答	-	-	-	-	-	-
%		-	-	-	-	-	-
75歳以上	男性	99	28	28	20	18	5
	%	100	28.3	28.3	20.2	18.2	5.1
	女性	193	87	62	26	10	8
	%	100	45.1	32.1	13.5	5.2	4.1
	無回答	2	-	-	-	2	-
%		100	-	-	-	100.0	-
無回答	男性	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-
	女性	2	-	-	1	1	-
	%	100	-	-	50.0	50.0	-
	無回答	69	6	6	9	10	38
%		100	8.7	8.7	13.0	14.5	55.1

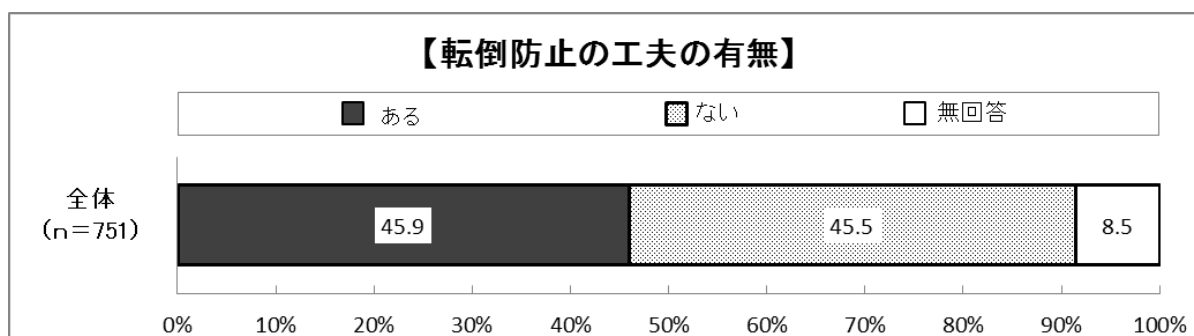
※回答者：751人（「対象となる高齢者」が「本人」である、または「家族」にいるの回答数）

(4) 転倒防止のための工夫

① 転倒防止のために工夫していることがあるか

問12. 対象となる高齢者の方の転倒防止のために、工夫していますか。

(○はひとつ)



高齢者の転倒防止の工夫の有無については、「ある」(45.9%)が「ない」(45.5%)をやや上回っているが、両方ともほぼ同じ割合である。

【属性別特徴】

性別にみると、転倒防止のために工夫していることが「ある」(男性：38.0%、女性：54.5%)の割合は男性が4割弱であるのに対し、女性の方が5割台半ばと高い。

性別・年齢区分別にみると、転倒防止のために工夫していることが「ある」は75歳以上女性で6割以上(62.7%)と最も多く、男性よりも女性で多くなっている。また、年齢が低くなるほど工夫していることが「ない」の割合が高くなっている。

◆表 高齢者の性別・年齢別区分◆

		合計 (件)	転倒防止のために工夫していることがあるか		
			ある	ない	無回答
全体(件)		751	345	342	64
%		100	45.9	45.5	8.5
性別	男性	300	114	173	13
	%	100	38.0	57.7	4.3
	女性	378	206	155	17
	%	100	54.5	41.0	4.5
	無回答	73	25	14	34
%		100	34.2	19.2	46.6

※回答者：751人(「対象となる高齢者」が「本人」である、または「家族」にいるの回答数)

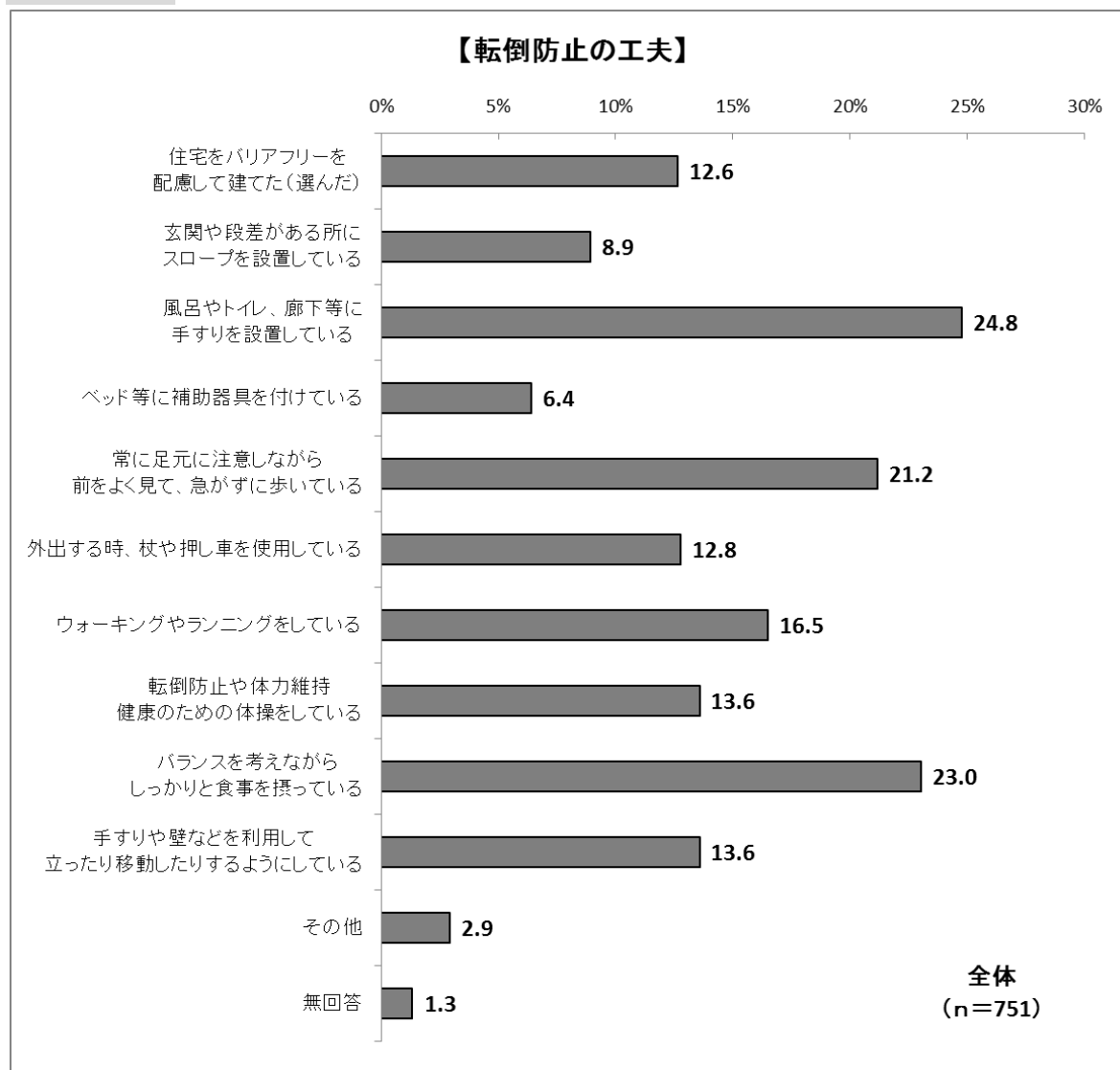
IV. 調査結果の詳細

		合計 (件)	転倒防止のために工夫していることがあるか		
			あ る	な い	無 回 答
全体(件)		751	345	342	64
%		100	45.9	45.5	8.5
65～69歳	男性	131	42	85	4
	%	100	32.1	64.9	3.1
	女性	100	39	57	4
	%	100	39.0	57.0	4.0
	無回答	2	1	1	－
%		100	50.0	50.0	－
70～74歳	男性	70	21	43	6
	%	100	30.0	61.4	8.6
	女性	83	46	35	2
	%	100	55.4	42.2	2.4
	無回答	－	－	－	－
%		－	－	－	－
75歳以上	男性	99	51	45	3
	%	100	51.5	45.5	3.0
	女性	193	121	61	11
	%	100	62.7	31.6	5.7
	無回答	2	1	1	－
%		100	50.0	50.0	－
無回答	男性	－	－	－	－
	%	－	－	－	－
	女性	2	－	2	－
	%	100	－	100.0	－
	無回答	69	23	12	34
%		100	33.3	17.4	49.3

※回答者:751人(「対象となる高齢者」が「本人」である、または「家族」にいるの回答数)

② 転倒防止のために工夫していることについて

問12-1. 転倒防止のために工夫している項目に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)



転倒防止のために工夫していることは、「風呂やトイレ、廊下等に手すりを設置している」(24.8%)が最も多く、次いで「バランスを考えながらしっかりと食事を摂っている」(23.0%)、「常に足元に注意しながら、前をよく見て、急がずに歩いている」(21.2%)、「ウォーキングやランニングをしている」(16.5%)の順となっている。

また、選択肢以外の「その他」では、「高齢者用住宅などに入居している」や「サンダルを履かないようにしている」、「夜間は足元照明を点けている」などが挙げられた。

IV. 調査結果の詳細

【属性別特徴】

性別にみると、男性では、「風呂やトイレ、廊下等に手すりを設置している」や「ウォーキングやランニングをしている」がそれぞれ約2割（18.7%）と最も多く、女性では、「風呂やトイレ、廊下等に手すりを設置している」が3割以上（31.5%）と最も多くなっている。

性別・年齢区分別にみると、65歳～69歳の男性では、「ウォーキングやランニングをしている」（18.3%）が最も多く、同年齢区分の女性では、「風呂やトイレ、廊下等に手すりを設置している」や「バランスを考えながらしっかりと食事を摂っている」がそれぞれ23.0%と最も多くなっている。

70～74歳の男女ともに、「バランスを考えながらしっかりと食事を摂っている」（男性：18.6%、女性：33.7%）が最も多く、75歳以上の男女では、「風呂やトイレ、廊下等に手すりを設置している」（男性：28.3%、女性：36.8%）が最も多くなっている。

男性よりも女性、年齢が高くなるほど、転倒防止の工夫をしている人が多い。

◆表 高齢者の性別・年齢別区分◆

	合計 (件)	転倒防止のための工夫について											
		して住宅を建てた（選んだ）を配慮	玄関や段差がある所にス	風呂やトイレ、廊下等に手	ベッド等に補助器具を付け	い前をいよく見て注意しながら歩、	常に足元に注意しながら歩、	使用している時、杖や押し車を	をウォーキングやランニング	の転倒防止の体操作をしてい、健康	るしバランスをと考えながら、い	るようについたり移動し利用し	手すりや壁などを利用し
全体(件)	751	95	67	186	48	159	96	124	102	173	102	22	10
	%	12.6	8.9	24.8	6.4	21.2	12.8	16.5	13.6	23.0	13.6	2.9	1.3
性別	男性	300	33	17	56	14	49	23	56	31	53	26	4
		%	11.0	5.7	18.7	4.7	16.3	7.7	18.7	10.3	17.7	8.7	1.3
	女性	378	56	44	119	32	100	69	59	64	109	70	2
		%	14.8	11.6	31.5	8.5	26.5	18.3	15.6	16.9	28.8	18.5	0.5
	無回答	73	6	6	11	2	10	4	9	7	11	6	4
	%	8.2	8.2	15.1	2.7	13.7	5.5	12.3	9.6	15.1	8.2	5.5	

※回答者数：751人

※複数回答があるため、横列の合計は”合計(件)”と異なる

IV. 調査結果の詳細

	合計 (件)	転倒防止のための工夫について												
		して住宅を建てた（選んだ）を配慮	玄関や段差がある所にスロープを設置している	風呂やトイレ、廊下等に手すりや設置している	ベットの等に補助器具を付けている	前をよく見て、急がずに歩	常に足元に注意しながら、	外出する時、杖や押し車を	使用している	ウオーキングやランニング	の転倒防止の体操をしている、健康	るしバランスを考ながら、い	るようになり移動したりす	て、すり壁などを利用し
全体(件)	751	95	67	186	48	159	96	124	102	173	102	22	10	
	%	12.6	8.9	24.8	6.4	21.2	12.8	16.5	13.6	23.0	13.6	2.9	1.3	
65歳～ 69歳	男性	131	12	4	21	1	15	4	24	9	19	8	3	1
	%	9.2	3.1	16.0	0.8	11.5	3.1	18.3	6.9	14.5	6.1	2.3	0.8	
	女性	100	18	8	23	1	13	3	13	13	23	6	2	-
	%	18.0	8.0	23.0	1.0	13.0	3.0	13.0	13.0	23.0	6.0	2.0	-	
	無回答	2	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	
70歳～ 74歳	男性	70	6	2	7	2	10	4	10	6	13	3	2	3
	%	8.6	2.9	10.0	2.9	14.3	5.7	14.3	8.6	18.6	4.3	2.9	4.3	
	女性	83	15	8	25	3	25	6	22	18	28	13	1	-
	%	18.1	9.6	30.1	3.6	30.1	7.2	26.5	21.7	33.7	15.7	1.2	-	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
75歳以上	男性	99	15	11	28	11	24	15	22	16	21	15	6	-
	%	15.2	11.1	28.3	11.1	24.2	15.2	22.2	16.2	21.2	15.2	6.1	-	
	女性	193	23	28	71	28	62	60	24	33	58	51	4	2
	%	11.9	14.5	36.8	14.5	32.1	31.1	12.4	17.1	30.1	26.4	2.1	1.0	
	無回答	2	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	
無回答	男性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	女性	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無回答	69	6	6	11	2	10	4	7	6	10	6	4	4
	%	8.7	8.7	15.9	2.9	14.5	5.8	10.1	8.7	14.5	8.7	5.8	5.8	

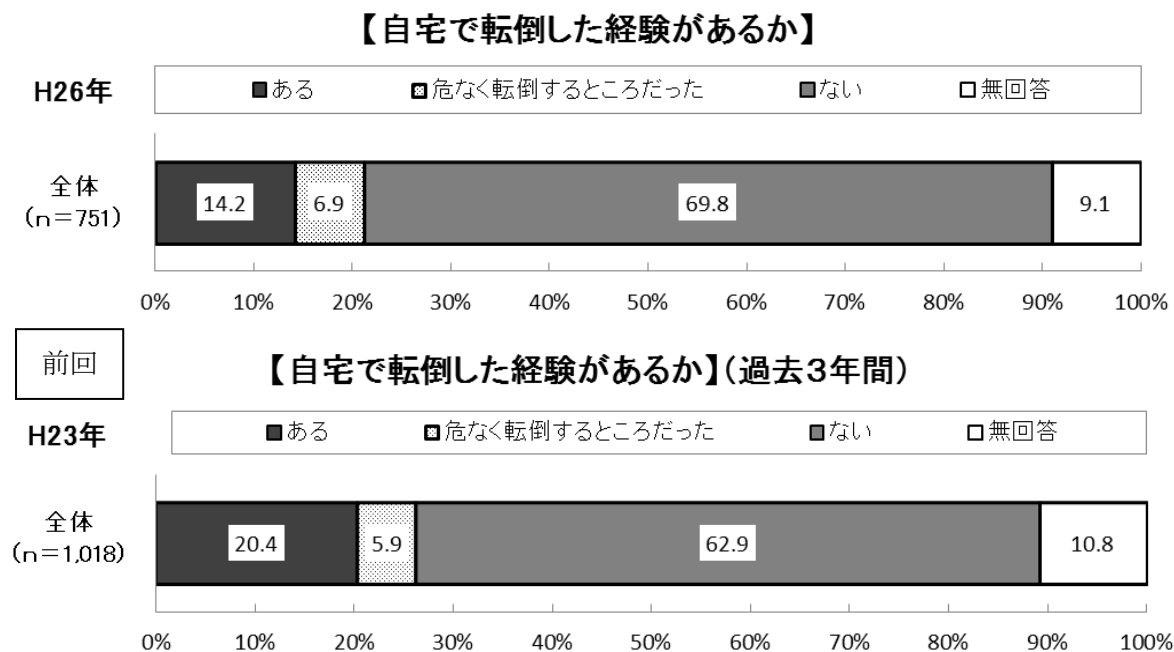
※回答者数:751人

※複数回答があるため、横列の合計は”合計(件)”と異なる

(5) 高齢者の自宅での転倒（過去1年間）

① 転倒した経験

問13. 対象となる高齢者の方は、過去1年間に、自宅で転倒した経験がありますか。該当するものに○をしてください。（○はひとつ）



高齢者の過去1年間に自宅での転倒した経験については、「ない」（69.8%）が約7割と最も多く、次いで「ある」（14.2%）、「危なく転倒するところだった」（6.9%）の順となっている。

平成23年調査と比較すると、自宅での転倒した経験が「ある」（前回：20.4%、今回：14.2%）は前回より低くなっている。

【属性別特徴】

65～69歳、70～74歳において「ない」の割合は7割から10割を占めている。

概ね年齢が上がるにつれて、転倒した経験が「ある」「危なく転倒するところだった」の割合が高くなる傾向にあり、75歳以上において、転倒した経験が「ある」（男性：18.2%、女性：27.5%）が約2割から3割近くと他に比べて高くなっている。

◆表 高齢者の性別・年齢区分別◆

		合計 (件)	自宅で転倒した経験があるか			
			ある	こ危 ろな く だ く つ 転 倒 す と	ない	無 回 答
全体(件)		751	107	52	524	68
%		100	14.2	6.9	69.8	9.1
性別	男性	300	28	21	234	17
	%	100	9.3	7.0	78.0	5.7
	女性	378	72	28	261	17
	%	100	19.0	7.4	69.0	4.5
	無回答	73	7	3	29	34
%		100	9.6	4.1	39.7	46.6

※回答者：751人（「対象となる高齢者」が「本人」である、または「家族」にいるの回答数）

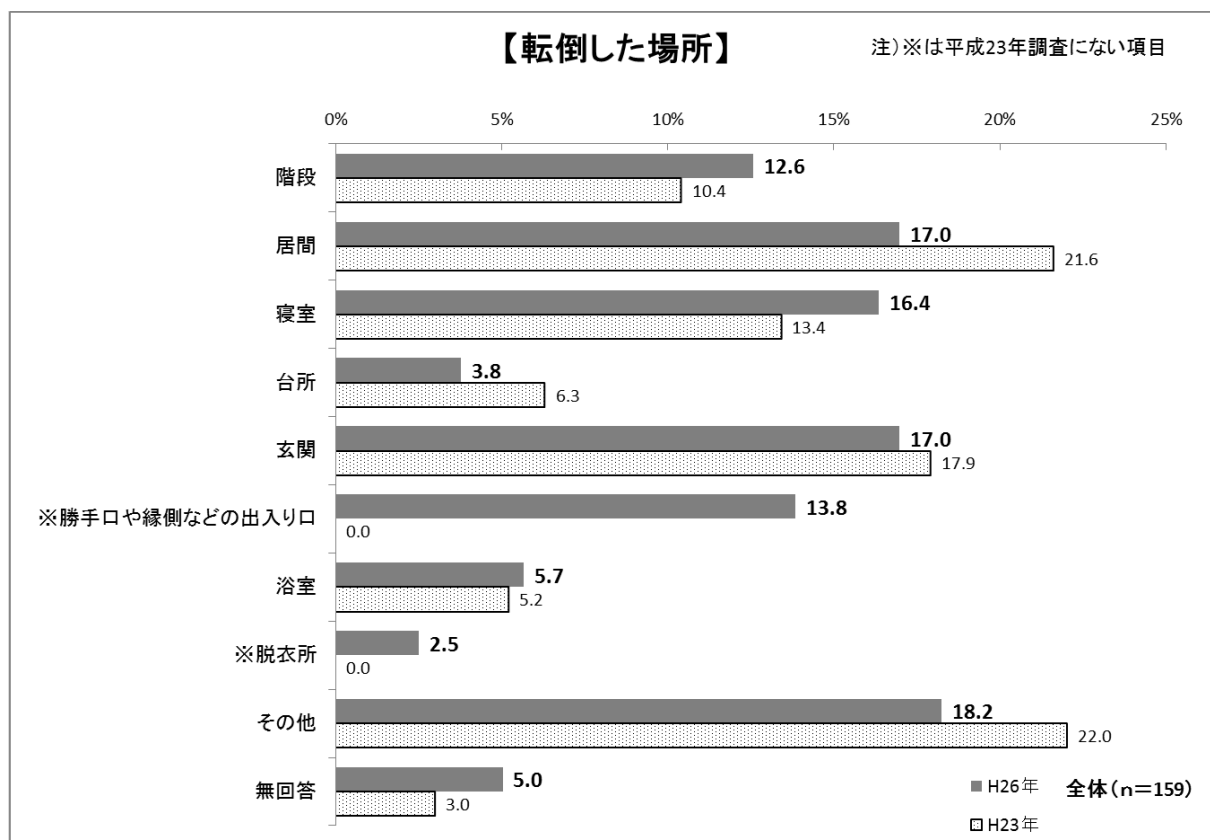
IV. 調査結果の詳細

		合計 (件)	自宅で転倒した経験があるか			
			ある	こ 危 ろ な く だ っ た 転 倒 す る と	ない	無 回 答
全体(件)		751	107	52	524	68
%		100	14.2	6.9	69.8	9.1
65～69歳	男性	131	8	4	106	13
	%	100	6.1	3.1	80.9	9.9
	女性	100	5	1	90	4
	%	100	5.0	1.0	90.0	4.0
	無回答	2	-	-	2	-
%		100	-	-	100.0	-
70～74歳	男性	70	2	8	57	3
	%	100	2.9	11.4	81.4	4.3
	女性	83	14	5	61	3
	%	100	16.9	6.0	73.5	3.6
	無回答	-	-	-	-	-
%		-	-	-	-	-
75歳以上	男性	99	18	9	71	1
	%	100	18.2	9.1	71.7	1.0
	女性	193	53	22	108	10
	%	100	27.5	11.4	56.0	5.2
	無回答	2	-	1	1	-
%		100	-	50.0	50.0	-
無回答	男性	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-
	女性	2	-	-	2	-
	%	100	-	-	100.0	-
	無回答	69	7	2	26	34
%		100	10.1	2.9	37.7	49.3

※回答者:751人(「対象となる高齢者」が「本人」である、または「家族」にいるの回答数)

② 転倒した場所

問 13-1. 場所はどこですか。(〇はひとつ)



転倒したことがある、危なく転倒するところだったと回答した人に転倒場所について尋ねたところ、「居間」(17.0%)、並んで「玄関」(17.0%)が最も多く、次いで「寝室」(16.4%)、「勝手口や縁側などの出入り口」(13.8%)の順となっている。

平成23年調査では、今回とほぼ同様に、「居間」(前回：21.6%、今回：17.0%)が最も多く、次いで「玄関」(前回：17.9%、今回：17.0%)、「寝室」(前回：13.4%、今回：16.4%)の順となっている。また、「階段」(前回：10.4%、今回：12.6%)でのケガの割合は前回よりも今回の方が高くなっている。

また、選択肢以外の「その他」では、「ベランダ」や「廊下」などが挙げられた。

IV. 調査結果の詳細

【属性別特徴】

性別にみると、男性では、「玄関」(20.4%)が最も多く、女性では、「寝室」(17.0%)でのケガが最も多くなっている。

性別・年齢区別にみると、65～69歳男性では、「階段」、「玄関」(25.0%)が最も多く、同年齢区分の女性では、「勝手口や縁側などの出入り口」(33.3%)が最も多い。70～74歳男性では、「勝手口や縁側などの出入り口」(40.0%)が最も多くなっており、同年齢区分の女性では、「階段」、「勝手口や縁側などの出入り口」(15.8%)が多い。75歳以上の男性は、「居間」、「玄関」(18.5%)が最も多く、同年齢区分の女性では、「寝室」(20.0%)が最も多くなっている。

◆表 高齢者の性別・年齢区分別◆

	合計 (件)	転倒した場所										
		階段	居間	寝室	台所	玄関	勝手口や縁側などの出入り口	浴室	脱衣所	その他	無回答	
全体(件)	159	20	27	26	6	27	22	9	4	29	8	
	%	12.6	17.0	16.4	3.8	17.0	13.8	5.7	2.5	18.2	5.0	
性別	男性	49	8	9	8	1	10	9	4	1	4	4
		%	16.3	18.4	16.3	2.0	20.4	18.4	8.2	4.1	6.1	8.2
	女性	100	10	15	17	5	13	12	5	3	25	3
		%	10.0	15.0	17.0	5.0	13.0	12.0	5.0	3.0	25.0	3.0
	無回答	10	2	3	1	-	4	1	-	-	-	1
	%	20.0	30.0	10.0	-	40.0	10.0	-	-	-	10.0	

※回答者:159人(「問13」の「自宅で転倒したこと」が「1.ある」または「2.危なく転倒するところだった」の回答数)

※複数回答があるため、横列の合計は「合計(件)」と異なる

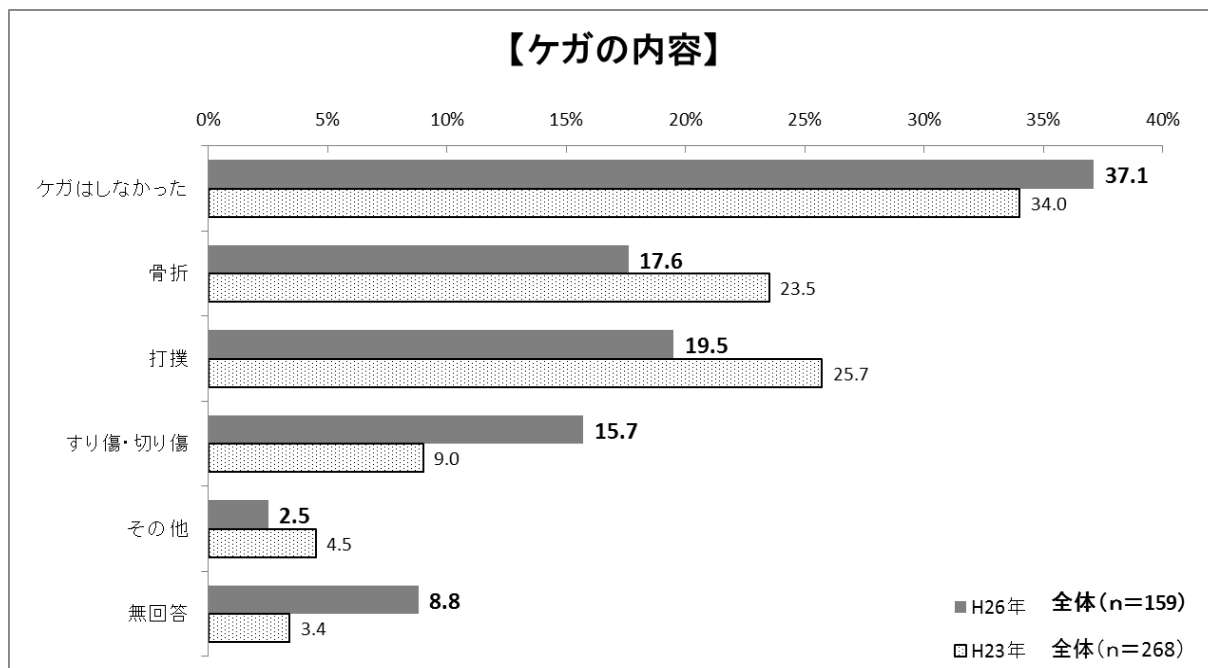
		合計 (件)	転倒した場所									
			階段	居間	寝室	台所	玄関	勝手口 の入り口 や縁側な り口	浴室	脱衣所	その他	無回答
全体(件)		159	20	27	26	6	27	22	9	4	29	8
%			12.6	17.0	16.4	3.8	17.0	13.8	5.7	2.5	18.2	5.0
65～ 69歳	男性	12	3	2	2	-	3	2	1	-	-	1
	%		25.0	16.7	16.7	-	25.0	16.7	8.3	-	-	8.3
	女性	6	1	-	-	-	1	2	-	-	2	-
	%		16.7	-	-	-	16.7	33.3	-	-	33.3	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70～ 74歳	男性	10	2	2	2	-	2	4	1	-	-	-
	%		20.0	20.0	20.0	-	20.0	40.0	10.0	-	-	-
	女性	19	3	1	2	1	1	3	2	-	6	1
	%		15.8	5.3	10.5	5.3	5.3	15.8	10.5	-	31.6	5.3
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
75歳 以上	男性	27	3	5	4	1	5	3	2	1	4	3
	%		11.1	18.5	14.8	3.7	18.5	11.1	7.4	3.7	14.8	11.1
	女性	75	6	14	15	4	11	7	3	3	17	2
	%		8.0	18.7	20.0	5.3	14.7	9.3	4.0	4.0	22.7	2.7
	無回答	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
%			-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
無回答	男性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	%		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	9	2	3	1	-	3	1	-	-	-	1
%			22.2	33.3	11.1	-	33.3	11.1	-	-	0.0	11.1

※回答者：159人（「問13」の「自宅で転倒したこと」が「1.ある」または「2.危なく転倒するところだった」の回答数）

※複数回答があるため、横列の合計は「合計(件)」と異なる

③ 転倒した際のケガの内容

問 1 3-2. ケガはしましたか。ケガをした方はケガの内容についてお答え下さい。(〇はひとつ)



転倒したことがある、危なく転倒するところだったと回答した人に、転倒したときのケガの内容について尋ねたところ、「ケガはしなかった」(37.1%)が約4割と最も多い。ケガをした状況のうち、「打撲」(19.5%)が約2割と最も多く、次いで「骨折」(17.6%)、「すり傷・切り傷」(15.7%)の順となっている。

平成23年調査では、今回と同様、「ケガはしなかった」(前回: 34.0%、今回: 37.1%)が最も多く、次いで、「打撲」(前回: 25.7%、今回: 19.5%)、「骨折」(前回: 23.5%、今回: 17.6%)の順となっている。また、今回の「骨折」や「打撲」の割合は前回よりも低く、「すり傷・切り傷」(前回: 9.0%、今回: 15.7%)は高くなっている。

また、選択肢以外の「その他」では、「ぎっくり腰」や「脱臼」などが挙げられた。

【属性別特徴】

性別・年齢区分別にみると、全体的に「ケガはしなかった」の割合が高くなっているが、70～74歳女性においては、「骨折」(31.6%)の割合が「ケガをしなかった」(31.6%)と並んで高くなっている。75歳以上の女性においても「打撲」(24.0%)の割合が「ケガをしなかった」(33.3%)と大きな差はなく、高くなっている。

また、「すり傷・切り傷」は女性よりも男性の方が多い傾向にある。

◆表 高齢者の性別・年齢区分別◆

		合計 (件)	ケガの内容					無回答
			ケガはしなかった	骨折	打撲	すり傷・切り傷	その他	
全体(件)		159	59	28	31	25	4	14
%			37.1	17.6	19.5	15.7	2.5	8.8
性別	男性	49	20	4	7	11	-	8
	%		40.8	8.2	14.3	22.4	-	14.3
	女性	100	35	22	23	11	3	6
	%		35.0	22.0	23.0	11.0	3.0	6.0
無回答		10	4	2	1	3	1	-
%			40.0	20.0	10.0	30.0	10.0	-

※回答者:159人(「問13」の「自宅で転倒したこと」が「1.ある」または「2.危なく転倒するところだった」の回答数)

※複数回答があるため、横列の合計は「合計(件)」と異なる

IV. 調査結果の詳細

		合計 (件)	ケガの内容					無回答
			ケガはしなかった	骨折	打撲	すり傷・切り傷	その他	
全体(件)		159	59	28	31	25	4	14
		%	37.1	17.6	19.5	15.7	2.5	8.8
65～69歳	男性	12	4	2	1	2	-	4
		%	33.3	16.7	8.3	16.7	-	33.3
	女性	6	4	1	1	-	-	-
		%	66.7	16.7	16.7	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	
70～74歳	男性	10	5	-	1	3	-	1
		%	50.0	-	10.0	30.0	-	10.0
	女性	19	6	6	4	2	-	1
		%	31.6	31.6	21.1	10.5	-	5.3
	無回答	-	-	-	-	-	-	-
	%	-	-	-	-	-	-	
75歳以上	男性	27	11	2	5	6	-	3
		%	40.7	7.4	18.5	22.2	-	11.1
	女性	75	25	15	18	9	3	5
		%	33.3	20.0	24.0	12.0	4.0	6.7
	無回答	1	-	1	-	-	-	-
	%	-	100.0	-	-	-	-	
無回答	男性	-	-	-	-	-	-	-
		%	-	-	-	-	-	-
	女性	-	-	-	-	-	-	-
		%	-	-	-	-	-	-
	無回答	9	4	1	1	3	1	-
	%	44.4	11.1	11.1	33.3	11.1	-	

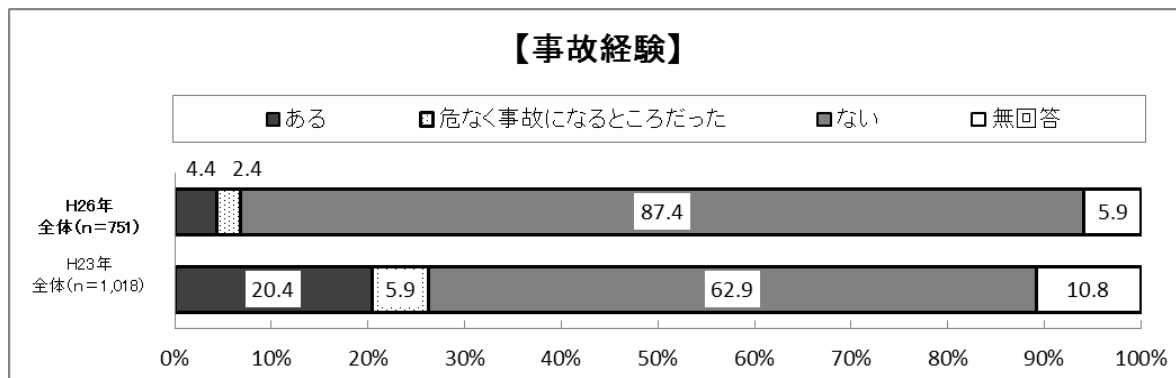
※回答者：159人（「問13」の「自宅で転倒したこと」が「1.ある」または「2.危なく転倒するところだった」の回答数）

※複数回答があるため、横列の合計は「合計（件）」と異なる

(6) 歩行中や自転車乗車中の事故について（過去1年間）

① 歩行中や自転車乗車中に事故にあった経験について

問14. 過去1年間に、対象となる高齢者の方は、歩行中や自転車に乗っている時に、事故にあった経験がありますか。該当するものに○をしてください。（○はひとつ）

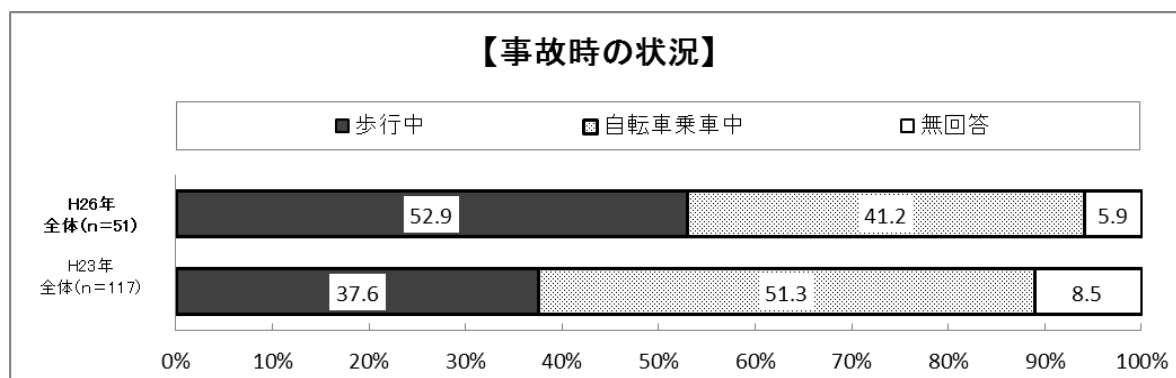


高齢者が過去1年以内に事故にあった経験については、「ない」（87.4%）が約9割と最も多く、次いで「ある」（4.4%）、「危なく事故になるところだった」（2.4%）の順となっており、事故にあった、あるいは、事故になりそうになった経験がある人は6.8%と全体の1割にも満たない結果となっている。

平成23年調査では、事故経験が「ある」（前回：20.4%、今回：4.4%）と「危なく事故になるところだった」（前回：5.9%、今回：2.4%）の合計は2割台半ば以上（前回：26.3%、今回：6.8%）となっており、前回に比べて今回の方が低くなっている。

② 事故の状況

問14-1. それはいつですか。（○はひとつ）

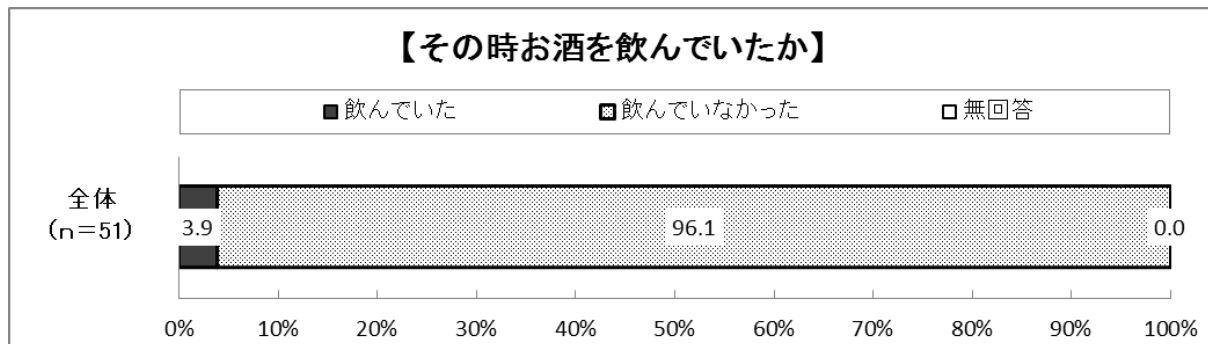


事故にあったことが「ある」、「危なく事故になるところだった」と回答した人に、事故時の状況について尋ねたところ、「歩行中」（52.9%）が5割を超えており、「自転車乗車中」（41.2%）を上回っている。

平成23年調査と比較すると、前回は「自転車乗車中」（51.3%）が「歩行中」（37.6%）を上回っており、今回の割合と逆の傾向を示している。

③ 事故にあった時、お酒を飲んでいたら

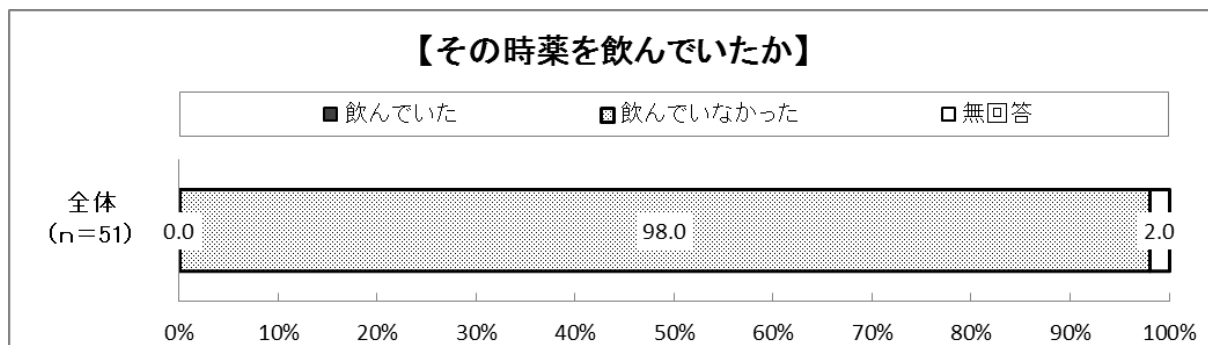
問 1 4-2. その時、お酒を飲んでいましたか。



事故にあった時、お酒を飲んでいたらについては、「飲んでいなかった」(96.1%)が10割近くを占めている。

④ 事故にあった時、薬を飲んでいたら

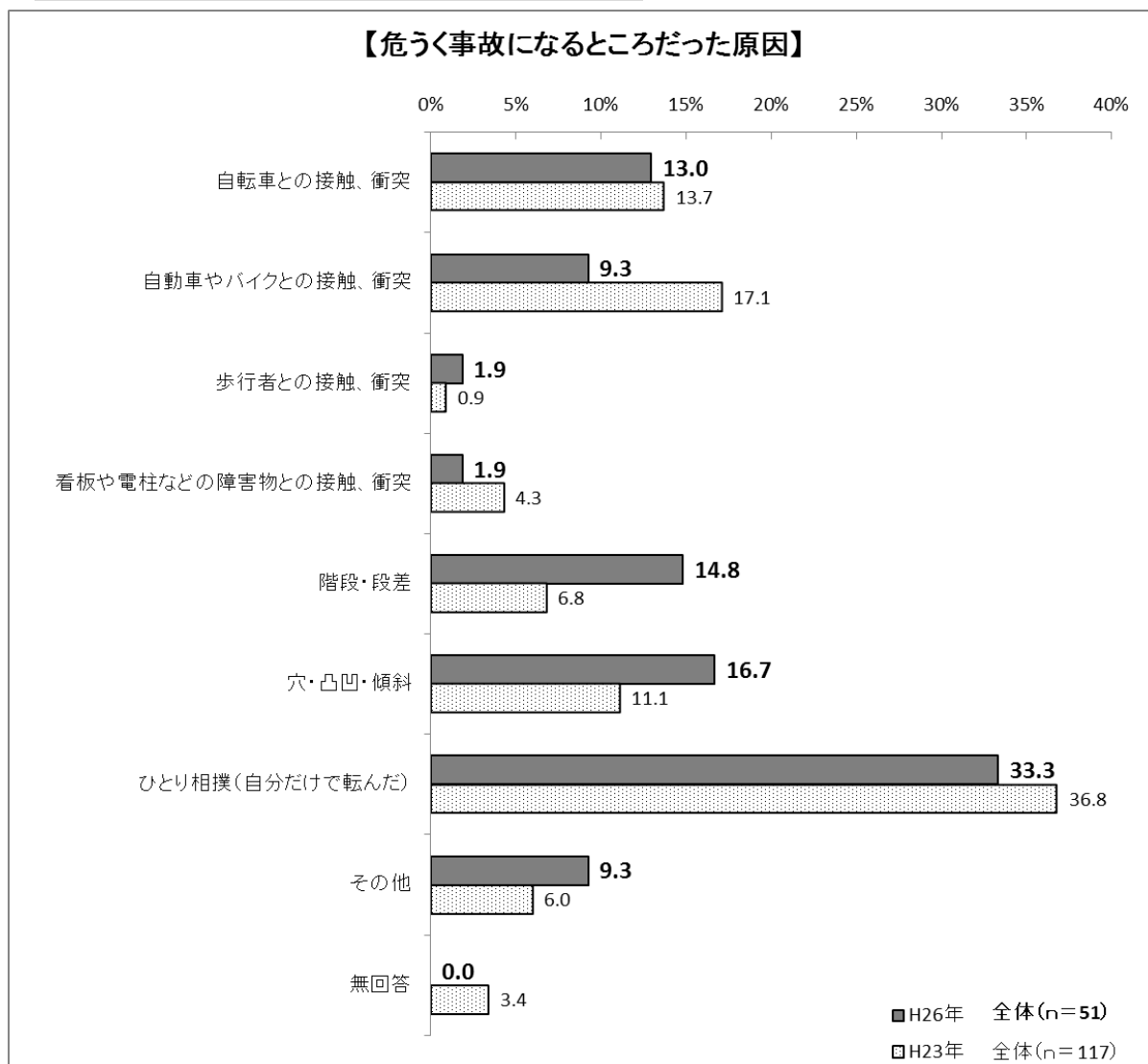
問 1 4-3. その時、薬(例：風邪薬や鎮痛剤など)を飲んでいましたか。



事故にあった時、薬を飲んでいたらについては、「飲んでいなかった」(98.0%)が10割近くを占めている。

⑤ 事故にあった原因

問 1 4-4. その原因は何ですか。(〇はひとつ)



危うく事故になるところだった原因については、「ひとり相撲（自分だけで転んだ）」（33.3%）が最も多く、次いで「穴・凸凹・傾斜」（16.7%）、「階段・段差」（14.8%）の順となっている。

平成 23 年調査では、今回と同様、「ひとり相撲（自分だけで転んだ）」（36.8%）が最も多くなっているが、2 番目以降に多かったものは、「自動車やバイクと接触、衝突」（17.1%）、「自転車との接触、衝突」（13.7%）などと今回と違いがみられる。前回よりも、自転車や自動車、障害物などとの『接触、衝突』の割合が低くなっており、「階段・段差」や「穴・凹凸・傾斜」については前回よりも高くなっている。

また、選択肢以外の「その他」では、「キャリーカートを持ってエスカレータに乗り足を踏み外した」や「犬を連れていて引っ張られて転んだ」などが挙げられた。

V. 総括

V. 総括

(1) 「過去のケガ」について

今回の調査では、過去1年間にケガをしたことがある人が回答者全体の約2割(21.4%)となっている。平成23年の調査でのケガをしたことがある人の割合も約2割(22.3%)と今回とほぼ変わらない割合となっている(P.33参照)。

ケガの発生率(ケガをしたことがある人の割合)を属性別にみると、男性(19.7%)より女性(24.0%)で、なかでも50歳代女性(32.8%)で高くなっている(P.34参照)。

ケガをしたときの季節や時間帯等の状況をみると、季節は「9～11月(秋)」(44.0%)、時間帯では日中から夜のはじめ頃『9～20時』(66.3%)の割合が最も高い(P.35参照)。

ケガの原因では「転倒」(32.0%)が最も多く、特に70歳以上の男性(63.6%)と女性(64.7%)ともに過半数を占めており、年齢が高くなるほど「転倒」の割合が高くなっている(P.36～38参照)。転倒した場所を具体的にみると、「道路・歩道」(20.8%)や居間、寝室、風呂以外の「自宅(その他)」(19.8%)が多く(P.46参照)、転倒した状況は、「段差や物でつまづいた」(44.8%)が最も多くなっている(P.50参照)。

ケガをした時にしていたこととしては、「通勤を含む仕事」(前回:17.1%、今回:25.3%)が最も多く、平成23年調査と比較してもその割合は高くなっている(P.39参照)。「通勤を含む仕事」をした時にケガをした割合は、女性(20.9%)よりも男性(31.2%)が高く、特に20歳代男性(71.4%)では7割以上と女性や他の年代と比較して突出して高くなっている(P.40～41参照)。また、ケガをした時にしていたことと、ケガの原因の関係をみると、「交通事故」(50.0%)をはじめ、「転倒」(20.8%)、「接触・衝突」(34.3%)などのケガが多い(P.42参照)。

ケガをした場所としては、男女ともに居間、寝室、風呂以外の「自宅(その他)」(男性:15.2%、女性:29.1%)が最も多くなっている(P.43～46参照)。さらに、居間、寝室、風呂を含めた『自宅』では、男性で約3割(28.8%)、女性で4割台半ば(44.7%)と多くなっており、自宅でのケガの防止対策や意識を持つことが必要であるといえる。

ケガをした状況・きっかけとしては、男性では、「バランスを崩した」(男性:18.4%、女性:15.7%)が最も多く、女性では「段差や物でつまづいた」(男性:12.0%、女性:20.3%)が最も多くなっている(P.47～50参照)。

ケガの内容としては、男女ともに「打撲」(男性:31.2%、女性:32.6%)が最も多く、性別・年代別にみても「打撲」の割合が高いなか、70歳以上の女性では、「骨折」(35.3%)が最も高くなっている(P.56～58参照)。

(2) 「日常生活」における安全対策について

日常生活における安全対策として実践していることでは、「自動車や自転車を運転する際は安全確認を怠らないようにしている」(75.9%)、「交通ルール・マナーを理解しいつも遵守するよう心がけている」(74.9%)が7割以上と実践度が特に高い。一方、「自転車に乗る時はヘルメットを着用している」(0.7%)や「転落防止の柵などを設置している」(3.9%)は他の項目に比べて実践度が低くなっている(P.59～63参照)。

(3) 「交通安全」について

交通安全に関連して、主な移動手段についてみると、「自動車・バイク」(76.1%)が7割台半ばを占めて突出しており、特に30歳代や40歳代では約9割(30歳代:90.1%、40歳代:87.2%)を占めている。一方、20歳代や70歳以上では、「徒歩(タクシー、公共交通機関を含む)」(20歳代:39.2%、70歳以上:45.5%)の割合が他の年代よりも高くなっている(P.64~66参照)。

なお、過去1年間に交通事故によるケガをした人は1割にも満たない割合になっているが、20歳代女性において、交通事故の割合が2割(20.0%)と男性や他の年代よりもやや高くなっている(P.38参照)。交通事故によるケガをした時にしていたこととしては、「通勤を含む仕事」(50.0%)が多くなっており(P.42参照)、仕事での交通安全に対する注意喚起が必要である。また、交通事故によるケガの割合を平成23年調査と比較してみると、前回は約1割(11.2%)と「転倒」に次ぐケガの原因の第2位となっているが、今回は1割未満(5.3%)と全体の第4位となっており、前回よりも割合が低くなっている(P.36参照)。

交通安全のために実践していることとしては、「自動車を運転する時は、子供や高齢者に注意を払い運転をする」(74.2%)が最も多く、次いで「自動車を夕暮れ時に運転する時は早めにライトを点灯する」(61.9%)、「自動車を運転する時は、携帯電話やカーナビ等の操作を行わない」(51.3%)の順となっており、自動車に関する実践度が高い傾向にある(P.67参照)。交通事故の規模によっては、自分だけでなく他人も巻き込んでケガをさせてしまうことも有り得るため、交通安全への意識や実践度をさらに高めることで事故を減らすことが重要といえる。

(4) 「幼児・児童と保護者の状況」について

世帯に15歳未満の子供がいる人は回答者全体の約3割(29.1%)であり、うち2歳以下の乳幼児が約2割(21.4%)を占めている(P.71参照)。

過去1年間の子どものケガの発生率(全体から「ケガはしていない」「無回答」を除いた割合)は、自宅で:27.5%、自宅以外で:32.4%となっており、自宅以外でのケガの方が多くなっている(P.72,79参照)。

自宅でのケガの内容としては、「家具や物、人などに体をぶつけるなどの衝突」(14.3%)が最も多く、次いで「ベッドや椅子などからの転落」(9.3%)となっており、どちらも年齢が幼いほど割合が高くなっている(P.72~74参照)。

また、家庭内において知っていたり、聞いたことがある安全対策(10項目)について、認知度・実践度をみると、子どもの年齢が低い家庭ほど、安全対策の実践度は高い傾向にある。また、平成23年調査と比較すると、前回の認知度は、「たんすや食器棚、流し台のドアが開かないように固定する」(70.9%)や「家具の角にかぶせものをする」(69.0%)をはじめ9項目中6項目で5割を超えているのに対し、今回は、5割を超えるものは10項目中2項目のみとなっている。しかしながら、実践度については、「家電等のスイッチを勝手に入れられないようにする」や「浴槽の床にマット等を敷きすべらないようにする」などにおいて前回よりも高くなっている(P.75~78参照)。

自宅以外でのケガの内容としては、「学校(校舎、体育館などの屋内)でのケガ(クラブ活動中も含む)」(10.1%)が最も多く、次いで「道路や歩道を歩いている際の転倒」(9.6%)となっている。「学校(校舎、体育館などの屋内)でのケガ(クラブ活動中も含む)」や、「学校(グラウンド、プールなどの屋外)でのケガ(クラブ活動中も含む)」、「保育園・幼稚園でのケガ」を含む通園通学先でのケガが、約3割となっている。特に9歳以上においては、『学校でのケガ』(「学校(校舎、体育館などの屋内)でのケガ(クラブ活動中も含む)」と「学校(グラウンド、プールなどの屋外)でのケガ(クラブ活動中も含む)」の合計)は約5割(9~11歳:47.8%、12歳以上:48.6%)になり、約2人に1人が過去1年間に学校でのケガを経験していることになる。さらに、平成23年調査と比較すると、「保育園・幼稚園でのケガ」の割合は低くなっているが、「学校(校舎、体育館などの屋内)でのケガ(クラブ活動中も含む)」と「学校(グラウンド、プールなどの屋外)でのケガ(クラブ活動中も含む)」は前回よりも高くなっており、小中学校での安全対策が必要といえる(P.79~81参照)。

(5) 「高齢者の状況」について

回答者自身も含め、世帯に65歳以上の高齢者がいる人は、回答者全体の5割以上（53.6%）となっている（P.82 参照）。

高齢者の日常生活における転倒（転ぶ・倒れる・転落する）に対する不安感については、『不安を感じる』（「不安を感じる」＋「やや不安を感じる」）と『不安を感じない』（「不安を感じない」＋「あまり不安を感じない」）もほぼ同等の割合を占めているものの、平成23年調査と比較すると、『不安を感じない』（前回：37.5%、今回：45.8%）の割合が4割台半ばと前回よりも高くなっている。また、「不安を感じる」（前回：18.6%、今回：22.5%）の割合が前回よりも高くなっている（P.84 参照）。

また、転倒に対する不安感は性別や年齢区分別で差がみられ、男性では、「不安を感じない」（39.0%）が約4割であるのに対し、女性では「不安を感じる」（女性：31.0%）が3割以上と高くなっており、男性よりも女性の方が転倒に対する不安感が強い結果となっている。年齢区分別にみると、年齢が高くなるほど、『不安を感じる』の割合が高くなっている（P.84～86 参照）。

高齢者の転倒については、(1)でも整理したとおり、高齢層のケガの主な原因であったが、詳細の調査結果をみると、実際に転倒防止の工夫をしている人は、75歳以上女性で6割台半ば（62.7%）と特に多くなっているが、世帯に75歳以上女性の高齢者がいる人で高齢者の転倒に対して『不安を感じる』（「不安を感じる」：45.1%＋「やや不安を感じる」：32.1%）は8割近くとなっており、具体的な工夫をしているものの、転倒に対する不安が大きいことがわかる（P.86 参照）。

過去1年間に自宅で転倒したことがある人は1割台半ばを占めており、男性よりも女性に多く、特に75歳以上の女性では約3割（27.5%）と多くなっている。平成23年調査では、過去3年間で転倒したことがある人は2割を占めており、対象となる年数に違いはあるものの、今回は前回よりも低くなっている（P.92～94 参照）。転倒したときのケガについては、「ケガはしなかった」（37.1%）が最も多いものの、「打撲」（19.5%）や「骨折」（17.6%）のケガも2割近くと多くなっている。また、平成23年調査に比べて「打撲」（前回：25.7%、今回：19.5%）、「骨折」（前回：23.5%、今回：17.6%）の割合は今回の方が低くなっている（P.98 参照）。

また、高齢者の歩行中や自転車乗車中の事故の発生率（事故にあった経験が「ある」と「危なく事故になるところだった」の合計）は、1割未満（6.8%）となっている。平成23年調査では2割台半ば（26.3%）と前回と比較しても、今回の方が低くなっている（P.101 参照）。歩行中や自転車乗車中の事故の内訳は、歩行中：52.9%、自転車乗車中：41.2%と、歩行中の方が多く、前回調査の歩行中の事故の割合（前回：37.6%）よりも高くなっている（P.101 参照）。なお、事故にあった時にお酒や薬を飲んでいた人はほとんどいなかった（P.102 参照）。

VI. 調査票

久留米市民の事故やケガなどについての実態調査

調査ご協力のお願い

日頃より、久留米市政にご理解とご協力を頂きありがとうございます。

市では、現在、WHO（世界保健機関）セーフコミュニティ協働センターが推進している「セーフコミュニティ」活動に取り組んでおります。

この「セーフコミュニティ」は、市民の皆さんや関係団体と協働して事故やケガの予防に取り組むことにより、「みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり」を目指すものです。

今回の調査は、事故やケガの予防対策を立てるために、本市市民の事故やケガの状況を詳しく調査するものであり、調査内容は、事故やケガの経験、安全についての考え方などに関するものです。

つきましては、久留米市にお住まいの満20歳以上の方の中から2,500名の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査主旨をご理解のうえ、ご協力をお願い申し上げます。

※ この調査結果は統計的に処理する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせ下さいますよう、お願い申し上げます。

平成26年11月

久留米市長 檜原 利則

●調査票の記入について

1. 回答は、調査対象者ご本人(封筒のあて名の人)がご記入ください。

ただし、次の質問については、対象の方がいる場合のみ、記入をお願いします。

○「幼児・児童と保護者の状況」：6～8 ページ

・ご家族の中に、0～15歳未満の子どもがいる場合

→その保護者に聞き取りの上、お答え下さい。

○「高齢者の状況」：9～11 ページ

・あなた自身が満65歳以上の場合→あなた自身のことについてお答え下さい。

・あなた自身が満64歳以下の場合→ご家族の中に、満65歳以上の方がいる方は、

聞き取りの上、お答え下さい。

2. ご回答は、特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲ってください。

3. 調査票の回収については、お手数ですが **11月25日まで**に、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、郵便ポストに投函いただきますようお願いいたします。

4. 本調査に関してご不明な点等がございましたら、お手数ですが下記の連絡先まで、ご連絡下さい。

問い合わせ・連絡先：久留米市 協働推進部 安全安心推進課

電話0942-30-9094、FAX0942-30-9706

矢印で折り返して返信してください

矢印で折り返して返信してください

以下の質問は、調査結果を統計的に整理するために必要なものです。

ご記入に、ご協力をお願いいたします。

F 1 あなたの性別は。

1. 男性 [45.2]

2. 女性 [51.3]

無回答 [3.5]

F 2 あなたの年齢は。(平成 26 年 10 月 1 日時点)

平均 52.6 歳

F 3 あなたのお住まいの校区(小学校区)は。(○はひとつ)

- | | | | | | |
|--------------|---------------|--------------|--------------|-----------------|---------------|
| 1. 西国分 [5.3] | 2. 荘島 [1.7] | 3. 日吉 [1.3] | 4. 篠山 [2.2] | 5. 京町 [1.8] | 6. 南薫 [3.4] |
| 7. 鳥飼 [2.1] | 8. 長門石 [2.3] | 9. 小森野 [0.8] | 10. 金丸 [4.9] | 11. 東国分 [3.6] | 12. 御井 [2.6] |
| 13. 南 [5.1] | 14. 合川 [3.6] | 15. 山川 [2.0] | 16. 上津 [4.3] | 17. 高良内 [3.4] | 18. 宮ノ陣 [2.9] |
| 19. 山本 [1.1] | 20. 草野 [0.8] | 21. 安武 [1.9] | 22. 荒木 [4.1] | 23. 大善寺 [2.4] | 24. 善導寺 [2.4] |
| 25. 大橋 [0.9] | 26. 青峰 [0.9] | 27. 津福 [4.5] | 28. 船越 [0.5] | 29. 水縄 [0.4] | 30. 田主丸 [2.5] |
| 31. 水分 [0.6] | 32. 竹野 [0.6] | 33. 川会 [0.4] | 34. 柴刈 [0.9] | 35. 弓削 [0.7] | 36. 北野 [3.4] |
| 37. 大城 [1.6] | 38. 金島 [0.6] | 39. 城島 [2.4] | 40. 下田 [0.4] | 41. 江上 [0.9] | 42. 青木 [0.9] |
| 43. 浮島 [0.2] | 44. 西牟田 [1.1] | 45. 犬塚 [1.7] | 46. 三藩 [3.1] | 47. わからない [0.9] | 無回答 [4.1] |

1 「過去のケガ」について

過去1年間(平成25年11月～現在まで)の、あなたのケガの状況をお尋ねします。

問1. あなたは過去1年間にケガをされましたか。(○はひとつ)

(ケガとは、骨折、捻挫、打撲、切り傷などで、病院にかからないようなものも対象とします。)

1. ケガをしたことがある 21.4

2. ケガはしてない ⇒ 「2. ケガはしていない」と回答された方は問2 (P4) へ

72.1

無回答

6.4

「1. ケガをしたことがある」と回答された方はお答え下さい。

【注意】複数の経験があれば、最も重症だったものについて記入してください。

問1-1. ケガをしたのはいつ、何時頃ですか。

(時間は24時間で記入してください。例:午後4時は16時)

平成_____年_____月頃 _____時頃

問1-2. ケガの原因は何でしたか。(○はひとつ)

1. 交通事故 5.3 2. 転倒 32.0 3. 転落 2.7 4. 接触・衝突 11.7

5. はさまれた 3.0 6. モノの落下 3.0 7. 火傷 6.7 8. 鋭利なものへの接触 12.7

9. 虫などにさされた・蛇などにかまれた 6.0 10. 犬などにかまれた 0.7

11. 暴行 0.3 12. 異物を飲んだ 0.0

13. その他(具体的に: _____ 記入あり=34件) 12.7

無回答

4.0

問1-3. ケガをした時は何をしていましたか。(○はひとつ)

1. 通勤を含む仕事 25.3 2. 通学を含む教育活動 1.7 3. 食事 2.3

4. 買い物を含む家事 19.7 5. 運動・スポーツ 9.7 6. 散歩 4.3

7. 入浴 2.0 8. 趣味・遊び・飲酒・飲食を含む余暇活動 11.0

9. ボランティアなどの奉仕活動 1.7

10. その他(具体的に: _____ 記入あり=55件) 18.3

無回答

4.7

質問は次ページへ続きます。

問1-4. ケガをした場所は、どこでしたか。(○はひとつ)

1. 自宅(居間) 11.0 2. 自宅(寝室) 2.0 3. 自宅(風呂) 2.3 4. 自宅(1~3以外) 23.3
5. 学校 2.0 6. 勤務先 11.0 7. 仕事先の現場 8.3 8. 農地・林地 1.0
9. 公園 1.7 10. 駅・バス停 0.3 11. 商業・飲食・娯楽施設 1.3
12. スポーツ施設 6.0 13. 道路・歩道 14.3 14. その他(具体的に: 記入あり=29件) 11.0
無回答 5.3

問1-5. ケガをした状況・きっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 段差や物でつまづいた 16.7 2. 濡れた場所で滑った 5.0 3. バランスを崩した 17.3
4. あわてた 11.7 5. 酔っ払った 0.7 6. ぶつかった 11.7
7. よそ見・わき見をした 6.3 8. 考え事をしていた 5.0 9. 操作を誤った 7.7
10. 飛び出した 0.0 11. 身を乗り出した 0.0
12. その他(具体的に: 記入あり=68件) 25.3
無回答 7.0

問1-6. 受けたケガに関与したモノがあれば、それは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 段差や石 19.7 2. 靴・履物 5.3 3. 濡れた床 4.0 4. 自転車 3.7 5. 自動車 6.7
6. ベッド 0.3 7. ドア・扉 6.3 8. 家具・家電 6.3 9. 遊具 0.7 10. 調理器具 8.3
11. カッターや鋭利な物 5.0 12. その他(具体的に: 記入あり=70件) 24.7
無回答 17.3

問1-7. ケガをした部位(からだの場所)はどこですか。(○はひとつ)

*一番ひどく、傷の深かった部位や骨折、出血した部位を選んで○をつけて下さい。

1. あたま(顔、目、鼻、耳、口内等) 8.3 2. 首 4.3 3. うで(手、手首、ひじ等) 39.3
4. 肩 2.0 5. 胸部 2.7 6. 背中 2.3 7. 腹部 0.7 8. 腰部 6.0
9. あし(足、足首、ひざ等) 37.7 10. その他(具体的に: 記入あり=2件) 0.7
無回答 0.0

問1-8. どのようなケガでしたか。(○はひとつ)

1. 脳挫傷・脳しんとう 1.0 2. 骨折 10.0 3. ヤケド 6.7
4. 脱臼 0.3 5. 捻挫 11.7 6. 打撲 31.7
7. 刺し傷・切り傷 15.0 8. すり傷・ひっかき傷 16.0
9. 中毒・誤飲 0.0 10. その他(具体的に: 記入あり=26件) 9.3
無回答 5.7

問2. あなたの日常生活における安全対策に関する質問です。以下の選択肢の中で、実践している項目に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 自転車に乗るときは、ヘルメットを着用している [0.7]
 2. 自動車や自転車を運転する際は、安全確認を怠らないようにしている [75.9]
 3. 交通ルール・マナーを理解し、いつも遵守するよう心がけている [74.9]
 4. 室内の電気コード類は、まとめて壁際に寄せたり束ねている [32.6]
 5. 階段や廊下、浴室などに手すりを設置している [27.1]
 6. 階段や浴室にすべり止めを設置している [10.5]
 7. 室内や廊下などで段差解消をしている [18.4]
 8. 体力や健康増進のための運動をしている [35.6]
 9. 転落防止の柵などを設置している [3.9]
 10. 調理中など熱い物に触れる時は、鍋つかみ等の耐熱用具を使用している [45.2]
 11. 部屋のドアを固定するなど挟み防止をしている [8.6]
 12. 地震対策として、家具止めを使用している [8.9]
 13. 住宅用火災警報器を設置している [54.4]
 14. 災害時に備え、非常持出品や水・食料等の備蓄をしている [12.8]
 15. 「選択肢1～14」のような対策はしていない [2.2]
- 無回答 [6.3]

質問は次ページへ続きます。

2「交通安全」について

問3. あなたの主な移動手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自動車、バイク 76.1
2. 自転車 23.6
3. 徒歩 (タクシー、公共交通機関を含む) 31.6
4. その他 (具体的に: 記入あり=6件 0.5
無回答 4.6

問4. 交通安全に関する質問です。以下の選択肢の中で、あなたが普段実践している項目に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 飲酒の翌日に自動車や自転車を運転する予定がある時は飲酒量、飲酒時間に気をつける 40.7
2. 自動車を運転する時は、子どもや高齢者に注意を払い運転をする 74.2
3. 自動車を運転する時は、携帯電話やカーナビ等の操作を行わない 51.3
4. 自動車を運転する時は、全員のシートベルト着用の確認をする 42.6
5. 自動車を夕暮れ時に運転する時は、早めにライトを点灯する 61.9
6. 自転車を運転する時は、主に車道を通行する 16.5
7. 自転車で車道を通行する時は、道路の左側を通行する 34.9
8. 自転車を運転する時は、並列走行をしない 34.5
9. 自転車で歩道を走行する時は、歩行者優先を心がけ、車道よりを走行する 29.9
10. 自転車を運転する時は、ながら運転 (かさ差し、音楽、携帯電話など) をしない 33.6
11. 自転車を夜間に運転する時は、ライトを点灯する 39.3
12. 子どもが自転車を運転する時は、ヘルメットを着用させる 6.7
13. 自転車や徒歩で道路を横断する時は、必ず止まって、左右をよく見て車の通過や停止を待って渡る 49.6
14. 道路を横断する時は、横断歩道や横断歩道橋を渡る 49.7
15. 夜間・夕暮れ時に自転車や徒歩で外出する時は、交通事故回避のため明るい服や反射材を着用する 14.5
無回答 6.8

3「幼児・児童と保護者の状況」について

○家族の中に、0～15歳未満の子どもがいる場合→聞き取りの上、回答をお願いします。

(2人以上いる方は、年齢が一番下のお子さんについてお答え下さい。)

○家族の中に、0～15歳未満の子どもがいない場合→4「高齢者の状況」へ

問5. お子さんの年齢（平成26年10月1日時点）をご記入下さい。

平均 6.6 歳

問6. 過去1年間に、お子さんが自宅で、ケガをした状況についてお答え下さい。

その際、周りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。

(あてはまるものすべてに○)

ケガをした状況	該当する もの全て に○	→0の場合のみ、以下にお答えください	
		大人がいた 場合に○	医療機関に行 った場合に○
1. ベットや椅子などから転落	9.3	86.8	10.5
2. ベランダや窓の手すりを乗り越えるなどの高所からの転落	0.0	0.0	0.0
3. 階段からの転落	3.4	71.4	14.3
4. たばこやおもちゃなど異物の誤飲	1.5	100.0	0.0
5. 就寝中の窒息	0.0	0.0	0.0
6. 火気や熱湯、暖房器具などの接触によるヤケド	2.5	100.0	30.0
7. 入浴中の溺水	1.0	100.0	0.0
8. 廊下や浴室などでの転倒	5.2	76.2	9.5
9. 刃物や鋭利なものによるケガ	2.0	62.5	12.5
10. 家具や物、人などに体をぶつけるなどの衝突	14.3	75.9	13.8
11. ドアや窓、家具などに挟まれたケガ	4.7	89.5	5.3
12. 動物や虫などに咬まれたケガ	2.9	66.7	50.0
13. その他（具体的に： 記入あり=15件 ）	3.7	46.7	33.3
14. ケガはしていない	41.8		

無回答

30.7

質問は次ページへ続きます。

問7. 家庭内の安全対策に関する質問です。知っていたり、聞いたことがある項目の欄に○をつけてください。さらに、そのうち実践しているものに○をつけてください。
(あてはまるものすべてに○)

安全用品	知っている 聞いたことがある	実践している
1. 家具の角にかぶせものをする	60.0	17.9
2. たんすや食器棚、流し台のドアが開かないように固定する	57.5	17.7
3. 部屋のドアを固定し急に閉じないようにする	39.3	19.2
4. 窓を固定し窓から出られないようにする	29.0	9.1
5. コンセントカバー等を使用して感電を防止する	47.4	19.4
6. コード類は束ねてつまづかないようにする	43.0	33.4
7. 家電等のスイッチを勝手に入れられないようにする	27.8	10.8
8. 子ども用の便座や蓋を使用してトイレの中に落ちないようにする	37.3	21.9
9. 浴槽の床にマット等を敷きすべらないようにする	43.5	21.9
10. 階段や段差に柵をして転落しないようにする	42.0	12.0
11. その他、実践していることがあれば具体的に：()	記入あり=20件	4.9

無回答

15.5

問8. 過去1年間に、お子さんが久留米市内(自宅を除く)で、事故にあったり、ケガをした状況についてお答え下さい。その際、周りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。(あてはまるものすべてに○)

ケガをした状況	該当するもの全てに○	→○の場合のみ、以下にお答えください	
		大人がいた場合に○	医療機関に行った場合に○
1. 川やプールなどでの溺水	0.5	100.0	50.0
2. 交通事故(徒歩、自転車、自動車の乗車中)	2.7	45.5	54.5
3. 道路や歩道を歩いているの転倒	9.6	61.5	10.3
4. 公園の遊具(ブランコ、すべり台など)で遊んでいるのケガ	4.7	52.6	21.1
5. 動物や虫などに咬まれたケガ	3.7	46.7	53.3
6. 人や物(電柱など)に衝突	1.7	85.7	14.3
7. 階段や高所からの転落	1.7	85.7	28.6
8. 建物や電車のドアに挟まれたケガ	1.0	50.0	25.0
9. 学校(校舎、体育館などの屋内)でのケガ(クラブ活動中も含む)	10.1	53.7	43.9
10. 学校(グラウンド、プールなどの屋外)でのケガ(クラブ活動中も含む)	8.4	35.3	32.4
11. 保育園・幼稚園でのケガ	8.4	79.4	17.6
12. いじめによるケガ	0.5	0.0	0.0
13. その他(具体的に: 記入あり=7件)	1.7	71.4	42.9
14. ケガはしていない	37.1		

無回答

30.5

質問は次ページへ続きます。

4 「高齢者の状況」について

○あなた自身が満65歳以上の場合→あなた自身のことについてお答え下さい。

○あなた自身が満64歳以下の場合

- ・ご家族に満65歳以上の方がいる→その方（複数の場合は、最高齢の方）のことについて、お答え下さい。
- ・ご家族に満65歳以上の方がいない→アンケートは終了です。

問9. 対象となる高齢者の方は宛名のご本人ですか。(○はひとつ)

1. いいえ 46.3

2. はい ⇒ 「2. はい」と回答された方は、問10へ

51.5 無回答 2.1

「1. いいえ」と回答された方はお答え下さい。

無回答 9.7

問9-1. 対象となる高齢者の方の性別は。(○はひとつ) 1. 男性 39.9 2. 女性 50.3

問9-2. 対象となる高齢者の方の年齢（平成26年10月1日時点）は。 平均 74.3 歳

問10. 対象となる高齢者の方は、要介護認定をお持ちですか。(○はひとつ)

1. 要介護（要介護5～1） 11.5 2. 要支援（要支援2～1） 4.3

3. 申請したが非該当 0.5 4. 要介護認定の申請をしていない 67.0

無回答 16.8

問11. 対象となる高齢者の方は、普段、転倒（転ぶ・倒れる・転落する）することに対して不安感がありますか。(○はひとつ)

1. 不安を感じる 22.5 2. やや不安を感じる 22.6

3. あまり不安を感じない 20.0 4. 不安を感じない 25.8

無回答 9.1

問 12. 対象となる高齢者の方の転倒防止のために、工夫していることがありますか。

(○はひとつ)

1. ある [45.9] 無回答 [8.5]
2. ない ⇒ 「2. ない」と回答された方は、問 13 へ
[45.5]

「1. ある」と回答された方はお答え下さい。

問 12-1. 転倒防止のために工夫している項目に○をつけてください。

(あてはまるものすべてに○)

1. 住宅をバリアフリーを配慮して建てた (選んだ) [12.6]
2. 玄関や段差がある所にスロープを設置している [8.9]
3. 風呂やトイレ、廊下等に手すりを設置している [24.8]
4. ベッド等に補助器具を付けている [6.4]
5. 常に足元に注意しながら、前をよく見て、急がずに歩いている [21.2]
6. 外出する時、杖や押し車を使用している [12.8]
7. ウォーキングやランニングをしている [16.5]
8. 転倒防止や体力維持、健康のための体操をしている [13.6]
9. バランスを考えながら、しっかりと食事を摂っている [23.0]
10. 手すりや壁などを利用して、立ったり移動したりするようにしている [13.6]
11. その他 (具体的に: 記入あり=22 件) [2.9]
無回答 [1.2]

問 13. 対象となる高齢者の方は、過去 1 年間に、自宅で転倒した経験がありますか。該当するものに○をしてください。(○はひとつ)

1. ある [14.2]
2. 危なく転倒するところだった [6.9]
3. ない ⇒ 「3. ない」と回答された方は問 14 へ 無回答 [9.1]
[69.8]

「1. ある」「2. 危なく転倒するところだった」と回答された方はお答え下さい。

(複数ある場合は、最も重症なものについてお答えください。)

問 13-1. 場所はどこですか。(○はひとつ)

1. 階段 [12.6] 2. 居間 [17.0] 3. 寝室 [16.4] 4. 台所 [3.8] 5. 玄関 [17.0]
6. 勝手口や縁側などの出入り口 [13.8] 7. 浴室 [5.7] 8. 脱衣所 [2.5]
9. その他 (具体的に: 記入あり=26 件) [18.2]
無回答 [5.0]

問 13-2. ケガはしましたか。ケガをした方はケガの内容についてお答え下さい。(○はひとつ)

1. ケガはしなかった [37.1] 2. 骨折 [17.6] 3. 打撲 [19.5] 4. すり傷・切り傷 [15.7]
5. その他 (具体的に: 記入あり=4 件) [2.5]
無回答 [8.8]

問 14. 過去 1 年間に、対象となる高齢者の方は、歩行中や自転車に乗っている時に、事故にあった経験がありますか。該当するものに○をしてください。(○はひとつ)

1. ある 4.4
2. 危なく事故になるところだった 2.4 無回答 5.9
3. ない ⇒ **「3. ない」と回答された方はアンケート終了です。**
 87.4

「1. ある」「2. 危なく事故になるところだった」と回答された方はお答え下さい。

(複数ある場合は、最も重大なものについてお答えください。)

問 14-1. それはいつですか。(○はひとつ)

1. 歩行中 52.9
2. 自転車乗車中 41.2
無回答 5.9

問 14-2. その時、お酒を飲んでいましたか。

1. 飲んでいた 3.9
2. 飲んでいなかった 96.1

問 14-3. その時、薬(例：風邪薬や鎮痛剤など)を飲んでいましたか。

1. 飲んでいた 0.0
2. 飲んでいなかった 98.0 無回答 2.0

問 14-4. その原因は何ですか。(○はひとつ)

1. 自転車との接触、衝突 13.7
2. 自動車やバイクとの接触、衝突 9.8
3. 歩行者との接触、衝突 2.0
4. 看板や電柱などの障害物との接触、衝突 2.0
5. 階段・段差 15.7
6. 穴・凸凹・傾斜 17.6
7. ひとり相撲(自分だけで転んだ) 35.3
8. その他(具体的に 記入あり=5件) 9.8
無回答 0.0

以上で、「久留米市民のけがや事故などに関する実態調査」を終了します。

ご協力ありがとうございました。

「久留米市民の事故やケガなどについての実態調査」
報告書

平成27年 3月

発行 久留米市 協働推進部 安全安心推進課

〒830-8520 福岡県久留米市城南町 15 番地 3
TEL 0942-30-9094
FAX 0942-30-9706